

金沢工業大学 御中

平成19年度 授業調査 報告書

2008.08.06

INDEX

<1> 本調査の全体像	2
<2> 基本的な分析	7
<3> 学年別の分析	15
<4> 学部・学科別の分析	21
<5> 科目区分別の分析	30
<6> 同一学生群の分析	38
<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8> 因子分析・回帰分析による分析	50
<9> 全体のまとめ	57

< 1 > 本調査の全体像

< 1-1 > 全体概略

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度から質問項目を変更しており、今回が3年目となるため、3年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。

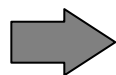
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容						
有効回答数	1年次生 2年次生 3年次生 Sクラス 合計有効回答数	44,848件 33,306件 22,772件 991件 101,917件	留年して平成19年度もCクラスである学生の回答が146件、同様にSクラスである学生の回答が367件あったが、これらを集計に加えると新旧の学科が混在してしまうため、CクラスとSクラスは集計から除外した。また、クラス未記入の回答も集計から除いた。				
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。						
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票	
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票	
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	(比較不可)	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票	
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055		
	平成19年度(今回)	35,723	33,919	32,275	101,917		
対象科目	658科目						
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ● 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ● 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 						
調査主体	学校法人 金沢工業大学						
集計	有限会社 アイ・ポイント						

3) 以前との設問の比較

旧アンケート内容(平成15～16年度)	
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



新アンケート内容(平成17年度以降)		場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

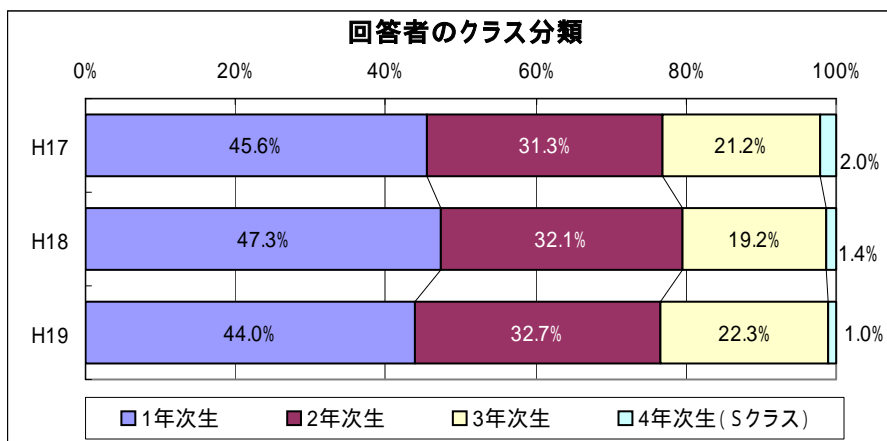
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問で以前との比較は行っていない。
- 設問の「D」「F」「H」「K」は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

4) 学部、学科別回答数

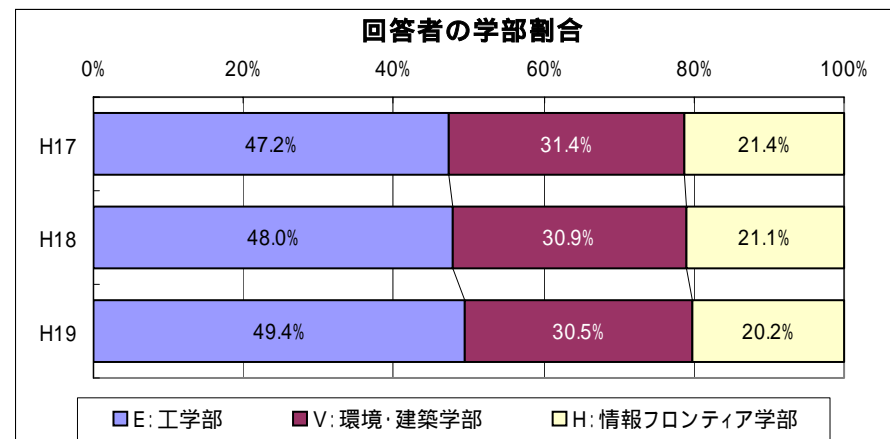
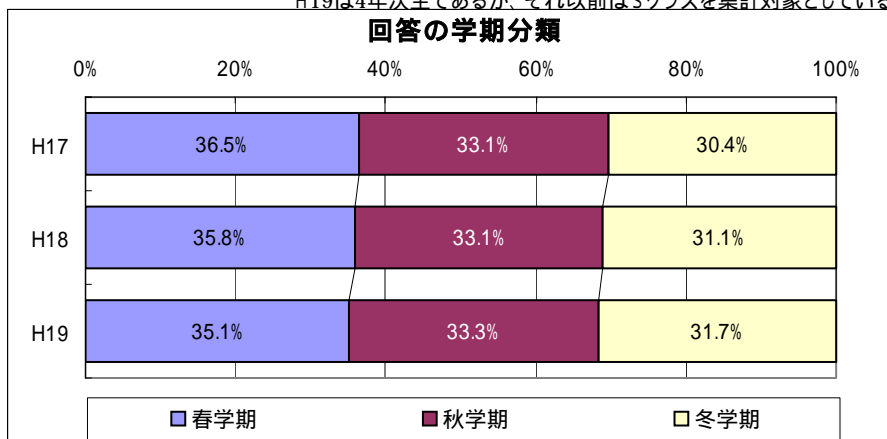
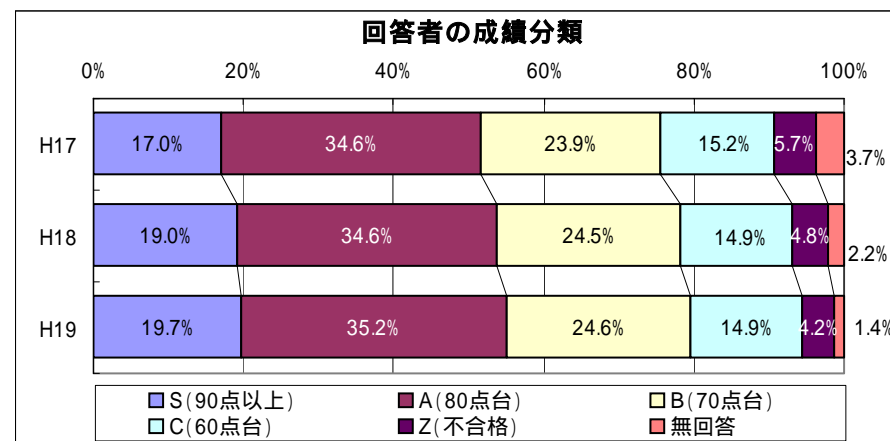
学部	学科	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
E:工学部	EM:機械工学科	6,306	23,802	3,076	15,674	2,321	10,340	84	499
	ER:ロボティクス学科	3,439		2,391		1,421		46	
	EA:航空システム工学科	1,574		939		819		16	
	EE:電気電子工学科	3,711		2,378		1,551		157	
	EI:情報通信工学科	2,194		1,828		1,090		80	
	EC:情報工学科	6,578		5,062		3,138		116	
V:環境・建築学部	VB:バイオ化学科	2,162	12,978	1,942	10,205	1,511	7,594	46	279
	VC:環境化学科	1,753		1,183		1,027		23	
	VE:環境土木工学科	2,082		1,810		1,975		109	
	VA:建築学科	4,586		3,094		2,037		62	
	VD:建築都市デザイン学科	2,395		2,176		1,044		39	
H:情報フロンティア学部	HM:メディア情報学科	3,793	8,068	2,751	7,427	1,725	4,838	60	213
	HB:生命情報学科	985		1,545		1,081		62	
	HP:心理情報学科	1,911		1,588		1,139		63	
	HS:情報マネジメント学科	1,379		1,543		893		28	
合計		44,848		33,306		22,772		991	

<1-2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者の基本属性は下記の通り。
- 学年では「1年次生」が44.0%、「2年次生」が32.7%、「3年次生」が22.3%であり、「4年次生」は1.0%という割合であった。H18と比べて「1年次生」がわずかに減少し、「3年次生」がやや増加していた。
- 学期毎の回答数は過去2回と比べてほとんど変化はなく、学期毎に約3割の回答数であった。
- 成績は「S」が19.7%、「A」が35.2%であり、成績上位者が半数を占めていた。そして、「B」が24.6%、「C」が14.9%と続いていた。
- 成績の時系列変化を見ると「S」がH17より継続的に増加し、「A」もわずかであるがH18より増加しており、年々、良い成績の割合が増加する傾向が見られた。
- 学部割合は「工学部」が49.4%と最も多く、次いで「環境・建築学部」「情報フロンティア学部」と続いている。経年変化を見ると「工学部」がやや増加し、「環境・建築学部」「情報フロンティア学部」がわずかに減少するという結果であった。



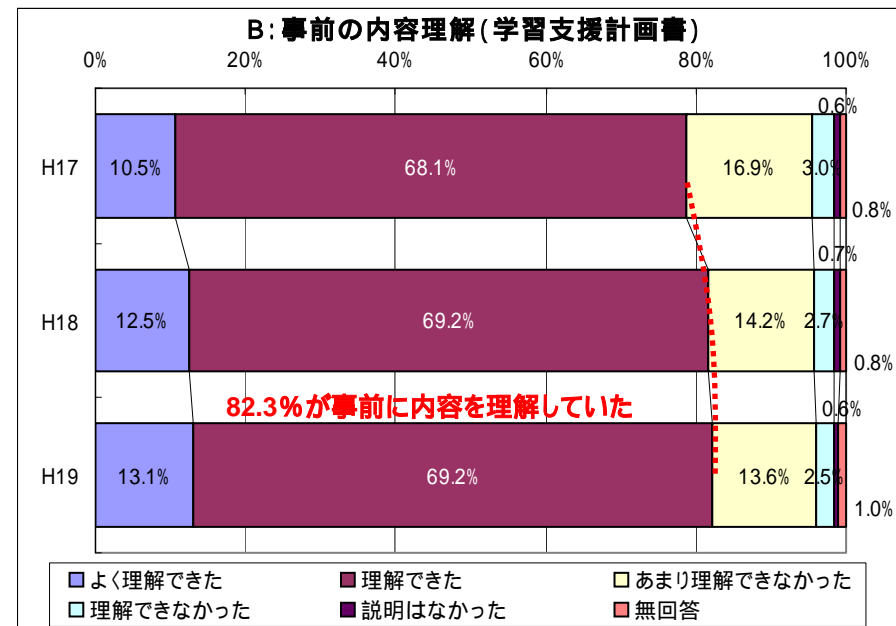
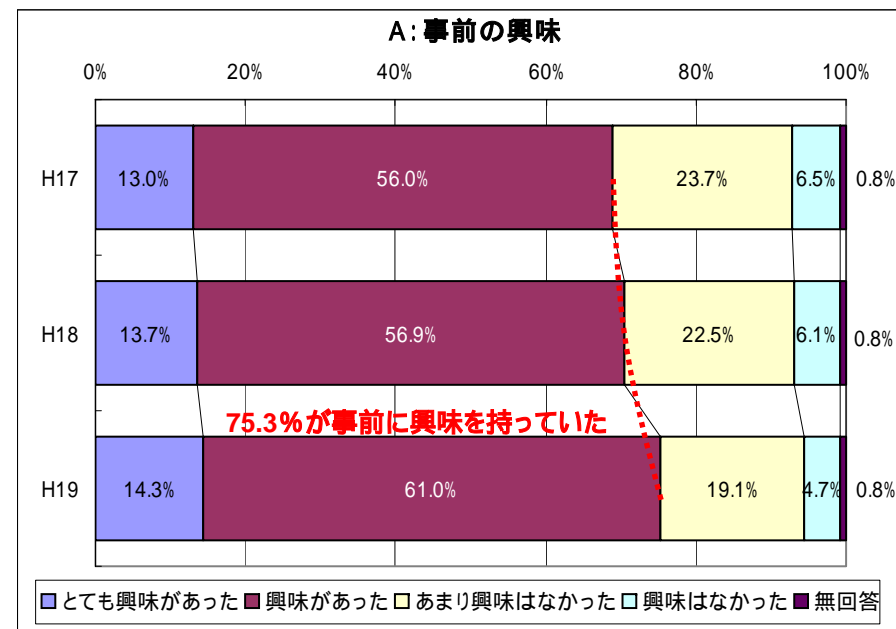
H19は4年次生であるが、それ以前はSクラスを集計対象としている。



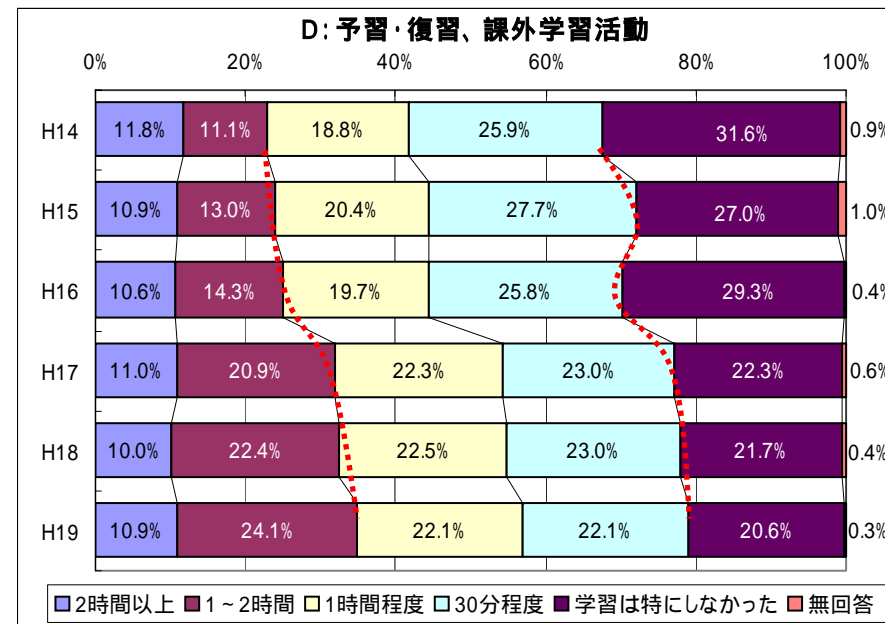
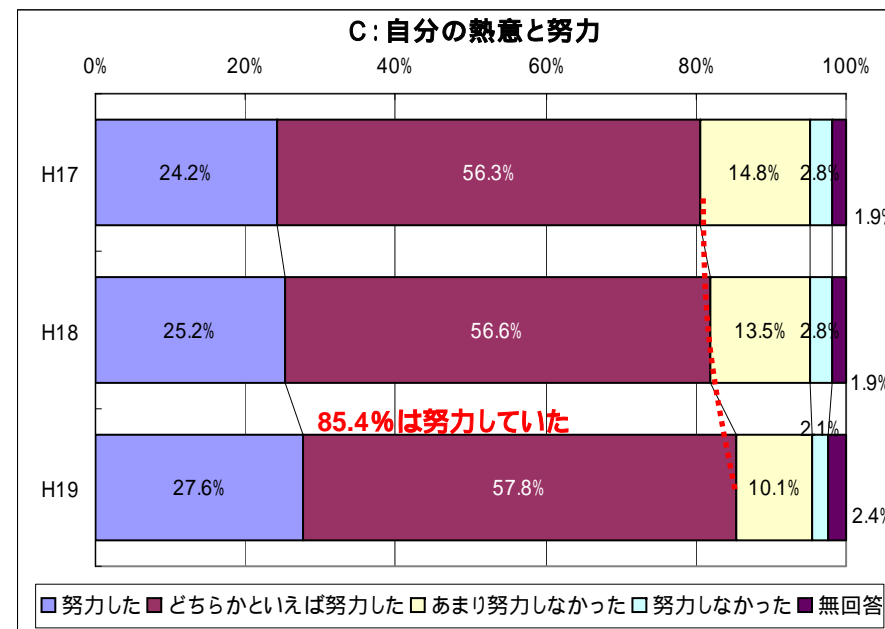
< 2 > 基本的な分析

< 2-1 > 全項目の基本集計と経年変化

- 「A:事前の興味」では14.3%が「とても興味があった」と答えており、「興味があった」の61.0%と合わせると75.3%は受講前に科目に興味を持っていたと言える。
- 経年変化では「とても興味があった」の増加はわずかであるが、「興味があった」が4.1ポイント増加しており、H17より継続的に事前に興味を持つ学生が増加していることが分かった。
- 「B:事前の内容理解」は「最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか」という質問であるが、「よく理解できた」が13.1%、「理解できた」が69.2%であり、合わせると82.3%の学生が事前に授業の内容を理解していたことが分かる。
- H18と比べると「理解できた」の割合は全く変わらなかったが、「よく理解できた」は0.6ポイント増加していた。
- H17からH18にかけては、事前に理解している割合が少し増加していたが、H18からH19にかけてはほとんど変わっていなかった。

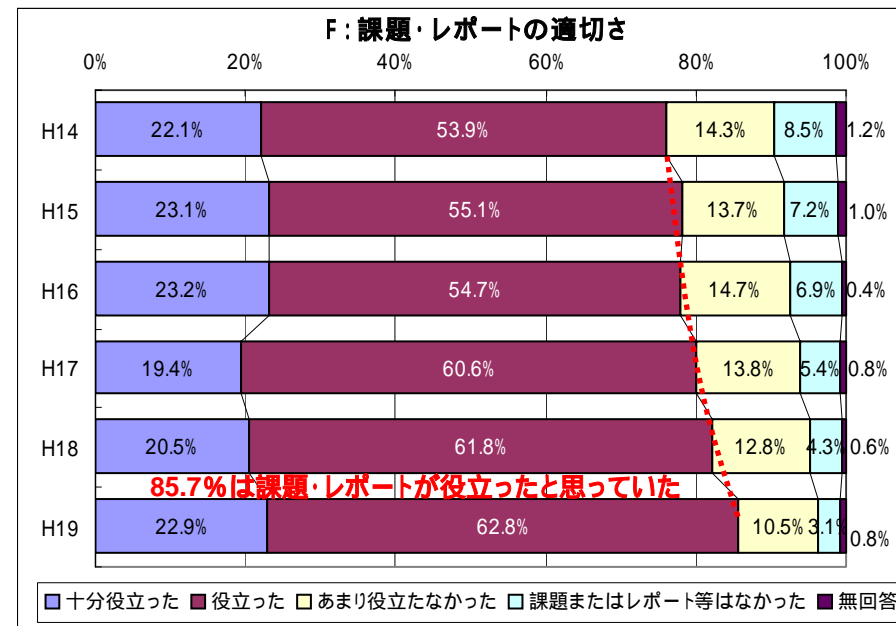
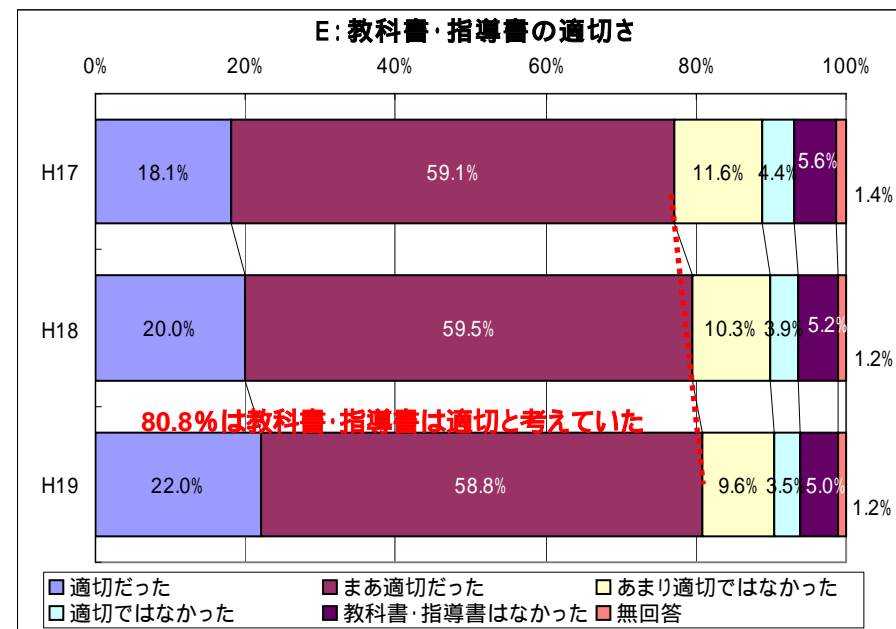


- 「C: 自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか」という質問であるが、27.6%は「努力した」と答えており、「どちらかといえば努力した」と合わせると85.4%は努力したと答えていた。
- 「努力した」という回答はH17から徐々に増加してきており、「努力した」「どちらかといえば努力した」を合わせたものはH17から80.5%、81.8%、85.4%と増加してきていた。
- 「D: 予習・復習、課外活動」の時間は「2時間以上」の10.9%から、「1～2時間」(24.1%)、「1時間程度」(22.1%)、「30分程度」(22.1%)と続いており、「学習は特にしなかった」が20.6%であった。
- この質問はH14からの変化を見ることができるが、「1～2時間」の割合が年々増加してきており、「2時間以上」と「1時間程度」はほぼ不変、「30分程度」はわずかに減少しており、全体を見ると授業のために何らかの予習・復習、課外学習を行っている割合は増加する傾向が見られた。
- 「学習は特にしなかった」の割合をH14と比べると、H19には11ポイント減少する結果となっていた。

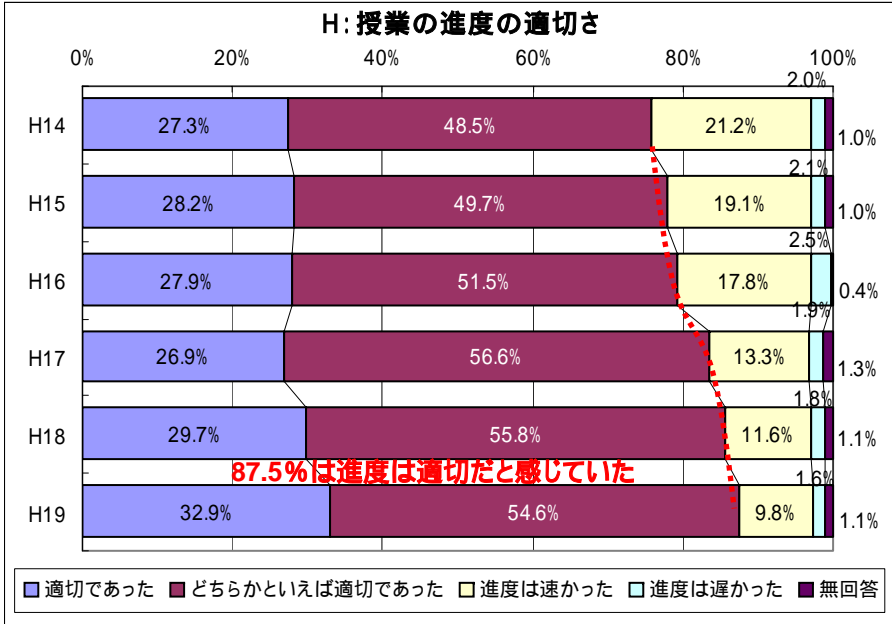
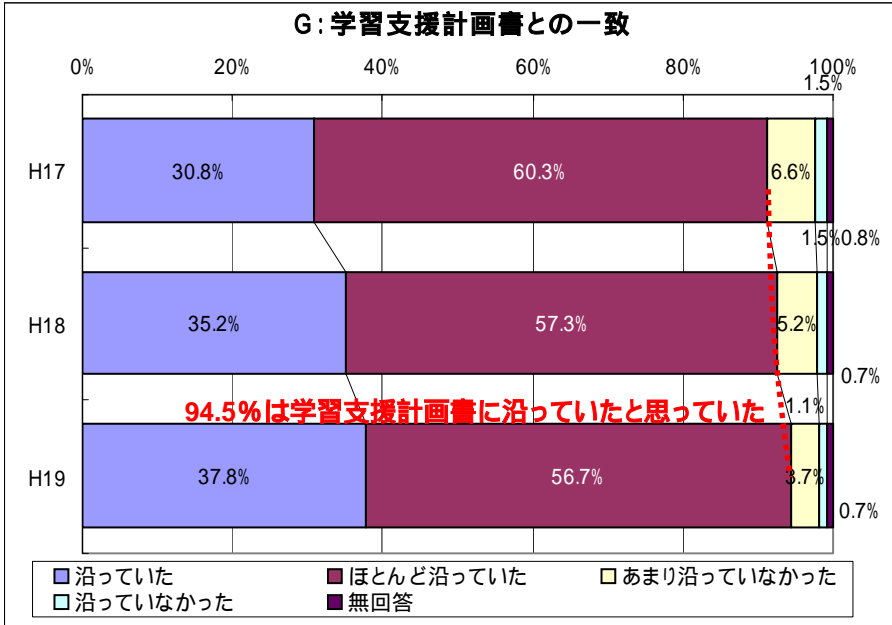


H16までの設問: 「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

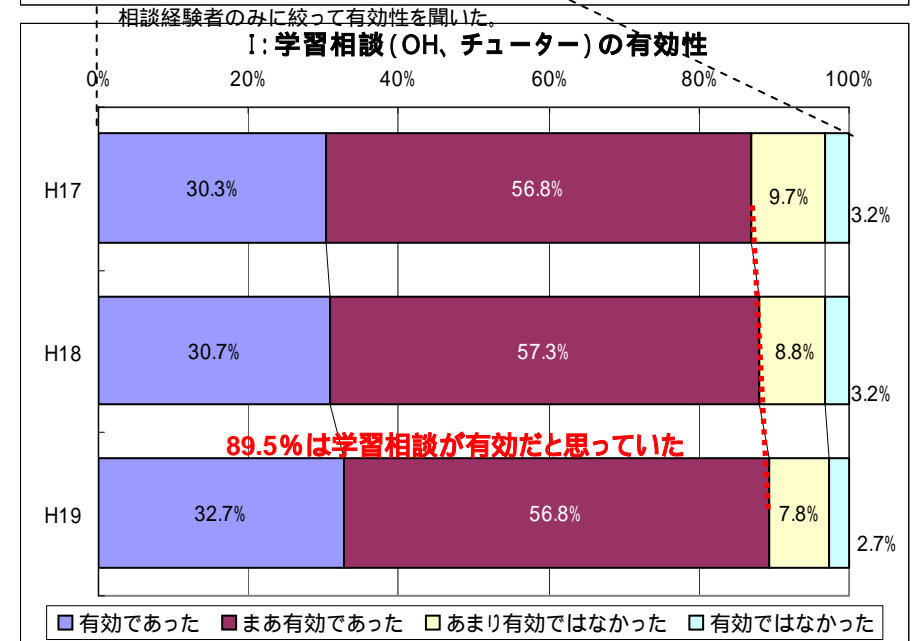
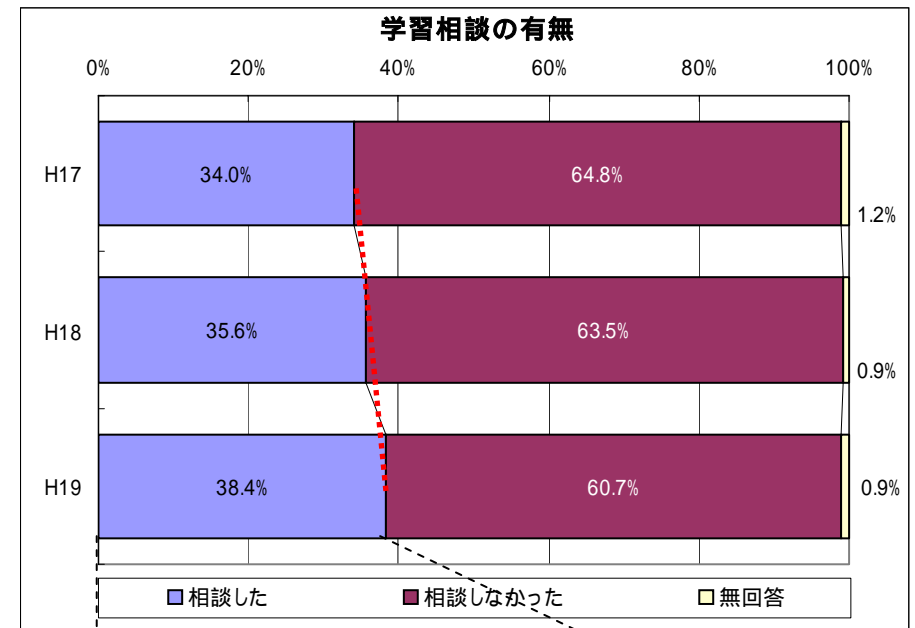
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では22.0%が「適切だった」、58.8%が「まあ適切だった」と答えており、合わせると80.8%は「教科書・指導書」が適切であると感じており、評価は高かった。
- 経年変化を見ると、わずかずつであるが評価は上がってきていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」では、「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか」と聞いているが、「十分役立った」が22.9%、「役立った」が62.8%であり、合わせると85.7%は「課題・レポート」は役立ったと感じており、評価は非常に高いと言える。
- 経年変化を見ると、「十分役立った」は調査票の設計を変更したH17にやや減っているが、「役立った」はH14よりほぼ継続的に増加してきており、結果的に年々評価が上がる傾向にあった。
- ここでは「課題またはレポート等はなかった」という選択肢も用意しているが、この割合は調査開始のH14に8.5%であったが、年々減少してH19には3.1%になっていた。カリキュラムや指導方法がどのように変わっていったかは不明であるが、この数値を見ると課題・レポートを課す科目が継続的に増加していると思われる。



- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか」と聞いているが、37.8%が「沿っていた」、56.7%が「ほとんど沿っていた」と答えており、合わせると94.5%が沿っていたと回答しており、非常に高い評価であった。
- H17にも91.1%が沿っていたと回答しており高い評価であったが、H18には92.5%、そして今回の94.5%へと続いており、年々評価が良くなっていることが確認できた。
- 「H:授業の進度の適切さ」に関しては、「適切であった」が32.9%、「どちらかといえば適切であった」が54.6%であり、合わせて87.5%は適切だと考えていた。そして、「進度が速かった」が9.8%、「進度は遅かった」が1.6%であり、不満を感じる意見の中では「速い」というものが多かった。
- 経年変化を見ると「適切であった」と「どちらかといえば適切であった」を合わせたものは年々増加してきており、授業の進度に関する評価は良くなってきていることが確認できた。
- 評価が良くなることで、不満足意見である「進度が速かった」は徐々に減少しており、H14から比べると11.4ポイント減少していた。「進度は遅かった」という意見はほとんど変化が見られなかった。



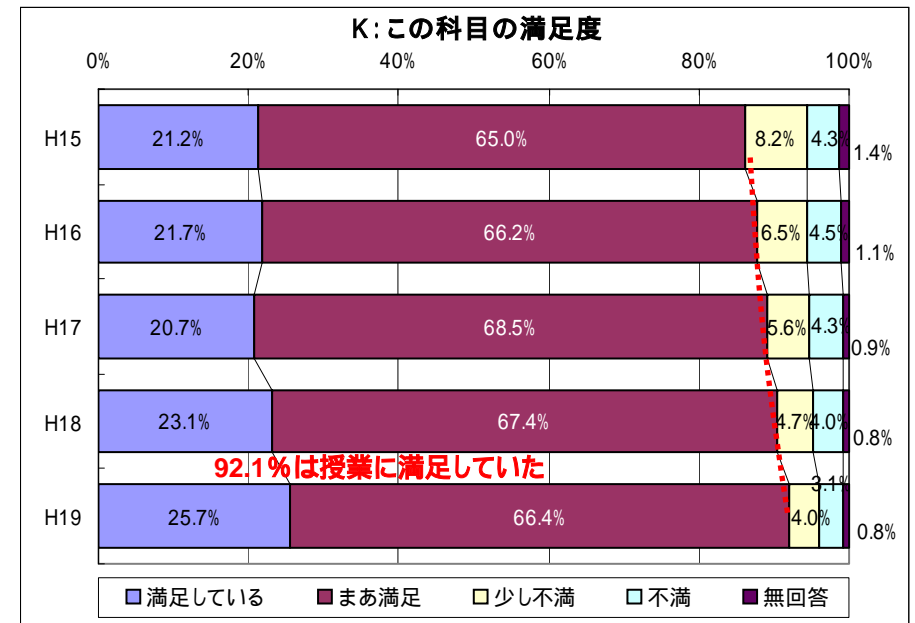
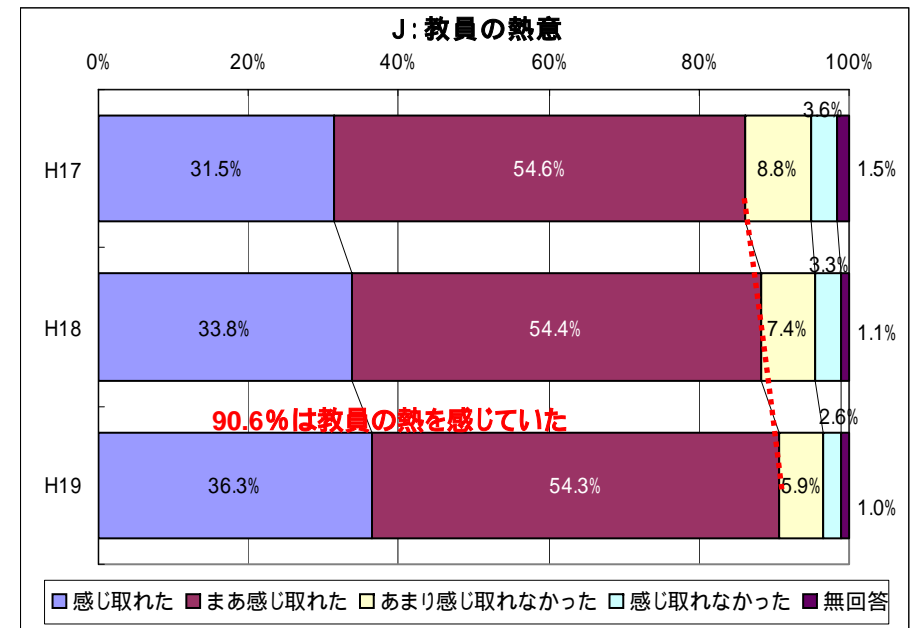
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか」と聞いているが、ここでは「学習相談の有無」と「有効性」を分けて分析している。
- 「学習相談の有無」を見ると38.4%が「相談した」と答えており、「相談しなかった」が60.7%と過半数を占めていた。しかし、「相談した」の割合は年々増加してきており、徐々にではあるが利用促進が進んでいると言える。
- 「有効性」に関しては、32.7%が「有効であった」、56.8%が「まあ有効であった」と答えており、学習相談を利用した学生の89.5%は、内容が有効であったと評価していることが分かった。
- 内容が有効であるという意見も年々増加してきており、利用促進と共に内容の充実も進んでいることが分かった。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか」と聞いているが、「感じ取れた」が36.3%、「まあ感じ取れた」が54.3%であり、合わせると90.6%は教員の熱意を感じていたことが確認できた。
- 経年変化を見ると、「まあ感じ取れた」は3年の間ほぼ不変であったが、「感じ取れた」は2ポイントほど増加してきており、年々教員の熱意を感じる学生が増加してきていると予想できそうであった。
- 「K:この科目の満足度」は最終的な科目の評価となるが、「満足している」が25.7%、「まあ満足」が66.4%であり、合わせると92.1%が満足と答えており、満足度は非常に高いと言える。
- 「満足している」だけを見るとH17から年々3ポイントほど増加してきており、「まあ満足」と合わせた肯定的な評価も調査開始以来、1～2ポイントの間で増加を続けている。授業の満足度は年々、確実に上がってきていることが分かった。

満足している層の経年変化

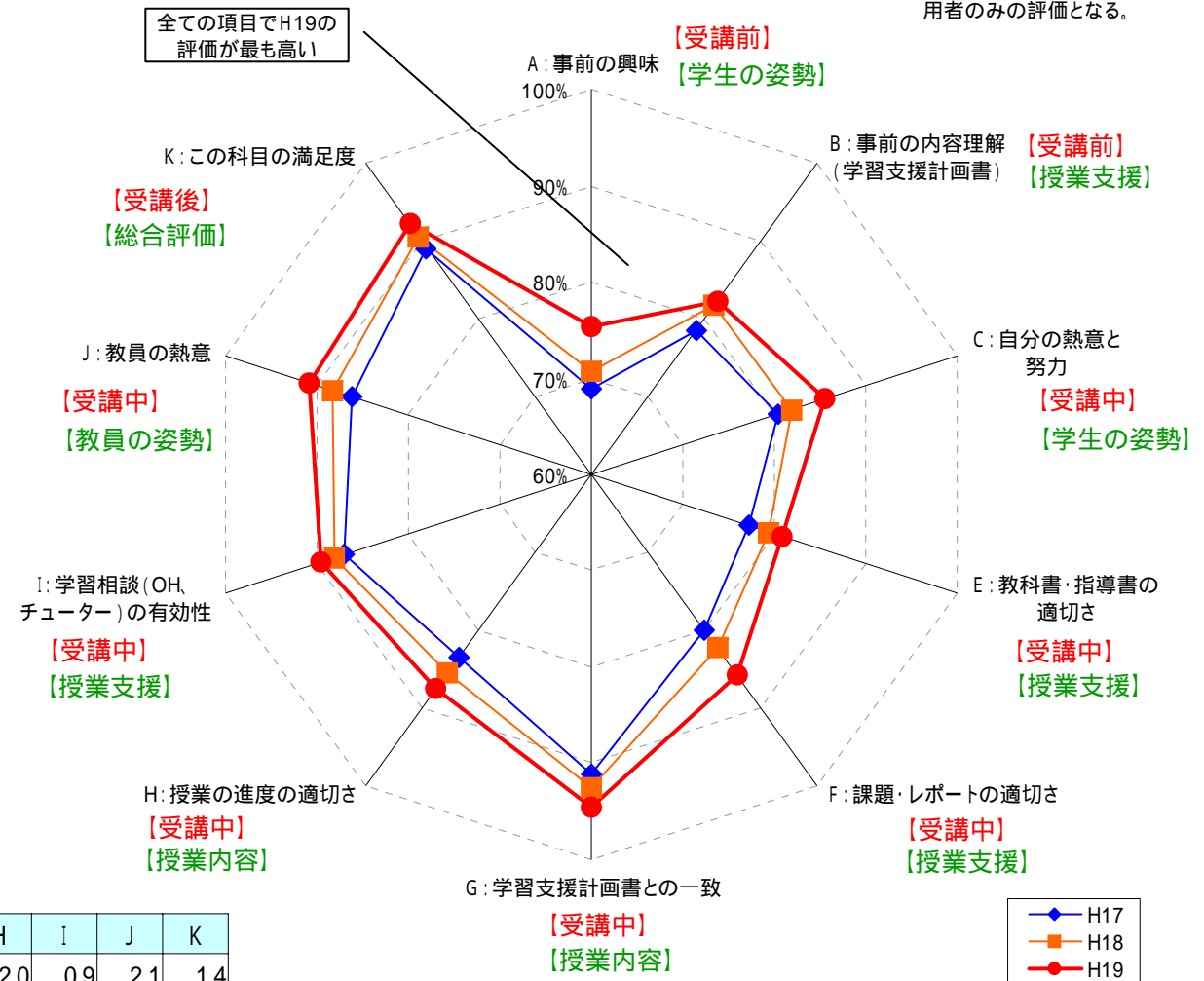
年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	-
H16	87.9%	+ 1.7
H17	89.1%	+ 1.3
H18	90.5%	+ 1.4
H19(今回)	92.1%	+ 1.5



<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 各設問の肯定的な意見を合わせた割合をレーダーチャートにまとめたが、肯定的な意見としてまとめることができない「D: 予習、復習、課外活動」は除外しており、「I: 学習相談の有効性」は利用者からのみの評価をプロットしている。
- 前項までに個別の項目の経年変化を見ているが、ここでもH17からH19にかけて肯定的な意見が増加していることが確認できた。
- 項目同士の比較をすると、「A: 事前の興味」の低い点が目立っており、「B: 事前の内容理解」と共に低めであり、「受講前の準備の段階で興味を持たず、どのような授業なのかがよく理解できていない」という状況がうかがえる。
- 一方、「G: 学習支援計画書との一致」「I: 学習相談の有効性」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」は肯定的な意見がほぼ90%を超えており、「授業の進め方や学習相談は評価が高く、教員の熱意も伝わっており、満足している学生も9割を超える」と言える。
- H18からH19の肯定的な意見の差を見ると、「A: 事前の興味」が4.7ポイント増加しており、まだまだ事前に興味を持つ学生は少ないものの、大きく増加してきていると言える。

比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート



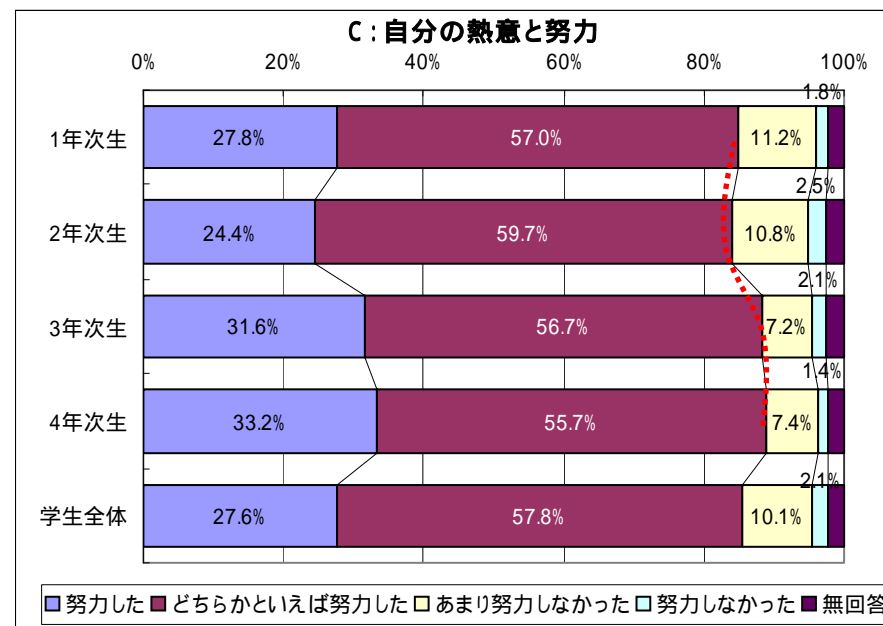
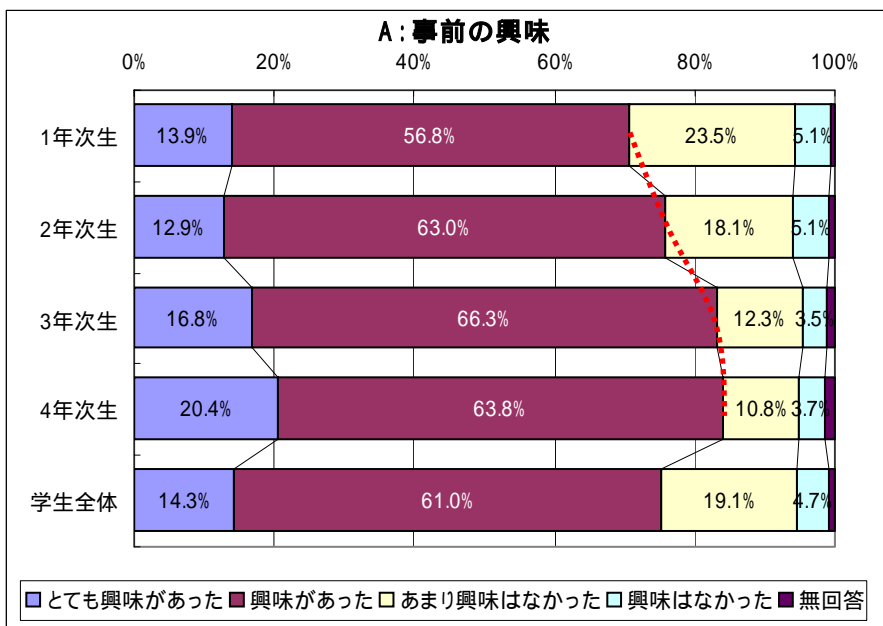
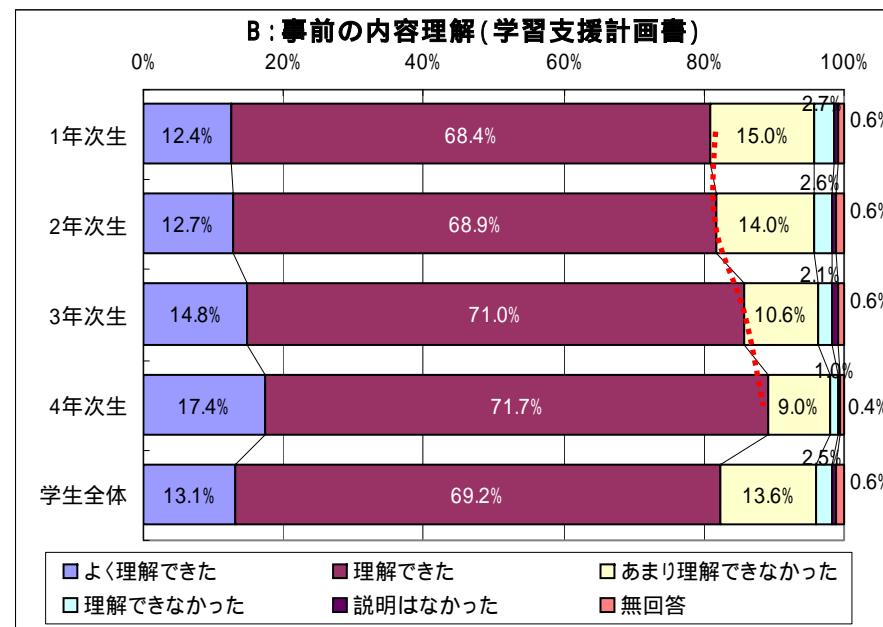
肯定的な意見の差 (単位: ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5

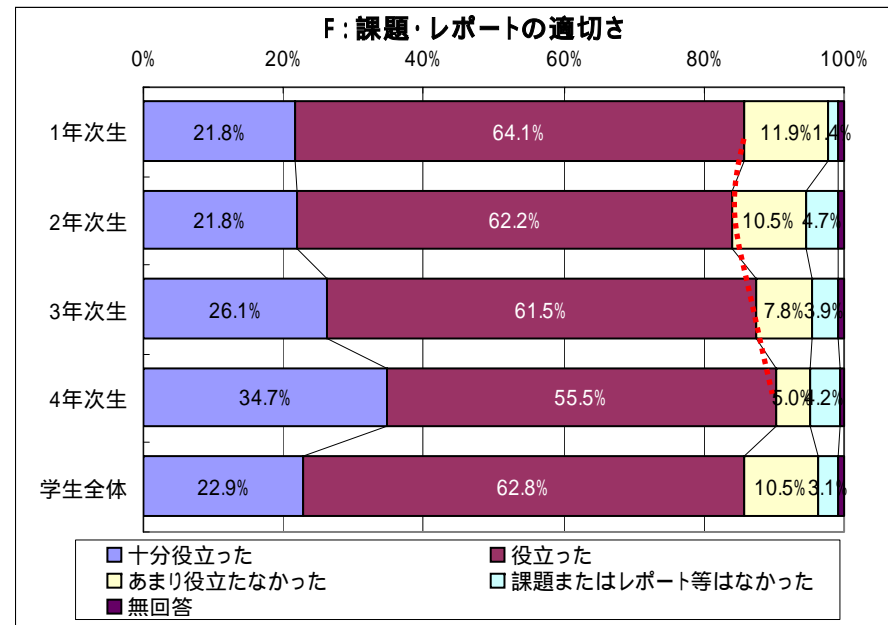
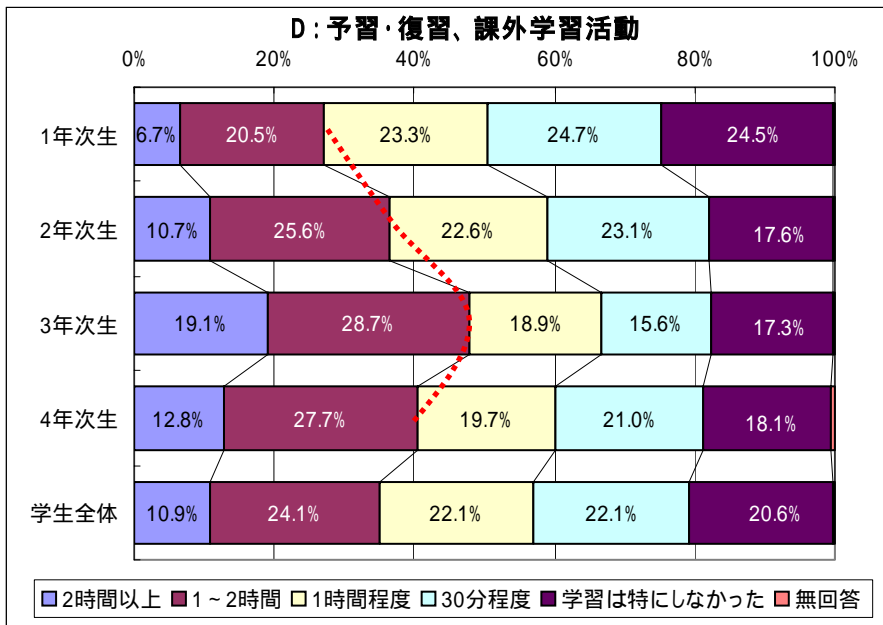
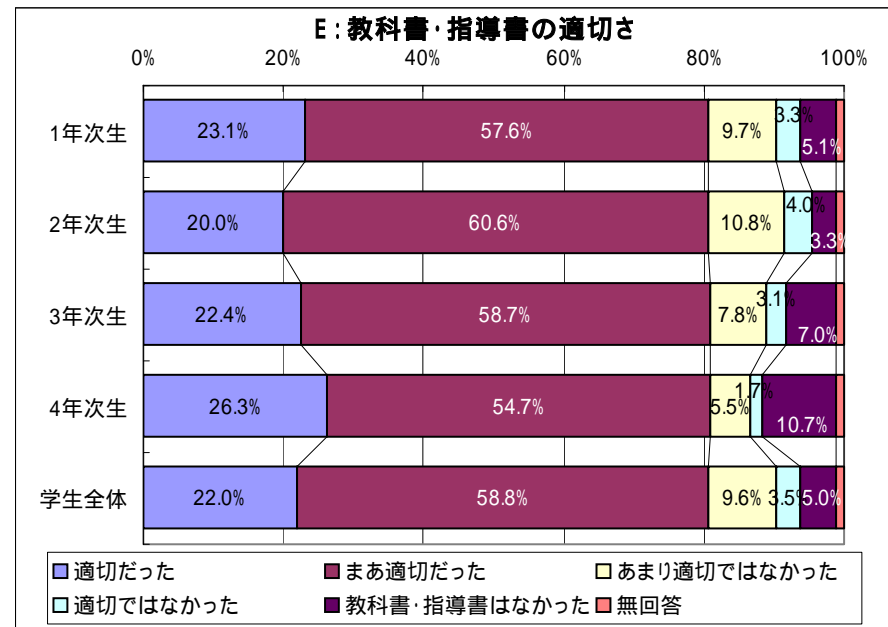
< 3 > 学年別の分析

< 3-1 > 学年別の比較

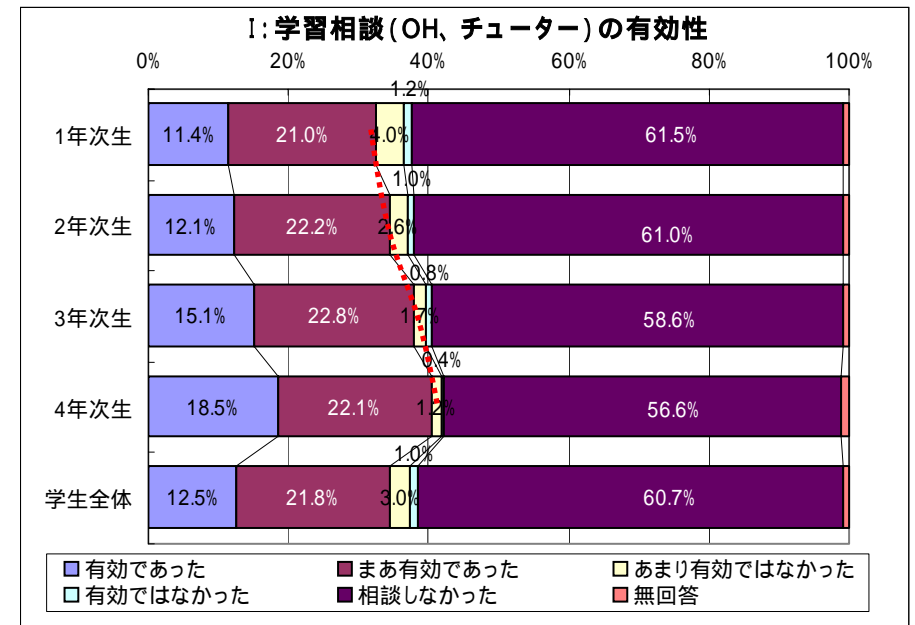
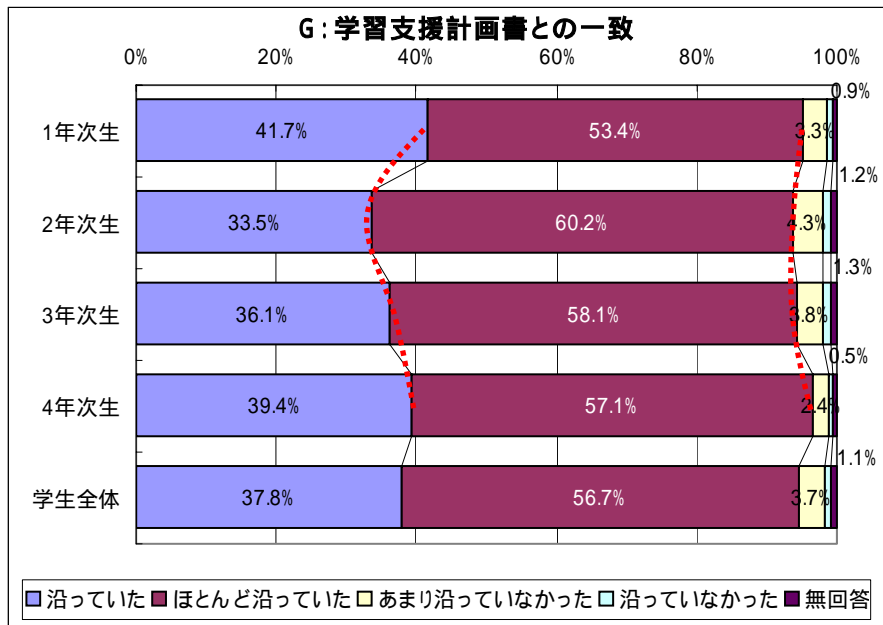
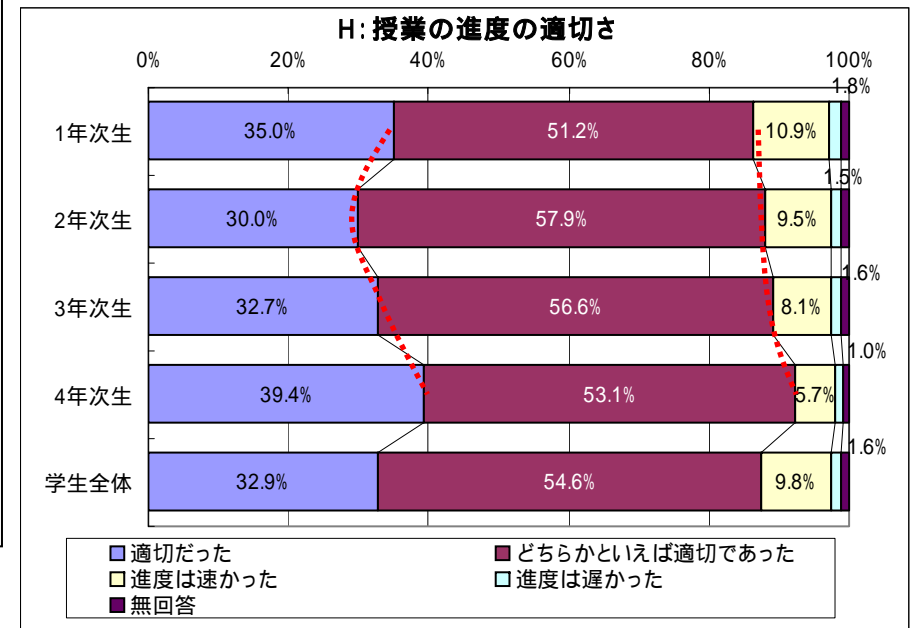
- 今回の回答者の学年別の比較を行うと、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」は学年が上がるほど肯定的な意見が多くなっていることが確認できた。
- 「A:事前の興味」では、「1年次生」で肯定的な意見が約7割と最も少なかった。低学年は授業に対して事前の興味があまり持てていないが、高学年になるほど、事前に興味を持って取り組んでいるようであった。
- 「B:事前の内容理解」は「A:事前の興味」ほど学年による差が大きいがないが、高学年になるほど事前に授業の内容を理解して受けている傾向があり、「学習支援計画書」の使い方や大学での授業のあり方に慣れてきているものと思われる。
- 「C:自分の熱意と努力」は学年による差が小さく、授業に対する取り組み姿勢は学年との相関関係がないことが分かった。
- 「C:自分の熱意と努力」は「2年次生」が低かったが、これ以降の項目でもいくつかで同じ傾向が見られ、「2年次生」でややモチベーションが低下している傾向がうかがえた。



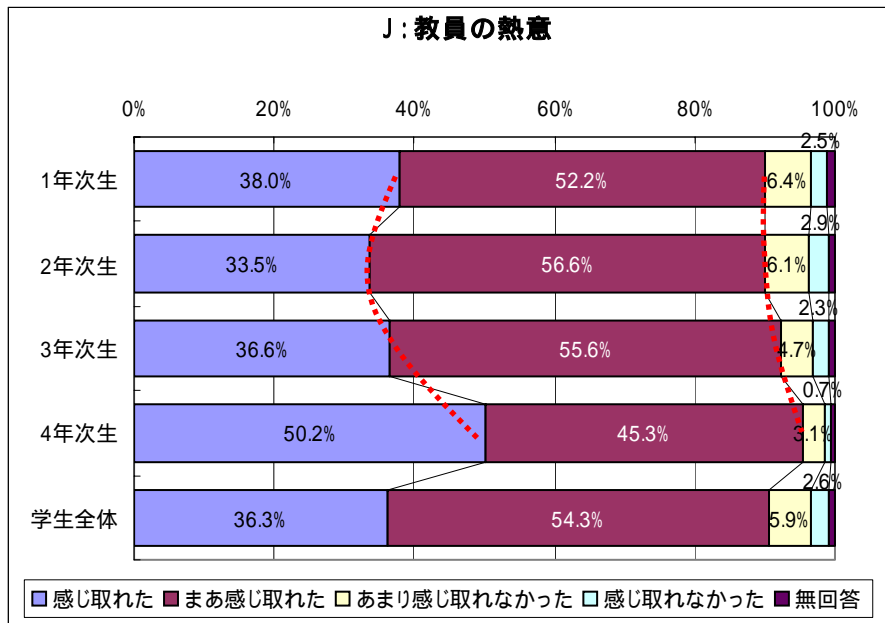
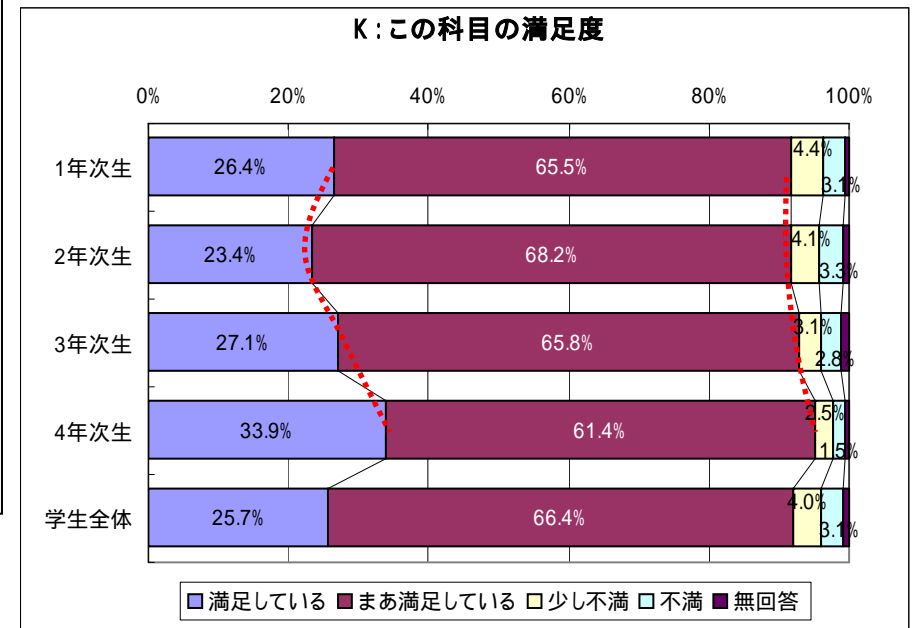
- 「D:予習・復習、課外学習活動」では、「3年次生」が最も時間をとって学習していることが分かった。「2時間以上」と「1～2時間」の合計を見ると、「1年次生」で27.2%、「2年次生」で36.3%、「3年次生」で47.8%と大きな差が見られた。「4年次生」は再履修などが含まれるためか充てられている時間は短く、「2年次生」より少し長い程度であった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では、「適切だった」だけの割合は学年によって6ポイントほどの差があるが、「まあ適切だった」までを合わせたもので比較すると学年による差はほとんど見られず、どの学年においても約8割は教科書・指導書に満足していることが確認できた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」では、「十分役立った」は高学年になるほど高かったが、「役立った」までを合わせたもので比較すると差はほとんどなかった。大きな差ではないものの、「2年次生」の評価はやや厳しく、「4年次生」が良い評価をする傾向が見られた。



- 「G:学習支援計画書との一致」の評価は非常に高く、「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」を合わせたものは全ての学年で95%前後であり、差は見られなかった。ただし、「沿っていた」だけを見ると「1年次生」の評価が高く、「1年次生」の授業はしっかりと学習支援計画書に沿って行われていると見ることができる。
- 「H:授業の進度の適切さ」で「適切だった」と「どちらかといえば適切だった」を合わせたものを見ると、差はそれほど大きくないが高学年ほど肯定的な意見が多いことが確認できた。個別の学年で見ると、「1年次生」は「適切だった」は多いものの「進度は速かった」も多めであり、進度は適切だったと評価する学生がいる一方で、速くてついていけないと感じている学生も多くいることが分かった。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」の割合から見てみると、高学年ほど利用率が高いことが分かった。そして、内容の評価では高学年ほど評価が高く、低学年は学習相談を活用できていないという状況がうかがえた。

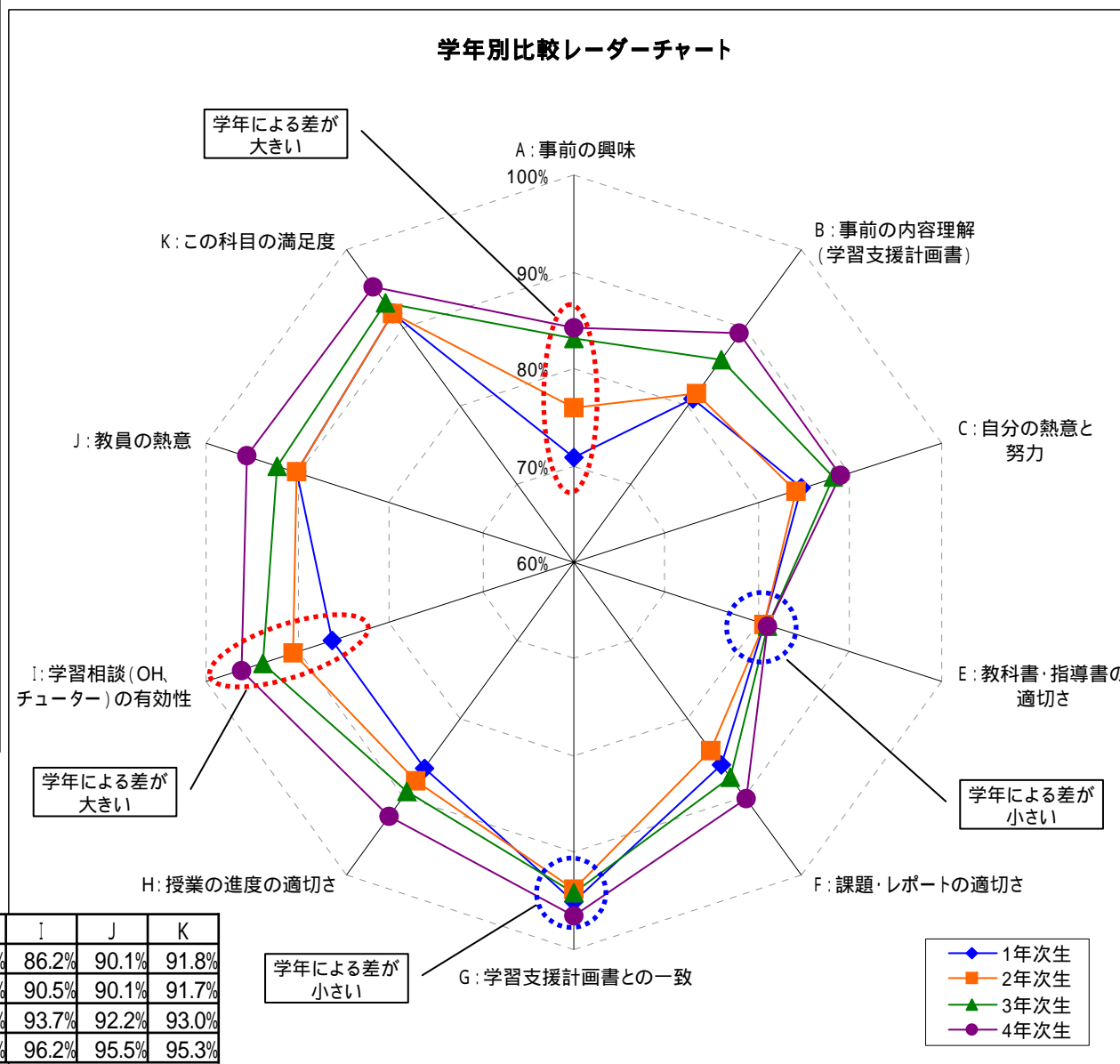


- 「J:教員の熱意」に関して「感じ取れた」だけを見ると、「2年次生」がやや低めで「4年次生」が非常に多い点が目立っていた。そして、「まあ感じ取れた」までを加えたもので比較すると、差は大きくはないが高学年ほど肯定的な意見が多かった。
- 「K:この科目の満足度」でも「満足している」だけを見ると「2年次生」がやや低く「4年次生」が高い傾向がみられ、「まあ満足している」までを合わせると、差はほとんどないがやや高学年で満足度が高まる傾向が見られた。
- この項の2つ以外にも「2年次生」がやや厳しい評価をしている項目が見られたが、これは「2年次生」が大学に対する慣れなどによってモチベーションが低下し、全体的に厳しい評価をしているといった要因があるのではないかと思われる。また、「4年次生」は履修自体が少なく再履修などもあるため、厳しい評価が少なくなっているのではないかと思われる。



<3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 学年別に肯定的な意見の割合を比較したところ、前項まで見たとおり高学年ほど肯定的な意見が多い傾向が見られた。
- ただし、「F:課題・レポートの適切さ」は「2年次生」の評価が最も低く、「2年次生は課題やレポートにやや不満を持っている」と思われる。課題やレポートの量が多いなど、なんからの要因があるのではないかと思われる。
- 学年毎に差が大きかったのは「A:事前の興味」であり、低学年は興味を持って授業の履修を決めているとは言えず、興味を持ってないまま授業に臨んでいるようであった。
- 「I:学習相談の有効性」も学年による差がやや大きく、低学年は学習相談をしっかりと活用できていないものと思われる。
- 学年によって差が小さかったのは「E:教科書・指導書の適切さ」と「G:学習支援計画書との一致」であり、これら授業をサポートするツール類は、全学年で評価が一致していると言える。
- 「K:この科目の満足度」も学年による差はそれほど大きくなかったが、やや高学年の満足度が高い傾向がうかがえた。



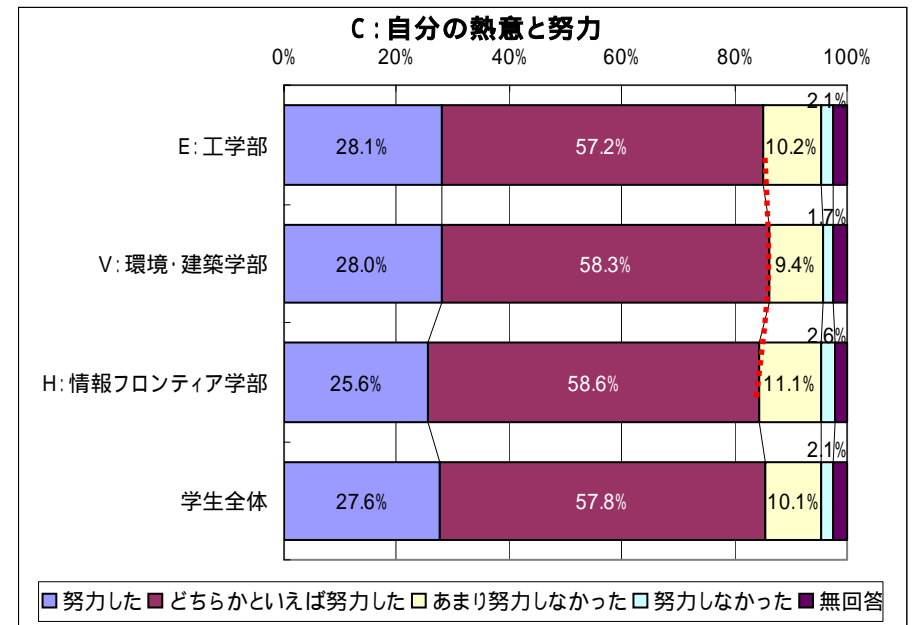
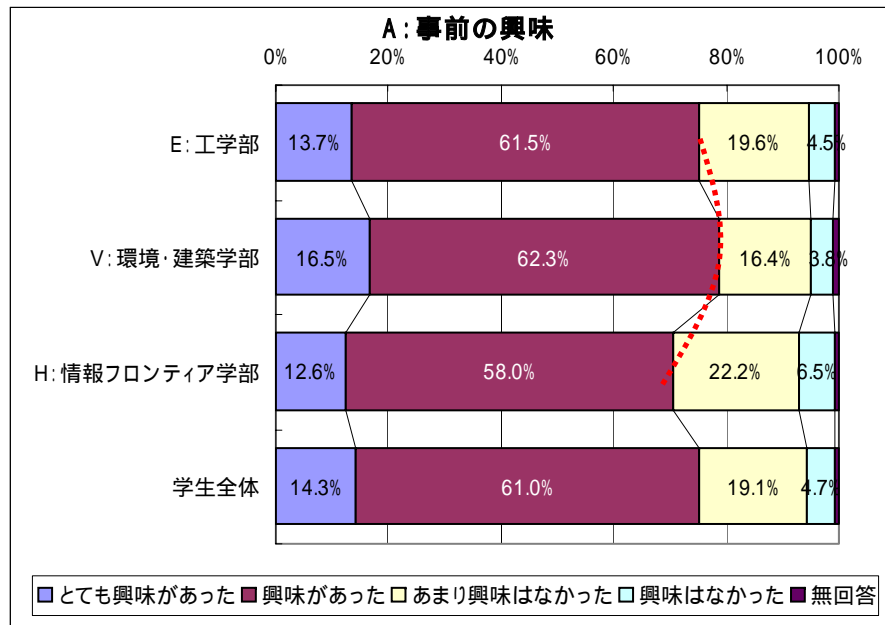
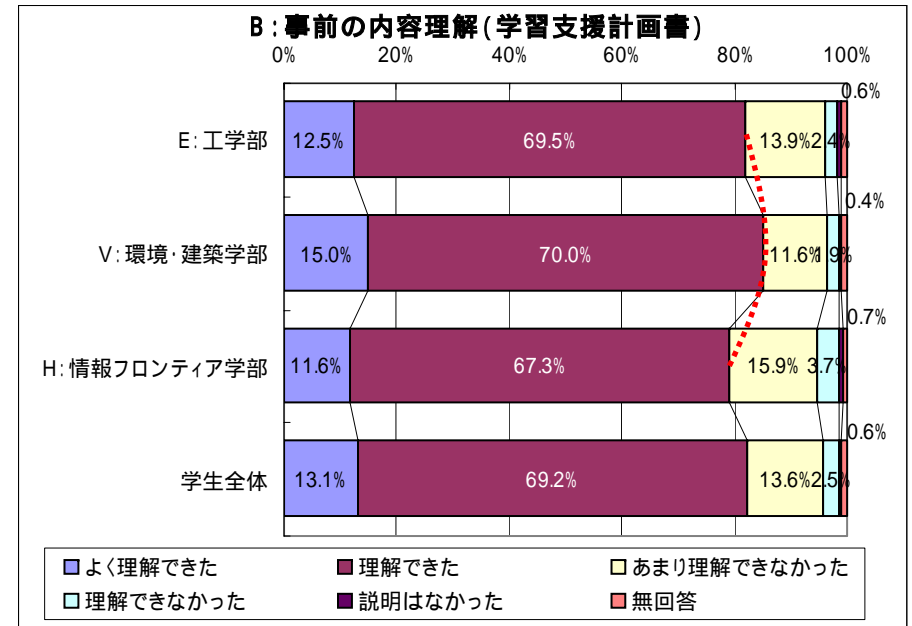
学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	70.8%	80.9%	84.8%	80.6%	85.9%	95.1%	86.2%	86.2%	90.1%	91.8%
2年次生	75.9%	81.6%	84.1%	80.6%	84.1%	93.8%	87.9%	90.5%	90.1%	91.7%
3年次生	83.1%	85.8%	88.3%	81.0%	87.6%	94.2%	89.3%	93.7%	92.2%	93.0%
Sクラス	84.2%	89.1%	88.9%	81.0%	90.2%	96.5%	92.4%	96.2%	95.5%	95.3%

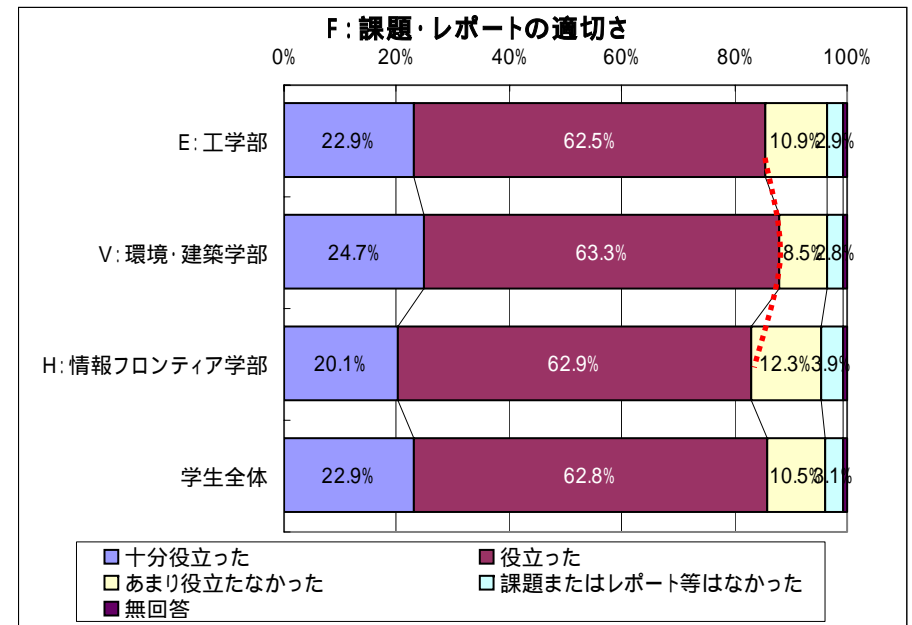
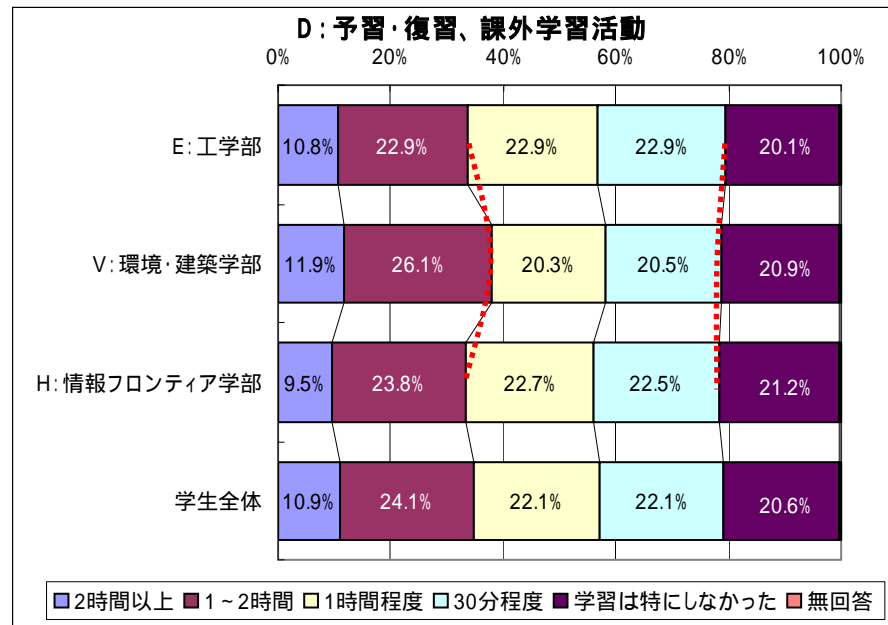
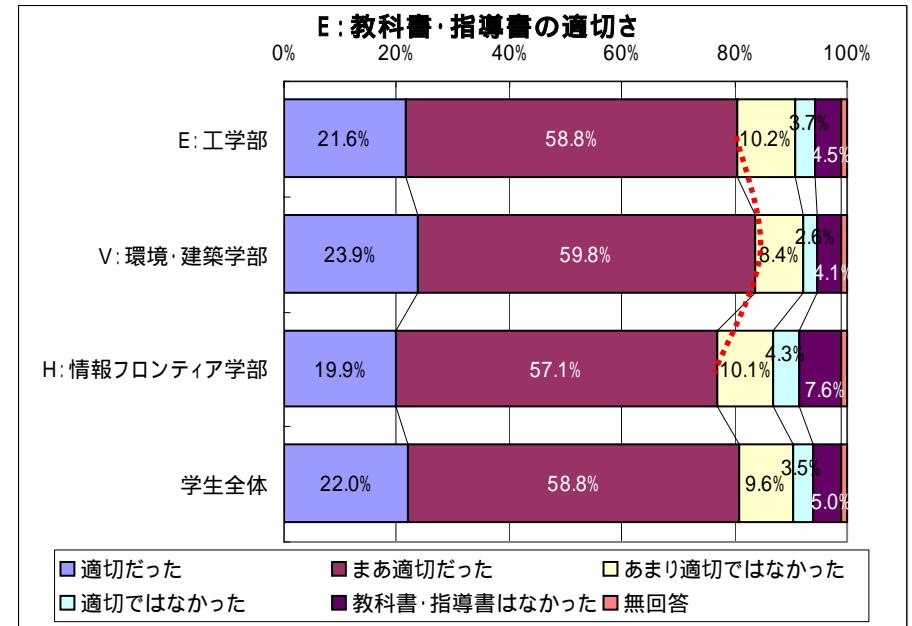
< 4 > 学部・学科別の分析

< 4-1 > 学部別の比較

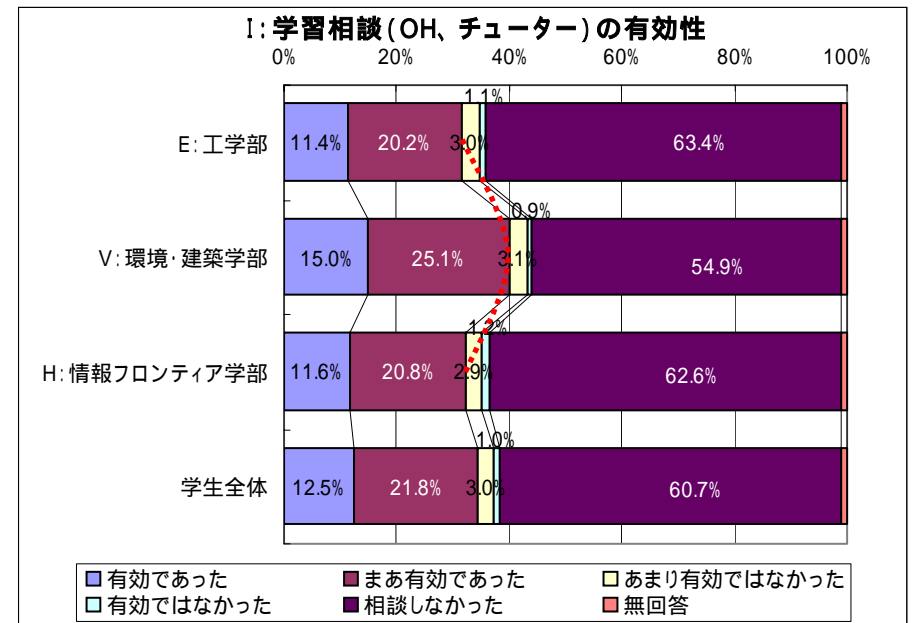
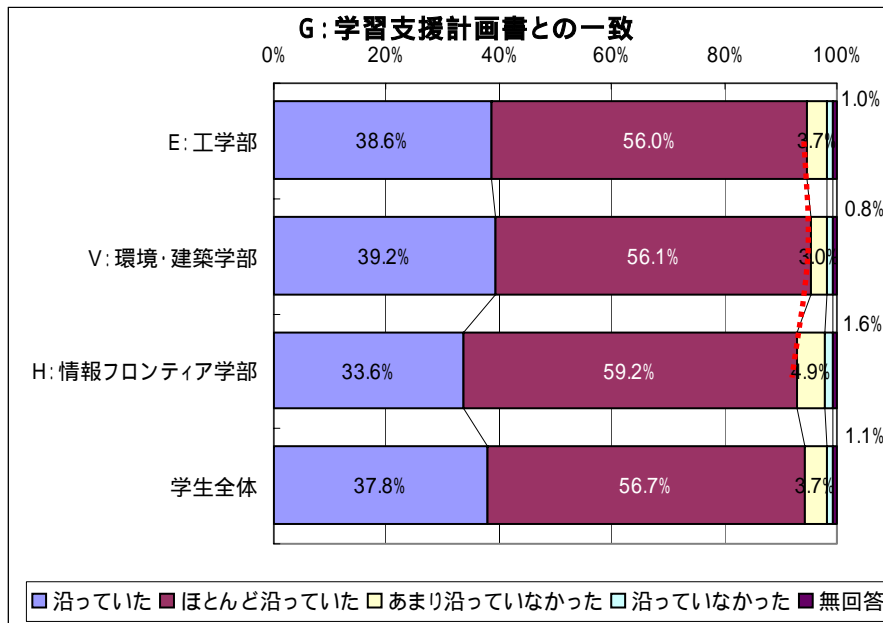
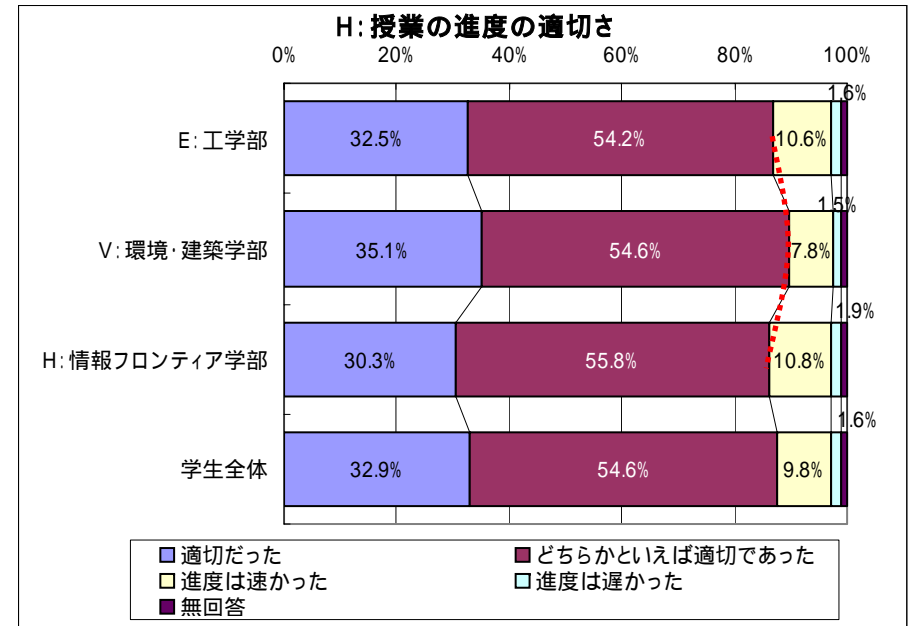
- 学部別に「A:事前の興味」を「とても興味があった」と「興味があった」の合計で比較したところ、「V:環境・建築学部」が最も興味を持っており、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順で興味が薄らいでいた。「V:環境・建築学部」と「H:情報フロンティア学部」では、8ポイントほどの差が見られた。
- 「B:事前の内容理解」でも「V:環境・建築学部」で最も理解が進んでおり、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順に事前に理解している割合が少なくなる傾向が見られた。
- 「C:自分の熱意と努力」で「努力した」と「どちらかといえば努力した」を合わせたものを比較すると、学部による差はほとんど見られなかったが、「H:情報フロンティア学部」がわずかに低めであった。
- この項の傾向を見ると、事前の興味や内容の理解は学部によって差が出るが、自分自身が努力するかどうかは個人によるものであり学部による差はほとんど見られないと言うことができる。



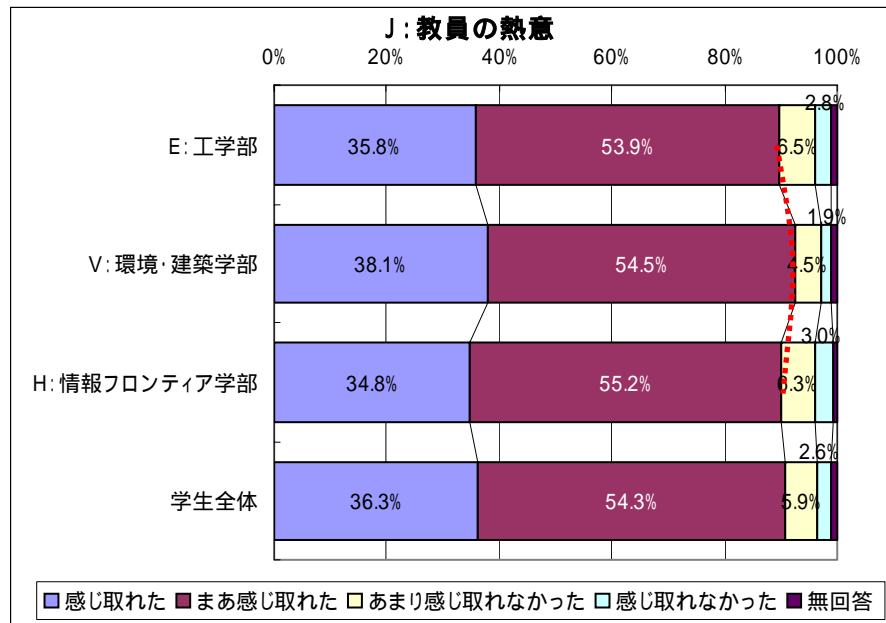
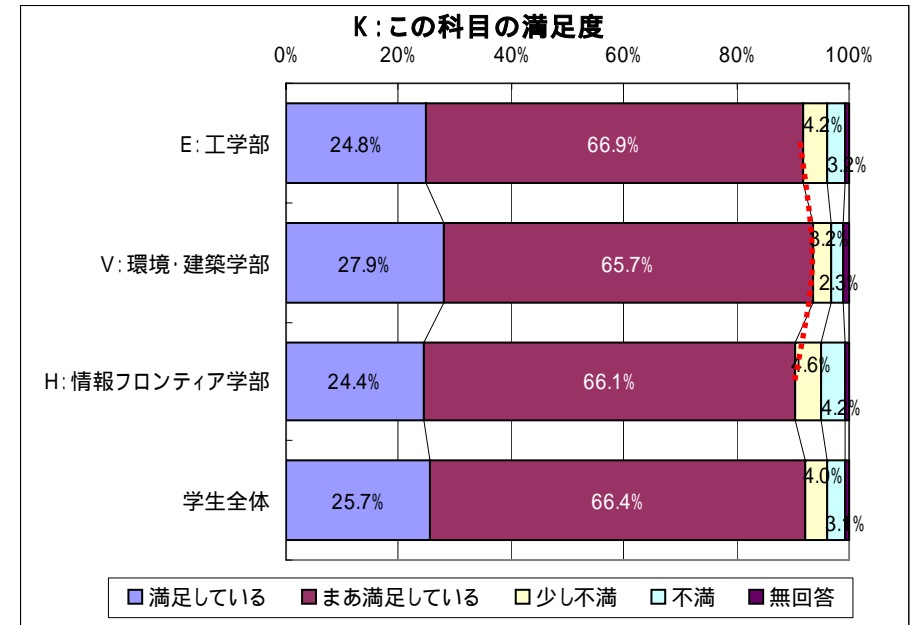
- 「D:予習・復習、課外学習活動」では、「学習は特にしなかった」の割合が概ね2割程度で、学部による差はほとんどなかった。学習時間に関しては「V:環境・建築学部」で「2時間以上」「1～2時間」という層がやや多く、しっかり時間を充てている様子が見えかけた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」も前項と同様で、「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が最も多く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順に肯定的な意見が減少していた。また、「H:情報フロンティア学部」で「教科書・指導書はなかった」という意見が7.6%とやや多い点も特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」でも「V:環境・建築学部」で肯定的な意見がやや多く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順になっていた。「課題またはレポート等はなかった」の割合は、学部による差が見られなかった。



- 「G:学習支援計画書との一致」では「H:情報フロンティア学部」で厳しい意見がやや多く、授業の内容は学習支援計画書と一致していない部分があると感じているようであった。「E:工学部」「V:環境・建築学部」はほぼ同じ結果であり、評価は高かった。
- 「H:授業の進捗の適切さ」は「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多めであり、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」という順であった。そして、3学部共に不満意見は「進捗は速かった」という意見が多く、約1割を占めていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関して「相談しなかった」の割合を比較すると、「E:工学部」が63.4%、「H:情報フロンティア学部」が62.6%であり、学習相談があまり活用されていないことが分かった。一方、「V:環境・建築学部」の「相談しなかった」割合は54.9%であり、他の2学部と比べると10ポイント近い差があり、学習相談の活用度の高さがうかがえた。
- 学習相談を利用している学生の割合が異なるため有効性の比較は難しいが、利用者が多い「V:環境・建築学部」では、有効だと考える学生の割合も多くなっていた。

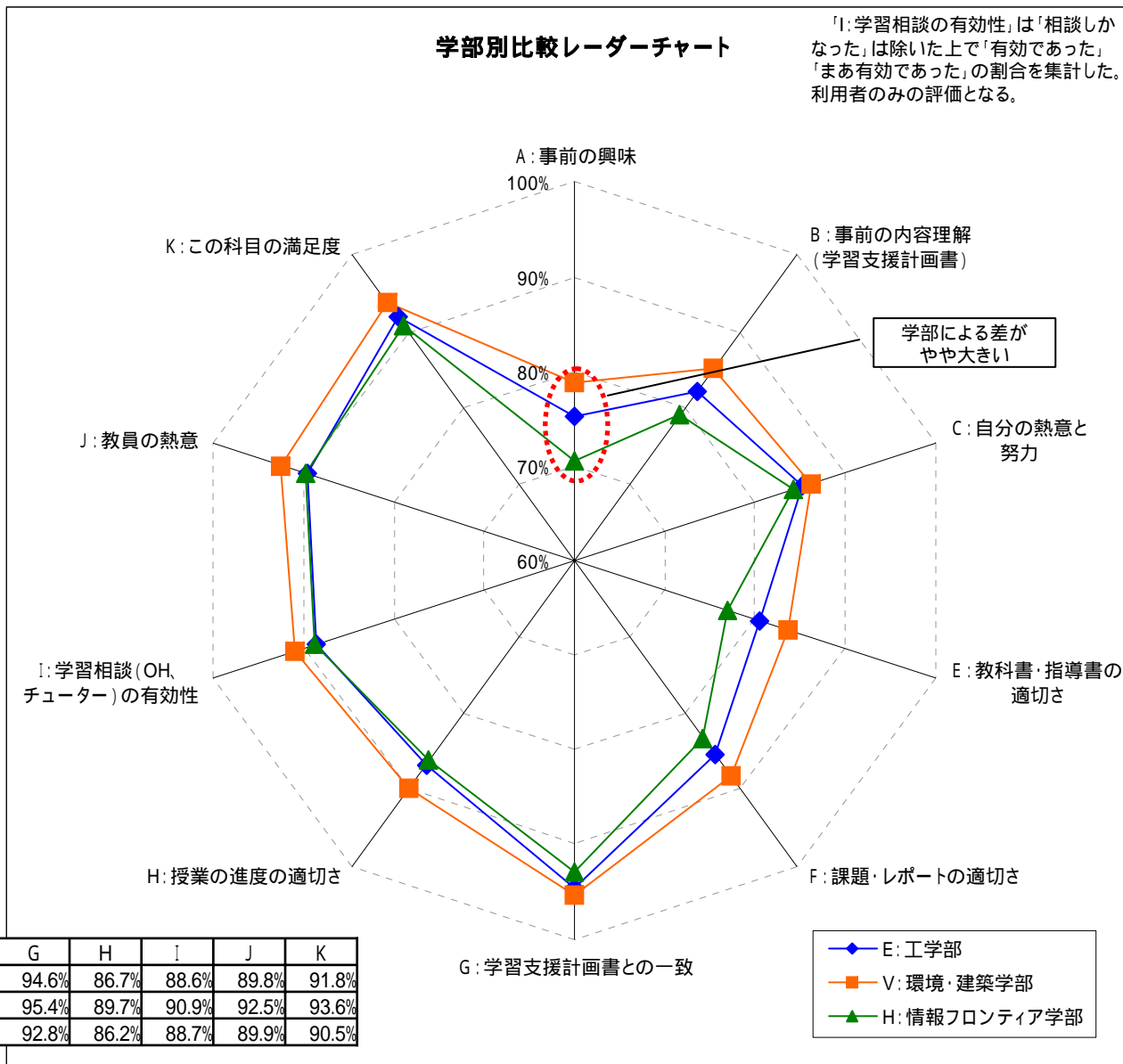


- 今までの結果を見ると「J:教員の熱意」でも学部によってハッキリとした差が出そうであったが、学部による差は小さく、「V:環境・建築学部」がやや肯定的な意見が多かった。
- 学部によって授業の進め方やサポートツール類の評価、学習相談の利用状況などは異なるものの、教員の熱意に関してはそれほど評価に差はなく、どの学部の教員も熱意に差はないと言える。
- 「K:この科目の満足度」も学部による差があまりなかったが、「V:環境・建築学部」ではやや満足度が高く、次いで「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順にわずかずつ満足度が低下していた。
- いずれの学部でも満足している学生の割合は9割を超えており、満足度は非常に高いと言える。



< 4-2 > 肯定的な意見の学部別比較

- 学部別に肯定的な意見の割合を比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 前項までに見たように、全体の大きな傾向としては「V:環境・建築学部」で全体的に評価や満足度が高く、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」の順に厳しい評価となる傾向が確認できた。
- 「A:事前の興味」に関しては学部による差がやや大きく、「H:情報フロンティア学部」がやや興味を持っていない傾向がうかがえ、「V:環境・建築学部」とは8.3ポイントの差がついていた。
- また、「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」も学部による差がやや大きく、「B:事前の内容理解」が「学習支援計画書」の評価に近いことを考えると、授業のサポートツール類は学部によって評価が分かれる傾向があると言えそうであった。

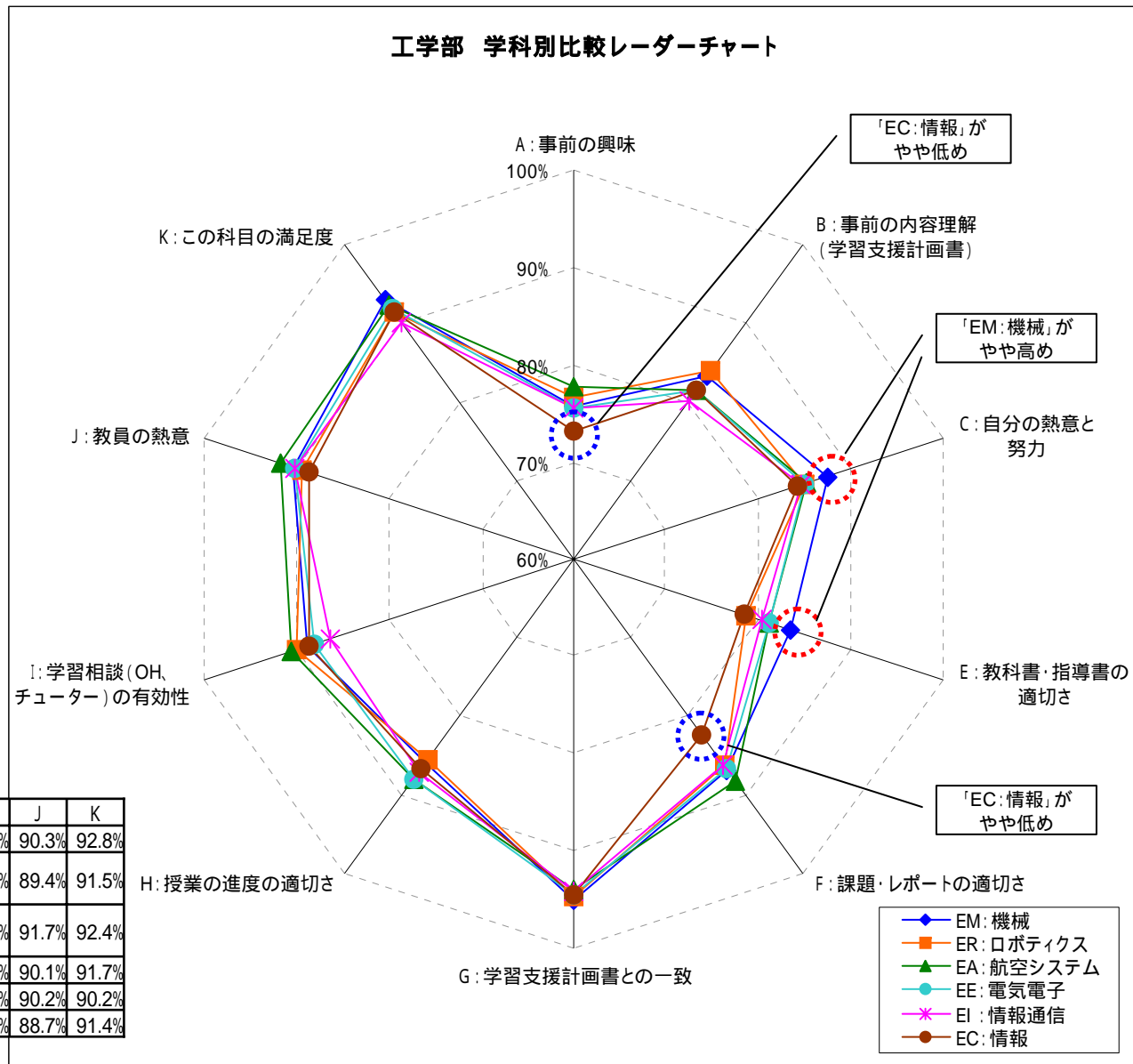


学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	75.1%	82.0%	85.3%	80.4%	85.4%	94.6%	86.7%	88.6%	89.8%	91.8%
V:環境・建築学部	78.8%	84.9%	86.3%	83.7%	88.0%	95.4%	89.7%	90.9%	92.5%	93.6%
H:情報フロンティア学部	70.5%	78.9%	84.2%	77.0%	83.0%	92.8%	86.2%	88.7%	89.9%	90.5%

< 4-3 > 肯定的な意見の学科別比較

- 学科間の比較を学部毎に行った。
- 「工学部」の結果を見ると、次項以降の他学部と比較して学科間の差が小さく、学部内で評価がまとまっていると言える。
- 差は少ないものの「A:事前の興味」と「F:課題・レポートの適切さ」において、「EC:情報学科」がやや低めであった。
- また、「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」で、「EM:機械学科」がやや高めであった。
- 上記のように個別の項目で見ると、わずかに学科間の差が見られたが、「K:この科目の満足度」ではほとんど差がなく、学部内の満足度はまとまっていると言える。

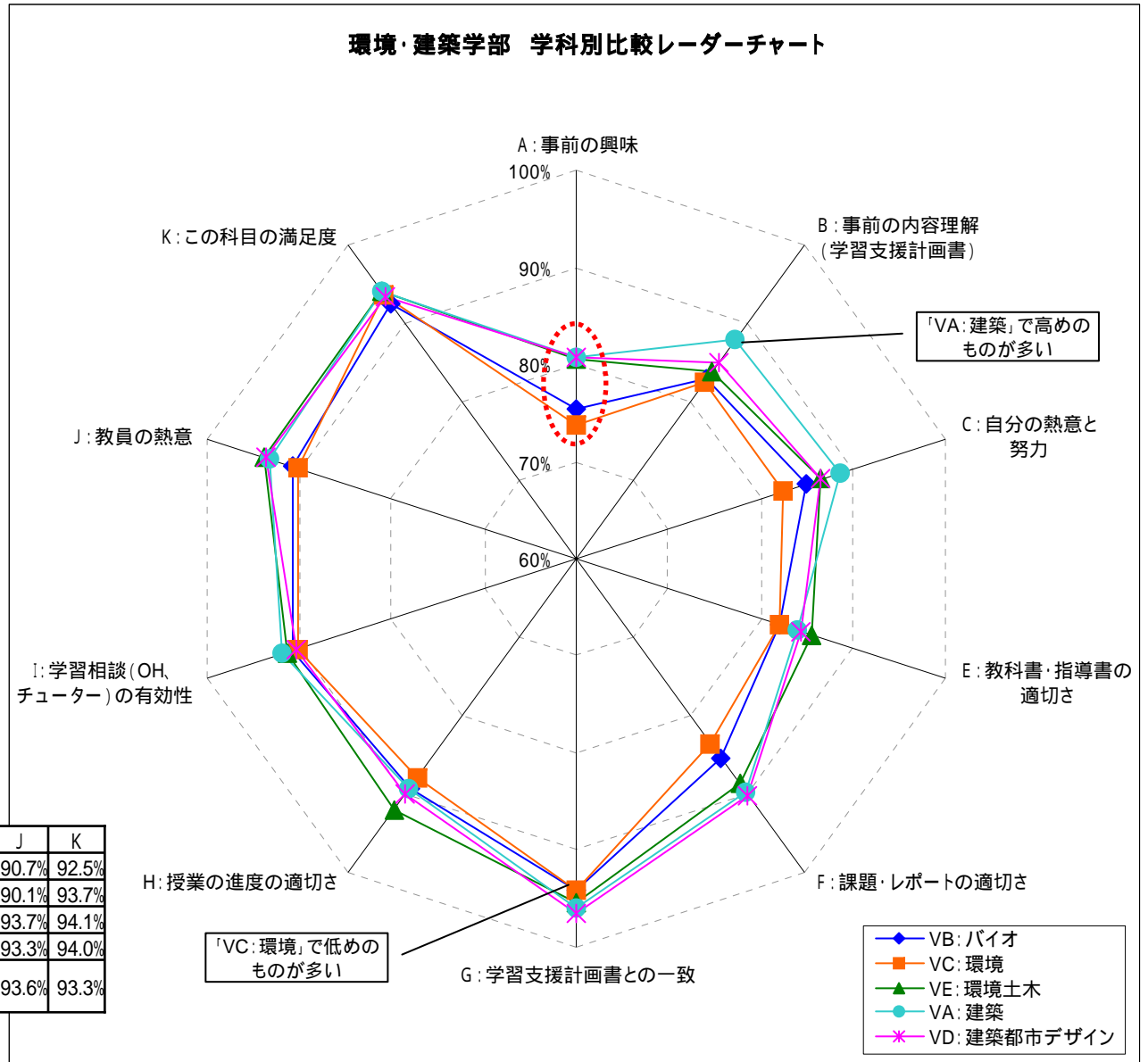


工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械	75.7%	83.2%	87.5%	83.4%	86.9%	95.1%	86.0%	88.8%	90.3%	92.8%
ER: ロボティクス	76.6%	83.9%	85.1%	78.7%	86.4%	94.7%	85.6%	89.9%	89.4%	91.5%
EA: 航空システム	77.7%	81.5%	85.1%	81.3%	88.1%	94.0%	88.0%	90.5%	91.7%	92.4%
EE: 電気電子	75.5%	81.3%	85.0%	81.1%	86.7%	94.5%	88.0%	88.2%	90.1%	91.7%
EI: 情報通信	75.4%	80.1%	84.6%	80.3%	86.1%	94.2%	87.0%	86.3%	90.2%	90.2%
EC: 情報	73.1%	81.4%	84.1%	78.4%	82.3%	94.5%	86.7%	88.7%	88.7%	91.4%

- 「環境・建築学部」は学部同士の比較では全体的に評価が高く、満足度が高い傾向が見られたが、学科間の比較を見ると評価にややばらつきが見られた。
- 全体的に目立っていたのは「VA:建築学科」で、全体的に評価は高く、「VE:環境土木」「VD:建築都市デザイン」もやや高めであり、学部の中でも建築に近い学科が充実している状況がうかがえた。
- 一方、「VC:環境学科」は全体的に評価が低く、「VB:バイオ」もやや低めの評価が見られ、この2学科は似通った評価となっていた。
- 「A:事前の興味」に関しては、上記の建築に近い3学科の高さが目立っており、2つのグループの差がハッキリ見られた。
- しかし、「K:この科目の満足度」では学科間の差はほとんど見られず、「環境・建築学部」では全体的に満足度は高く、学科による差がほとんどないことが分かった。

環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

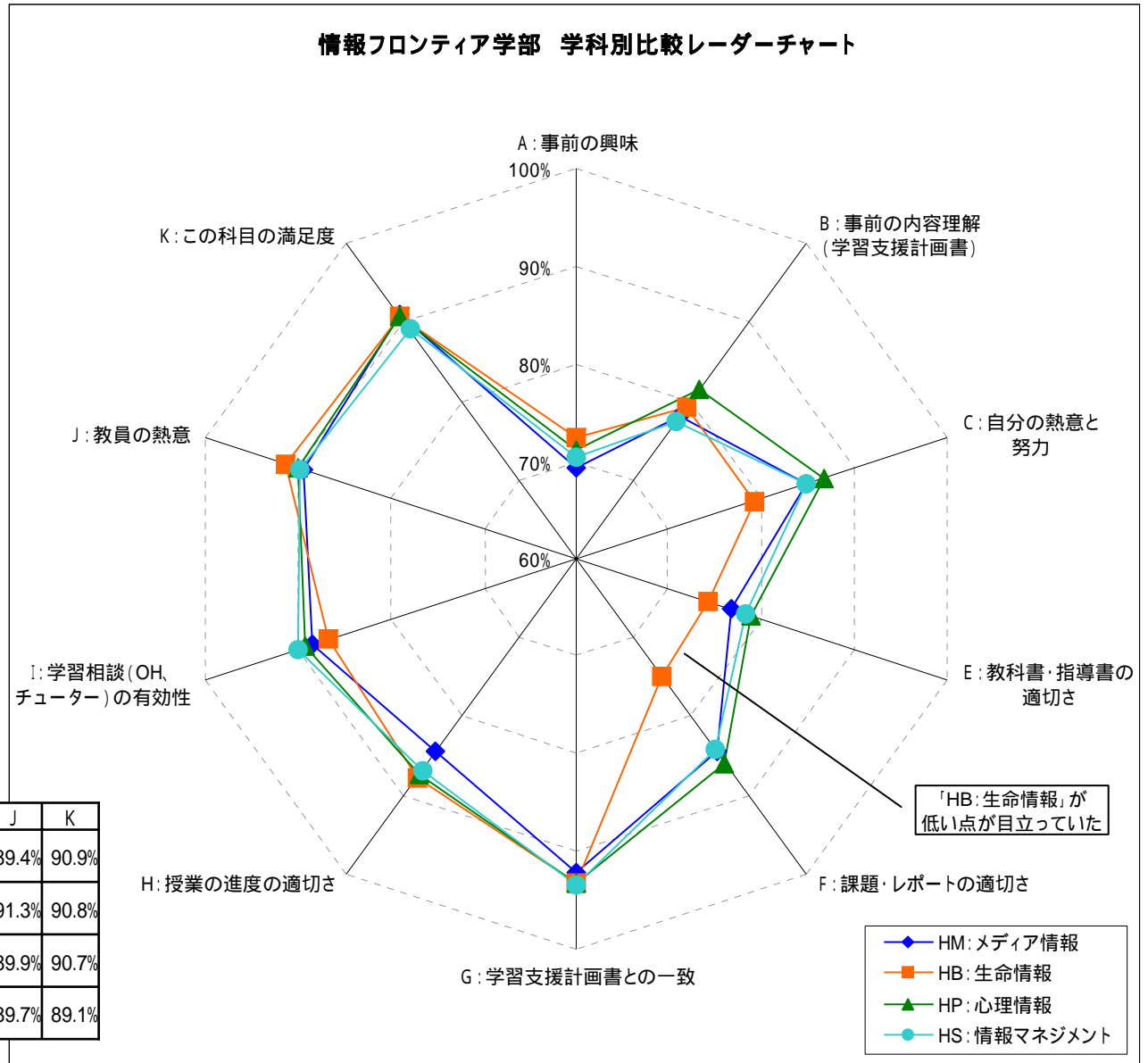


環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VB:バイオ	75.5%	82.9%	84.9%	82.0%	85.3%	94.1%	89.1%	90.6%	90.7%	92.5%
VC:環境	73.8%	82.4%	82.4%	82.0%	83.5%	94.2%	88.0%	90.1%	90.1%	93.7%
VE:環境土木	80.6%	83.9%	86.4%	85.6%	88.6%	95.5%	92.0%	91.2%	93.7%	94.1%
VA:建築	80.7%	87.8%	88.6%	83.9%	89.8%	95.9%	89.3%	91.7%	93.3%	94.0%
VD:建築都市デザイン	80.7%	85.0%	86.4%	84.4%	90.0%	96.5%	89.9%	90.2%	93.6%	93.3%

- 「情報フロンティア学部」は、3学部の中では全体的にやや厳しい評価が多かったが、学科別に見ると「HB:生命情報学科」が特定の項目で非常に低い評価をしている状況が見られた。
- 「HB:生命情報学科」が特に低かったのは「F:課題・レポートの適切さ」であり、役立ったと感じている意見は75.0%にとどまっていた。そして、「E:教科書・指導書の適切さ」も低く、授業のサポートツール類に大きな不満があることが分かる。
- また、「HB:生命情報学科」は「C:自分の熱意と努力」も低い点が目立っていた。
- 上記以外では大きな特徴は見られず、「K:この科目の満足度」も学科による差は見られなかった。

情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート



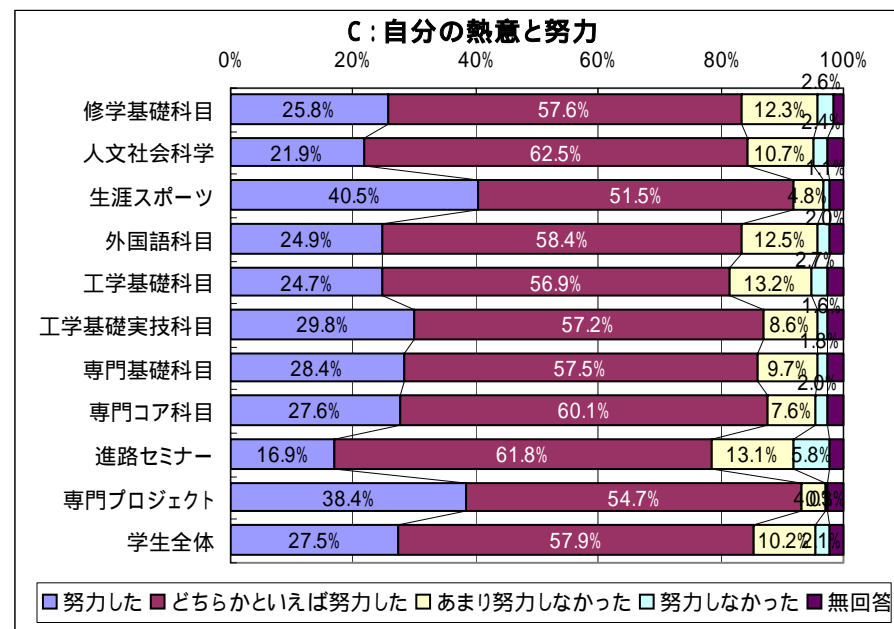
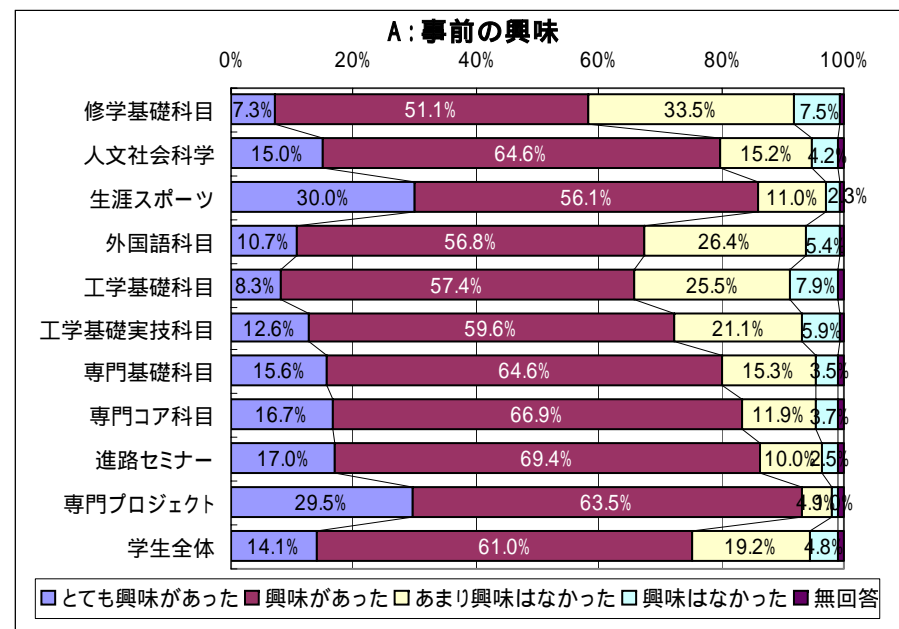
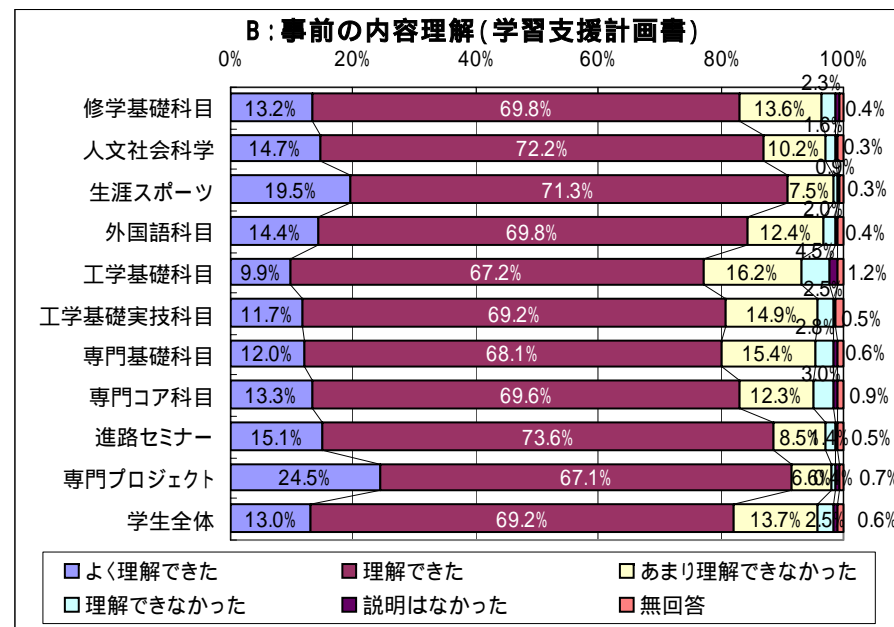
情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
HM:メディア情報	69.4%	78.0%	84.8%	76.6%	84.5%	92.2%	84.5%	88.6%	89.4%	90.9%
HB:生命情報	72.4%	79.1%	79.3%	74.2%	75.0%	93.3%	87.8%	86.6%	91.3%	90.8%
HP:心理情報	71.2%	81.6%	86.6%	78.8%	85.9%	93.2%	87.2%	89.3%	89.9%	90.7%
HS:情報マネジメント	70.5%	77.3%	84.9%	78.2%	84.1%	93.3%	86.9%	90.0%	89.7%	89.1%

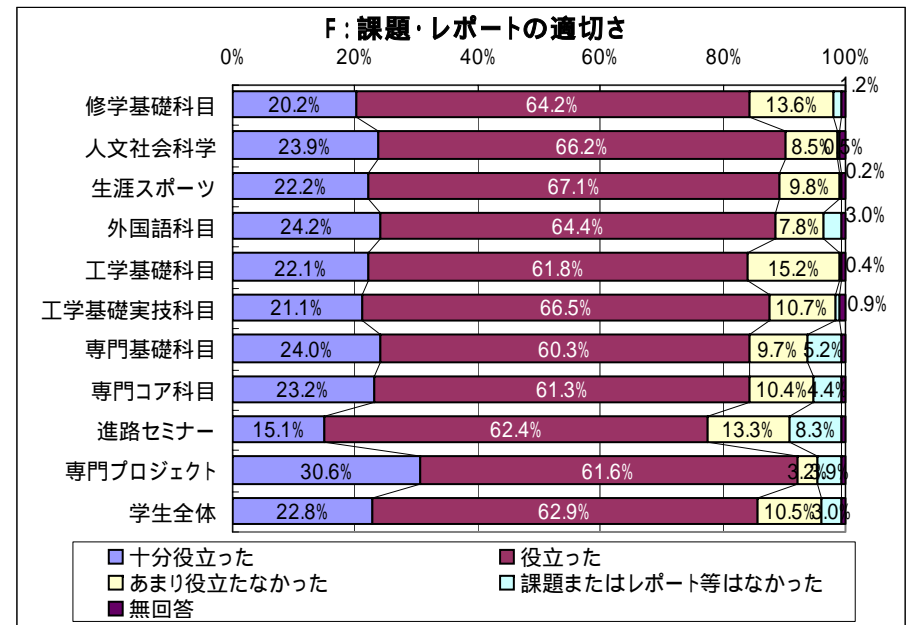
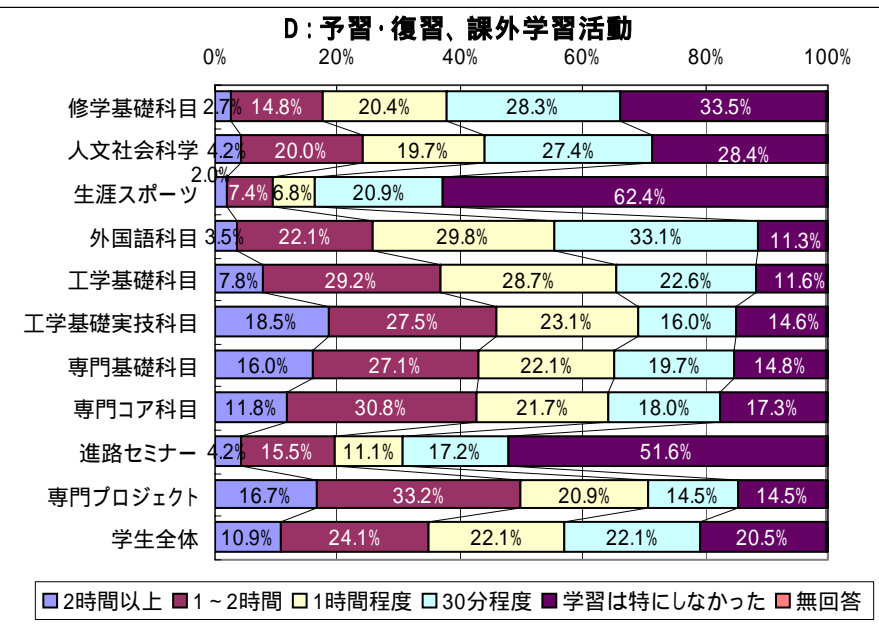
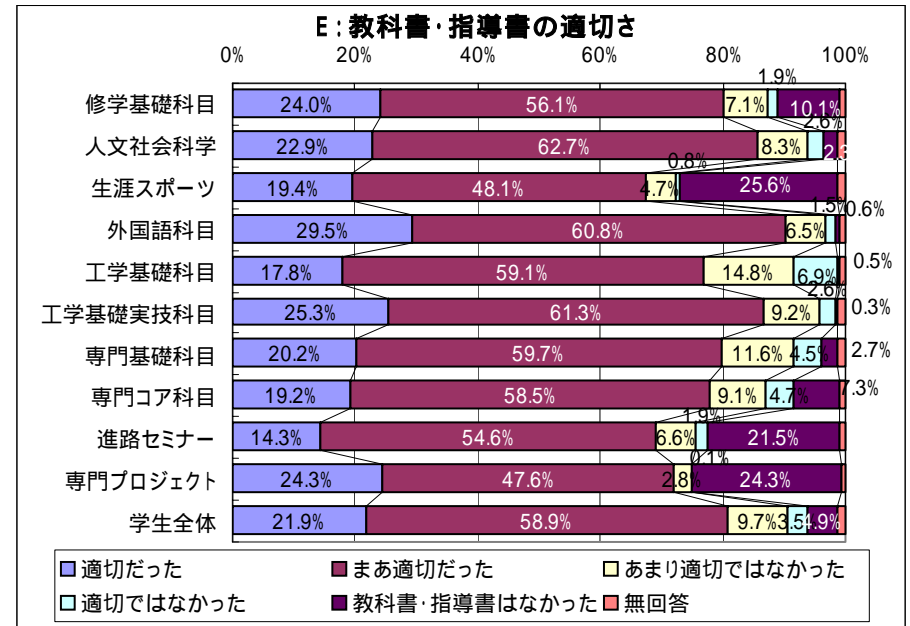
< 5 > 科目区分別の分析

<5-1> 科目区分別の比較

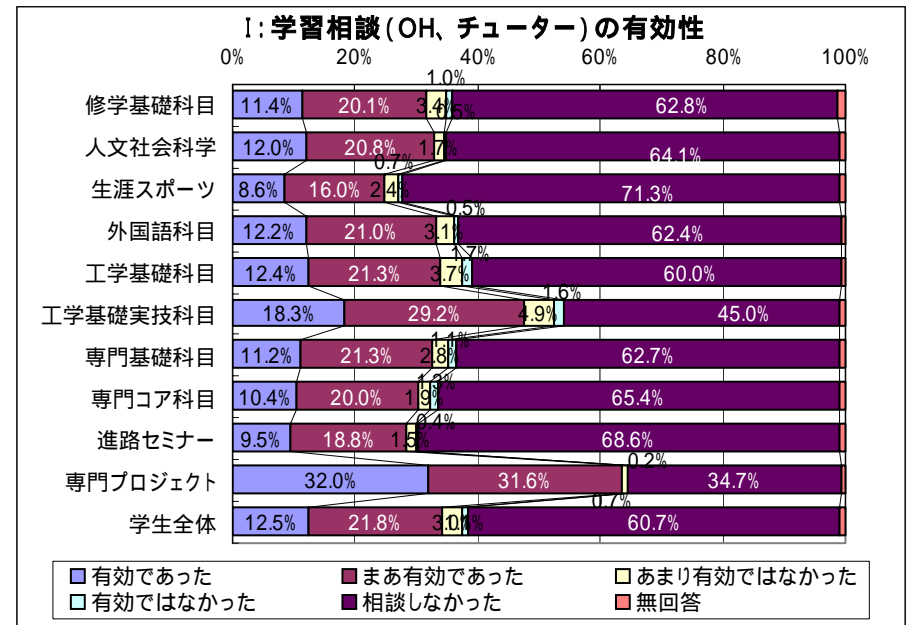
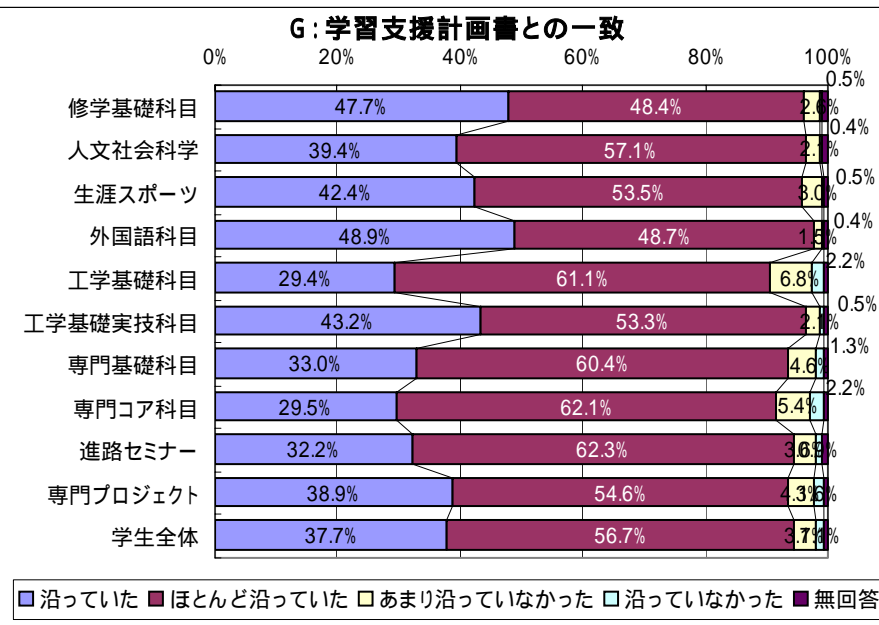
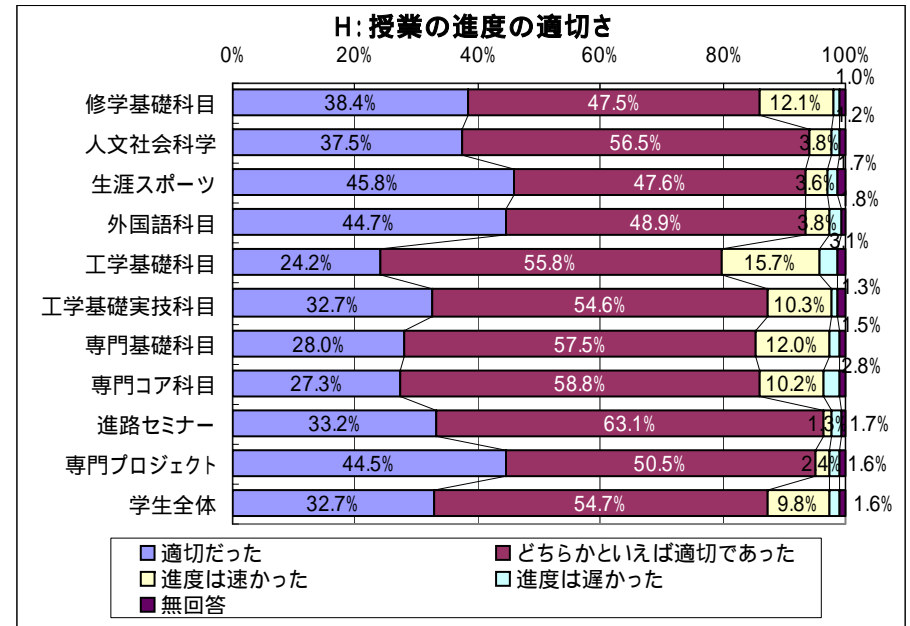
- 10の科目区分別に授業の評価がどのように異なるかを確認した。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計を見ると、「専門プロジェクト」「進路セミナー」「専門コア科目」「生涯スポーツ」などが高く、「修学基礎科目」「工学基礎科目」「外国語科目」が低い傾向が見られた。
- 上記を見ると学生は専門系の科目には興味を持っているが、高校時代の復習のような基礎的な科目には興味を持ってないようであり、科目区分によって比較的大きな差が見られた。
- 「B:事前の内容理解」は科目区分による差が小さいが、ここでも「専門プロジェクト」「進路セミナー」「生涯スポーツ」の評価が高く、「工学基礎科目」の評価が低いことが確認できた。
- 「C:自分の熱意と努力」でも「専門プロジェクト」と「生涯スポーツ」が高く、これらの科目には熱意を持って取り込んでいることが分かる。そして、「A:事前の興味」などでは高かった「進路セミナー」がここでは低めであり、「進路セミナー」には興味を持って取り組んでいるものの、それほど強い熱意を持っているというわけではなかった。



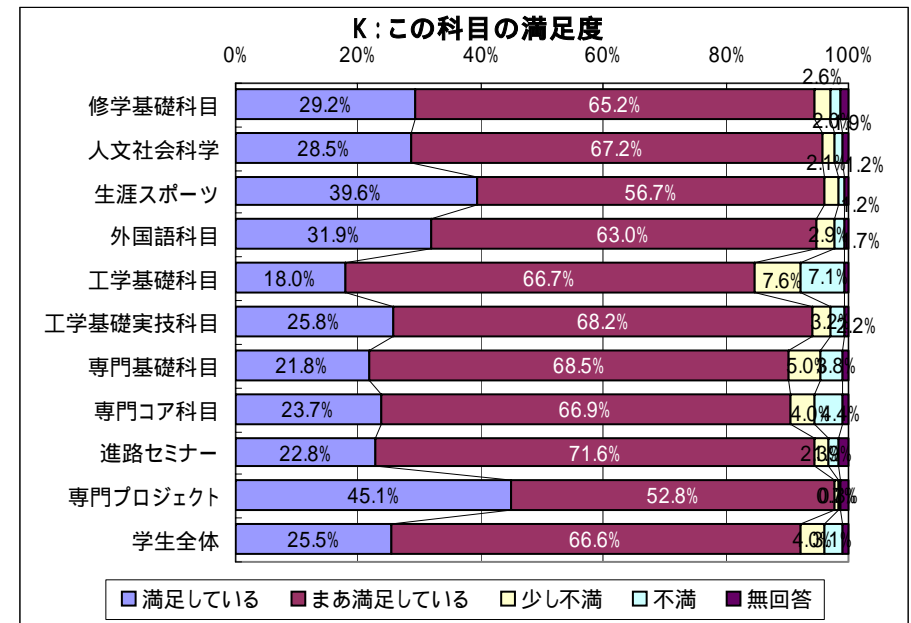
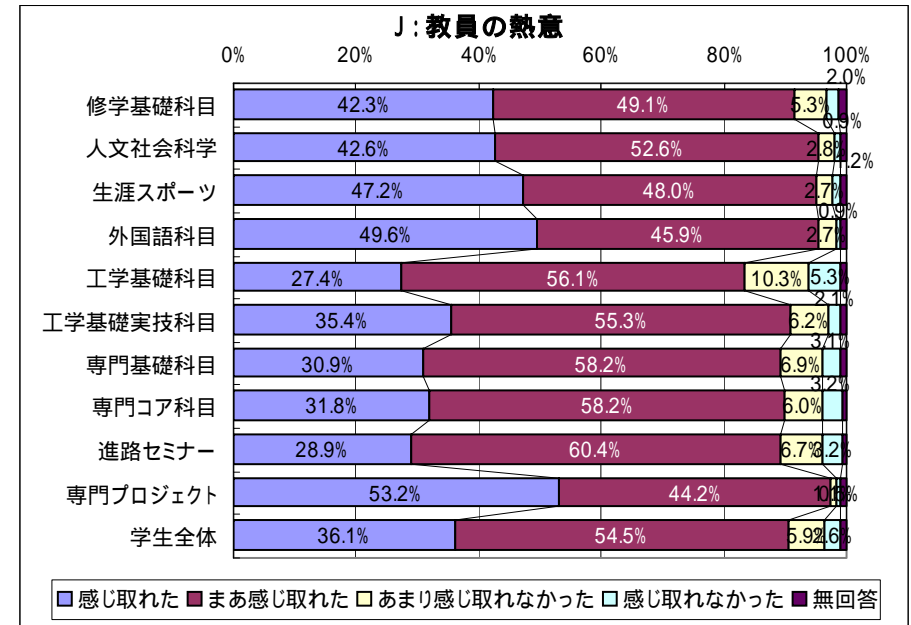
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分によって大きな差が見られた。まず、「学習は特にしなかった」が多かったのは「生涯スポーツ」と「進路セミナー」の2つであった。
- 予習・復習などに多くの時間が充てられていたのは「専門プロジェクト」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」であり、「2時間」と「1～2時間」の合計が40%を超えていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」でも特徴が見られ、「生涯スポーツ」「進路セミナー」「専門プロジェクト」の3つでは「教科書・指導書はなかった」という意見が2割を超えていた。そして、適切だという意見が最も多かったのは「外国語科目」であり、「人文社会科学」「工学基礎実技科目」の評価も高かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が小さかったが、「専門プロジェクト」で評価がやや高く、「進路セミナー」で低めであった。



- 「G:学習支援計画書との一致」の評価は全科目において非常に高く、「沿っていた」と「ほとんど沿っていなかった」を合わせた点で比較してもほとんど差が見られなかった。しかし、「沿っていた」だけを見ると、「外国語科目」「修学基礎科目」の評価が高かった。
- 「H:授業の進捗の適切さ」では「人文社会科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」「進路セミナー」「専門プロジェクト」の5つで評価が高く、「修学基礎科目」「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」の5つでは「進度が速かった」という意見が1割を超える結果となっており、大きく2つに分かれていた。
- 「I:学習相談の有効性」で特徴的であったのは、「工学基礎実技科目」と「専門プロジェクト」で「相談しなかった」の割合が非常に少ない点であり、半数以上の学生が学習相談を活用していることが分かる。その他の科目区分では概ね3割の学生が学習相談を活用しており、約1割が満足しているという結果であった。



- 「J:教員の熱意」も大きく2つのグループに分かれており、それほど差が大きいわけではないが「修学基礎科目」「人文社会科学」「生涯スポーツ」「外国語科目」「専門プロジェクト」では教員の熱意を感じるという割合が高く、「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」「進路セミナー」では熱意を感じるという割合がやや低めであった。
- 上記を見ると、「専門プロジェクト」では教員の熱意を強く感じているものの、それ以外の専門系科目では熱意が感じられないという意見がやや多く見られ、注意すべき点だと言える。
- 「K:この科目の満足度」に関しては「工学基礎科目」の満足度がやや低めであり、「生涯スポーツ」と「専門プロジェクト」の満足度が高いという傾向がここでも見られた。
- そして、「修学基礎科目」「人文社会科学」「外国語科目」の満足度もやや高めであった。「専門プロジェクト」を除く専門系の満足度が低く、一般系の満足度がやや高いという傾向が見られた。

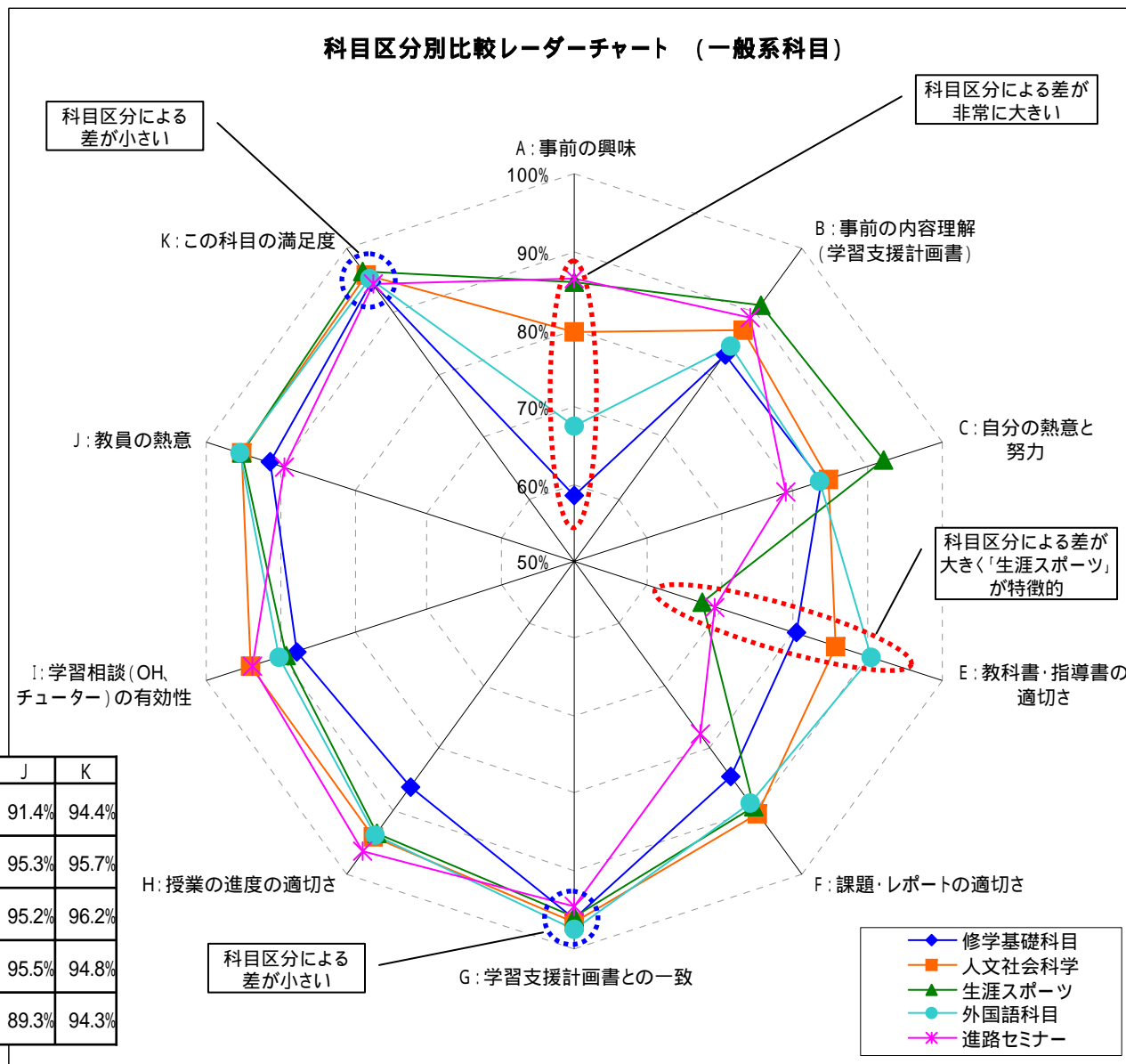


<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 全学科を比べると数が多すぎるため、一般系の科目と専門系の科目に分けて学科同士の比較を行った。
- 一般系の科目でまず目につくのは「A:事前の興味」のばらつき大きさであり、「生涯スポーツ」「進路セミナー」には強い興味を持っているが、「修学基礎科目」「外国語科目」には興味を持っていないことが分かる。
- この興味の差は非常に大きく、何故これだけの差が出るのか、しっかり検証する必要があると思われる。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」もばらつきが大きく、教科書類がないためと思われるが、「生涯スポーツ」「進路セミナー」の評価の低さが目立ち、「外国語科目」が高かった。
- 科目区分による差が小さかったのは「K:この科目の満足度」と「G:学習支援計画書との一致」であり、これらの点は科目によって評価が変わらなかったと言える。

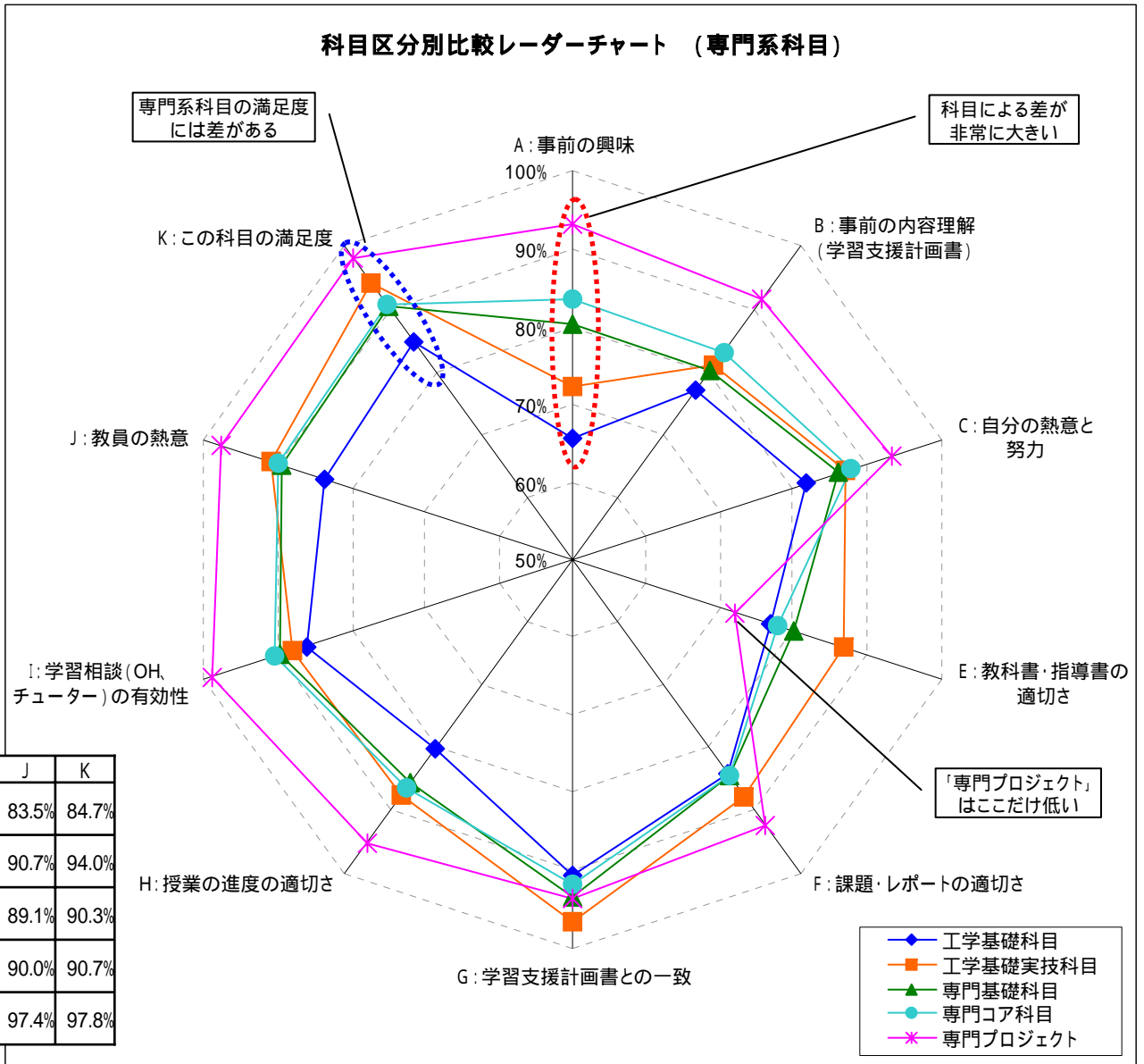
一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	58.5%	83.0%	83.5%	80.1%	84.4%	96.1%	85.9%	87.7%	91.4%	94.4%
人文社会科学	79.7%	86.9%	84.4%	85.6%	90.1%	96.6%	94.1%	93.8%	95.3%	95.7%
生涯スポーツ	86.1%	90.8%	92.0%	67.5%	89.2%	95.9%	93.4%	88.9%	95.2%	96.2%
外国語科目	67.5%	84.2%	83.3%	90.3%	88.6%	97.6%	93.6%	90.1%	95.5%	94.8%
進路セミナー	86.5%	88.7%	78.6%	68.9%	77.5%	94.5%	96.3%	93.6%	89.3%	94.3%



- 「専門系」の科目でも目立っていたのは「A: 事前の興味」のばらつきの大きさであり、「専門プロジェクト」には強い興味を持っているが、「工学基礎科目」「工学基礎実技科目」には興味を持っていないことが確認できた。
- 前項と比べると、他の項目についてもばらつきが大きかった。特徴的であったのは「専門プロジェクト」であり、「E:教科書・指導書の適切さ」以外は非常に高い評価であった。
- 「K:この科目の満足度」も科目区分によってばらつきがあった。「工学基礎科目」は全体的に低めであったが満足度も最も低く、やや課題がありそうであった。
- 「工学基礎実技科目」は「A:事前の興味」はやや低かったが、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」などの評価が高く、しっかりと計画された授業がなされているものと思われる。

科目区分別比較レーダーチャート（専門系科目）



専門系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
工学基礎科目	65.7%	77.1%	81.6%	76.9%	83.9%	90.5%	80.0%	86.0%	83.5%	84.7%
工学基礎実技科目	72.2%	80.9%	87.0%	86.6%	87.6%	96.5%	87.3%	87.9%	90.7%	94.0%
専門基礎科目	80.2%	80.1%	85.9%	79.9%	84.3%	93.4%	85.4%	89.4%	89.1%	90.3%
専門コア科目	83.5%	82.9%	87.7%	77.7%	84.5%	91.7%	86.1%	90.4%	90.0%	90.7%
専門プロジェクト	93.0%	91.6%	93.1%	72.0%	92.2%	93.5%	95.1%	98.5%	97.4%	97.8%

< 5-3 > 全項目の科目別順位

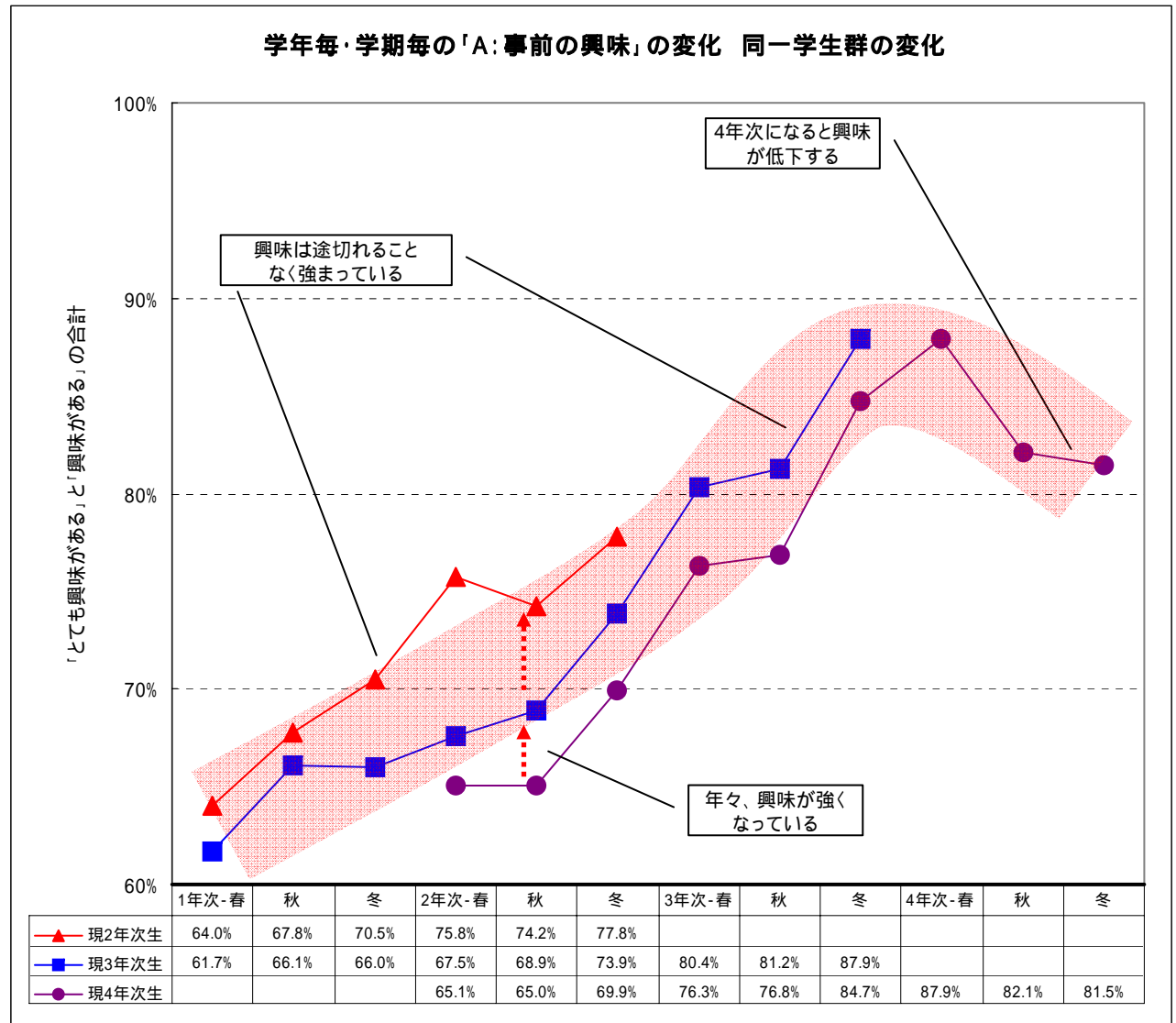
- 科目数が多く数値による全体比較が難しいため、各項目毎に評価のランキングで並べて特徴を見た。
- ここまでに見たように「専門プロジェクト」は全体的に高く評価されており、学生が積極的に取り組み、満足度も得られている科目区分別であると言える。評価の低かった「E:教科書・指導書の適切さ」「G:学習支援計画書との一致」は「専門プロジェクト」とは関係の薄いものと思われる、大きな問題ではないと言える。
- 上記に次いで「生涯スポーツ」「進路セミナー」「人文社会科学」「外国語科目」などが上位に見られた。
- 一方、全体の中で評価が低めであったのは「工学基礎科目」であり、「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」も低く、何らかの課題があるのではないかと思われる。また、「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」を見ると「専門基礎科目」の評価も低めであり、関連性の有無は不明であるが、名称から見ると基礎的な科目の評価が低いと言える。

順位	A:事前の興味	B:事前の内容理解(学習支援計画書)	C:自分の熱意と努力	E:教科書・指導書の適切さ	F:課題・レポートの適切さ	G:学習支援計画書との一致	H:授業の進度の適切さ	I:学習相談(OH,チューター)の有効性	J:教員の熱意	K:この科目の満足度
1	専門プロジェクト	専門プロジェクト	専門プロジェクト	外国語科目	専門プロジェクト	外国語科目	進路セミナー	専門プロジェクト	専門プロジェクト	専門プロジェクト
2	進路セミナー	生涯スポーツ	生涯スポーツ	工学基礎実技科目	人文社会科学	人文社会科学	専門プロジェクト	人文社会科学	外国語科目	生涯スポーツ
3	生涯スポーツ	進路セミナー	専門コア科目	人文社会科学	生涯スポーツ	工学基礎実技科目	人文社会科学	進路セミナー	人文社会科学	人文社会科学
4	専門コア科目	人文社会科学	工学基礎実技科目	修学基礎科目	外国語科目	修学基礎科目	外国語科目	専門コア科目	生涯スポーツ	外国語科目
5	専門基礎科目	外国語科目	専門基礎科目	専門基礎科目	工学基礎実技科目	生涯スポーツ	生涯スポーツ	外国語科目	修学基礎科目	修学基礎科目
6	人文社会科学	修学基礎科目	人文社会科学	専門コア科目	専門コア科目	進路セミナー	工学基礎実技科目	専門基礎科目	工学基礎実技科目	進路セミナー
7	工学基礎実技科目	専門コア科目	修学基礎科目	工学基礎科目	修学基礎科目	専門プロジェクト	専門コア科目	生涯スポーツ	専門コア科目	工学基礎実技科目
8	外国語科目	工学基礎実技科目	外国語科目	専門プロジェクト	専門基礎科目	専門基礎科目	修学基礎科目	工学基礎実技科目	進路セミナー	専門コア科目
9	工学基礎科目	専門基礎科目	工学基礎科目	進路セミナー	工学基礎科目	専門コア科目	専門基礎科目	修学基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目
10	修学基礎科目	工学基礎科目	進路セミナー	生涯スポーツ	進路セミナー	工学基礎科目	工学基礎科目	工学基礎科目	工学基礎科目	工学基礎科目

< 6 > 同一学生群の分析

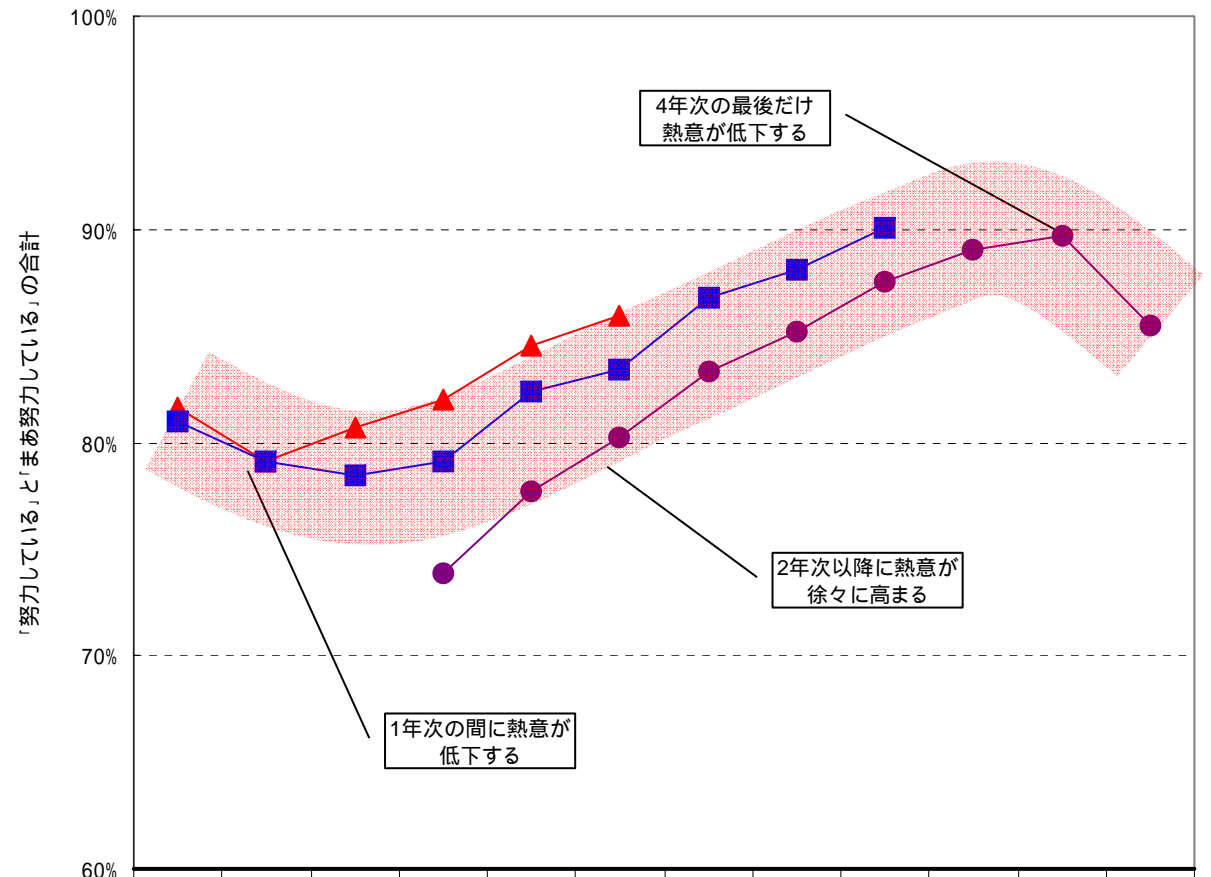
< 6-1 > 同一学生群の変化に関する分析

- ここまでに学年毎、学部毎などの差を見てきたが、同一学生群ではどのような変化をしているのか、主な指標に関して確認した。
- 「A:事前の興味」に関する変化を見ると、多少の差はあるものの「1年次生」時点で最も興味が低く、学期と学年を経る毎に興味が強まっている傾向が見られた。
- 上記の変化は3年分の学生、全ての学生群に共通するものであり、多少の例外はあるものの授業に対する興味は徐々に高まっていることが確認できた。
- 「4年次生」の段階で興味が少し下がっているが、「4年次生」での履修は再履修などが含まれており、回答数も他の学年と比べると非常に少なく、この部分は別に考えるべきとも言える。
- これを見ると授業に関する「興味」は自然に強まるものであるが、早い時期に授業や学問に興味を持たせることで、その後の興味の強さが更に高まる可能性があるとも言える。



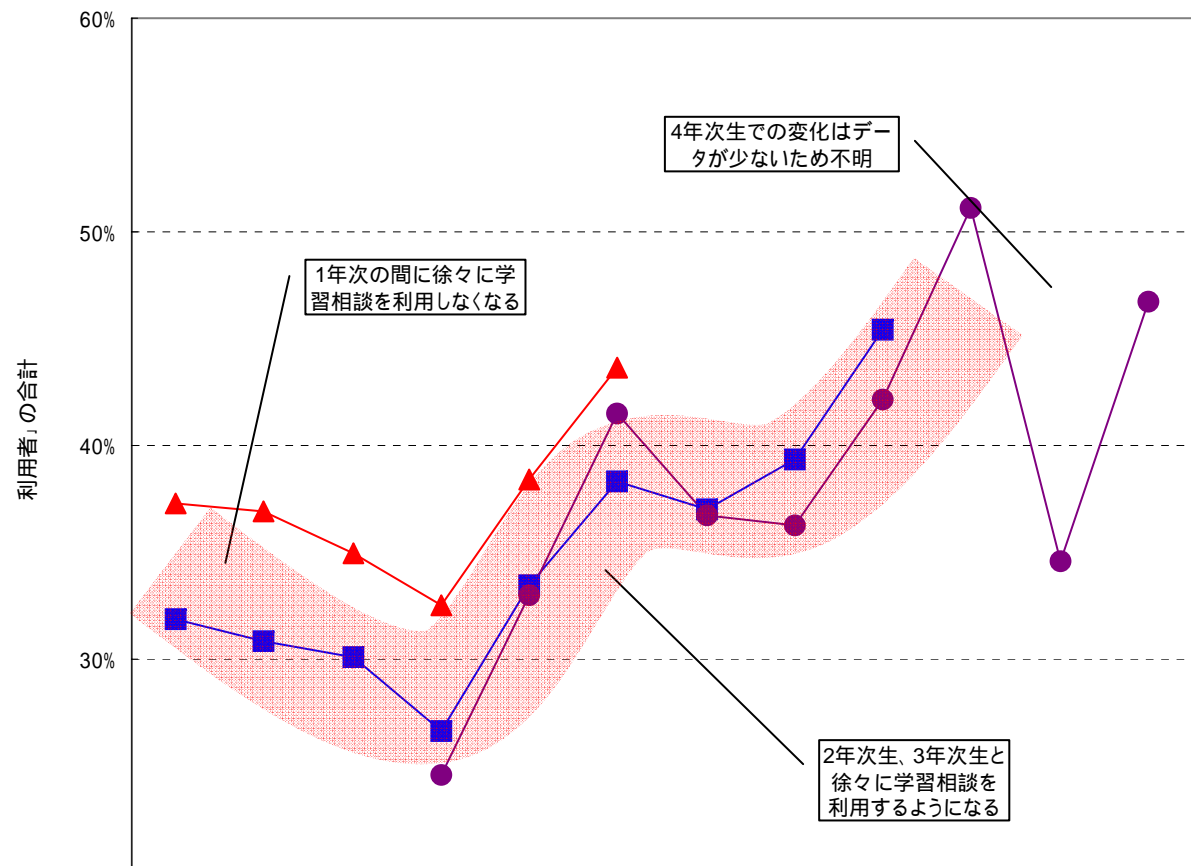
- 次に代表的な指標である「C:自分の熱意と努力」の変化を見たところ、入学直後の「1年次生」の「春」から「冬」にかけて低下していることが分かった。
- この部分の低下は、入学試験からの開放感や大学生になった安堵感などによって気がゆるんだためではないかと思われる。
- 「2年次生」以降は徐々に「熱意と努力」が高まっており、「3年次生」の「冬」まで続いていることが確認できた。
- 「2年次生」以降は急激にはではないが熱意を持ち、理解するために努力するようになってきており、学生自身が向上心を持っているようであり、大きな課題はないと思われる。
- ただし、「1年次生」の段階での低下を防ぐことができれば、学生により熱意を持たせることができると思われる、早い段階で大学に慣れさせ、積極性を持たせる工夫が必要と言える。

学年毎・学期毎の「C:自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



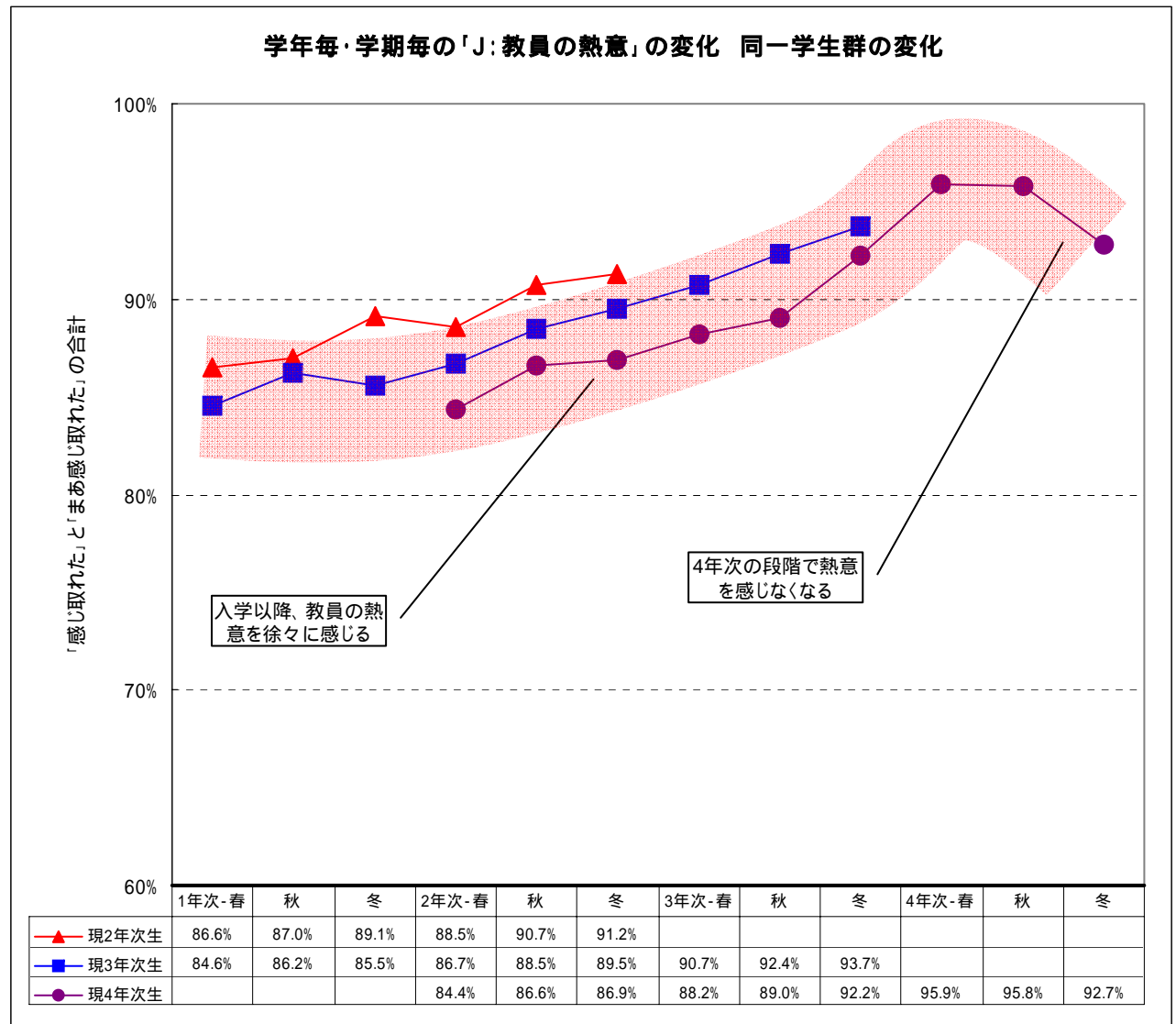
- 教員から直接指導を受ける機会である「I: 学習相談の有効性」の設問から、「学習指導の利用経験者」の割合を抽出し、同一学年での変化を確認した。
- 他の指標では、学年にかかわらずなだらかな変化が見られたが、ここでは学年によって大きく変化する傾向が見られた。
- 「1年次生」では「春」から「冬」にかけて学習相談の利用者が徐々に減少しており、「2年次生」の「春」に最も少なくなっている。これが「学習相談が必要と感じていない」ためであるのか、「学習相談が使いにくいと感じている」ためであるかが不明であり、利用促進のためにはこの期間の実態を詳細に把握する必要があると言える。
- 「2年次生」になると「冬」まで利用率が急速に高まり、「3年次生」での「春」にかけて利用率が低下して、その後再び高まる傾向が見られた。
- 3学年共に「春」に利用率が低下しているが、そこには「春」学期が忙しかったり、新たな教員に対して慣れていないといった要因などが考えられる。
- 学生の状況を把握する機会でもある「学習相談」は重要な接点であり、この利用率を上げることは満足度向上にもつながるものであり、しっかりした現状把握が必要と言える。

学年毎・学期毎の「I: 学習相談の有効性」による「学習相談利用者割合変化」 同一学生群の変化



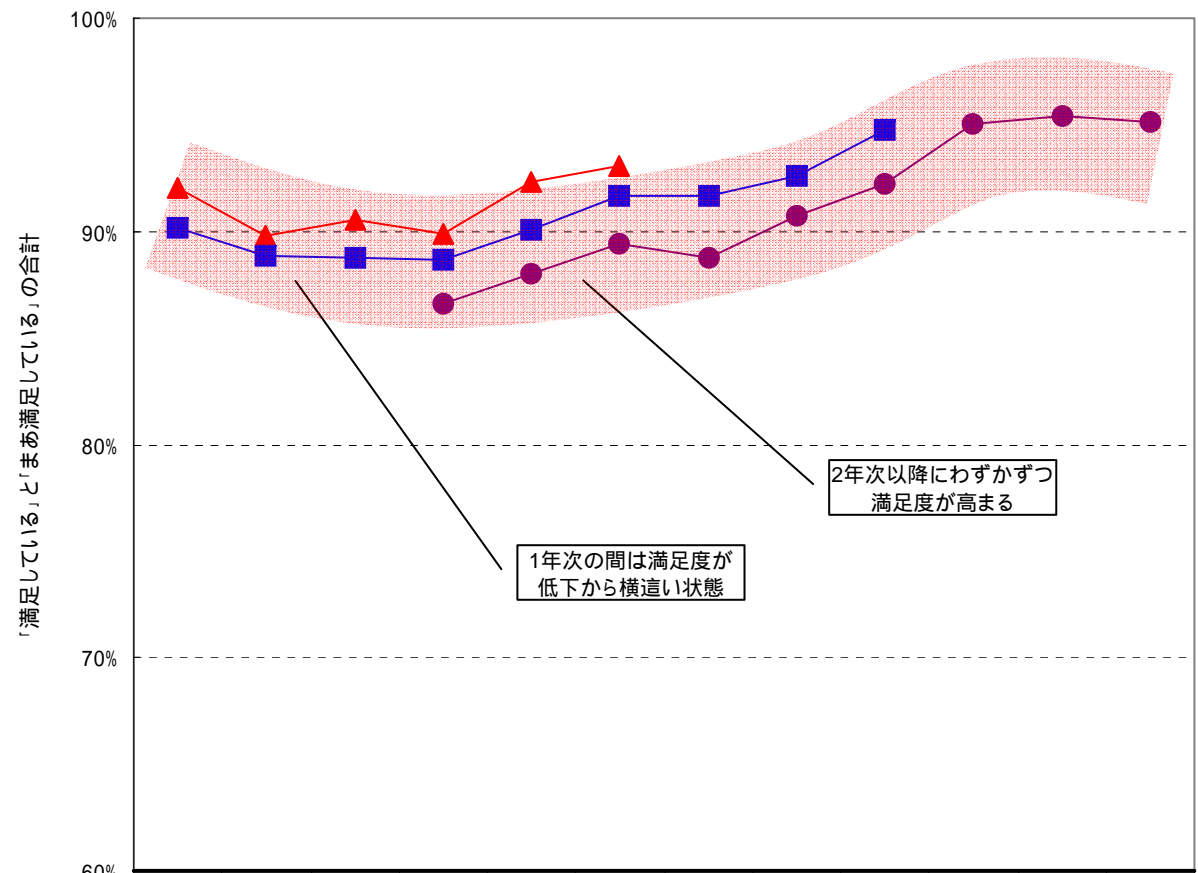
	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬	4年次-春	秋	冬
▲ 現2年次生	37.3%	37.0%	34.9%	32.6%	38.4%	43.6%						
■ 現3年次生	31.9%	30.8%	30.1%	26.6%	33.5%	38.3%	37.0%	39.3%	45.4%			
● 現4年次生				24.6%	33.0%	41.5%	36.8%	36.3%	42.2%	51.1%	34.6%	46.8%

- 「J:教員の熱意」に関しては、急激な変化ではないが「1年次生」の「春」から「3年次生」の「冬」まで、確実に評価が上がっており、その傾向は3つの学生群で同じように確認できた。
- 同一学生群の変化で見た他の指標では、入学直後にやや低下するなどの傾向が見られたが、「教員の熱意」に関してはその低下が見られず、徐々にではあるがしっかりと学生の評価が上がっていた。
- 他にも見たように評価自体も年々上がり、学生の評価は確実に上がってきており、今後もこれを継続することで更なる満足度の向上につながると言える。
- ここでも「4年次生」での評価の低下が見られたが、それほど大きなものではなく、前に見たように内容的にも問題ではないと言える。



- 「K:この科目の満足度」は非常に変化が少なかったが、「2年次生」から「3年次生」にかけてわずかずつ上がってきていることが確認できた。
- 「1年次生」では「春」から「秋」にかけて満足度が下がっている。これは「熱意と努力」でも見たように、安堵感による意識の低下と考えられるが、「期待はずれ」の可能性もあり、わずかな低下であるがしっかりと実態を把握しておく必要があると言える。
- 「2年次生」から「3年次生」にかけてはここで見た3つの学生群共に満足度が上がってきており、大きな問題はないと言える。
- 大きな問題はないものの「1年次生」の段階での満足度の低下の要因を探り、対策を行うことで、更なる満足度の向上も期待でき、その点が今後のテーマになると言える。

学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化

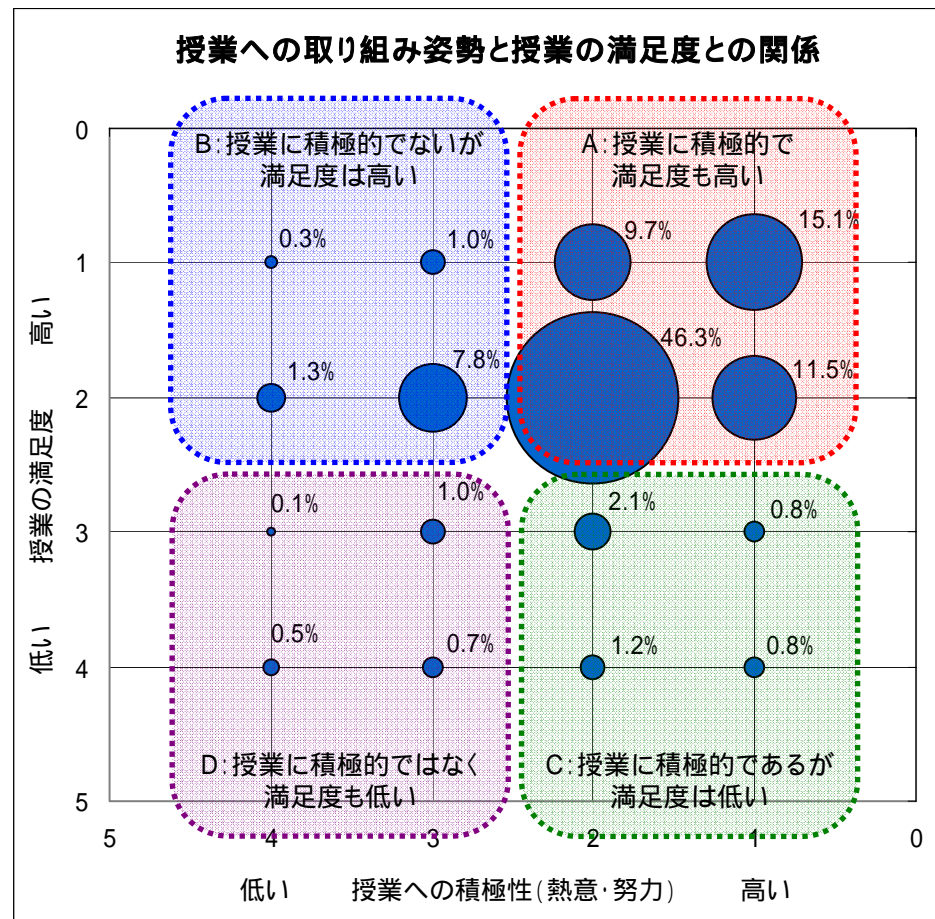


	1年次-春	秋	冬	2年次-春	秋	冬	3年次-春	秋	冬	4年次-春	秋	冬
▲ 現2年次生	92.0%	89.8%	90.5%	89.9%	92.3%	93.0%						
■ 現3年次生	90.1%	88.9%	88.7%	88.6%	90.1%	91.7%	91.7%	92.6%	94.7%			
● 現4年次生				86.6%	88.0%	89.4%	88.7%	90.7%	92.2%	95.1%	95.4%	95.2%

<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

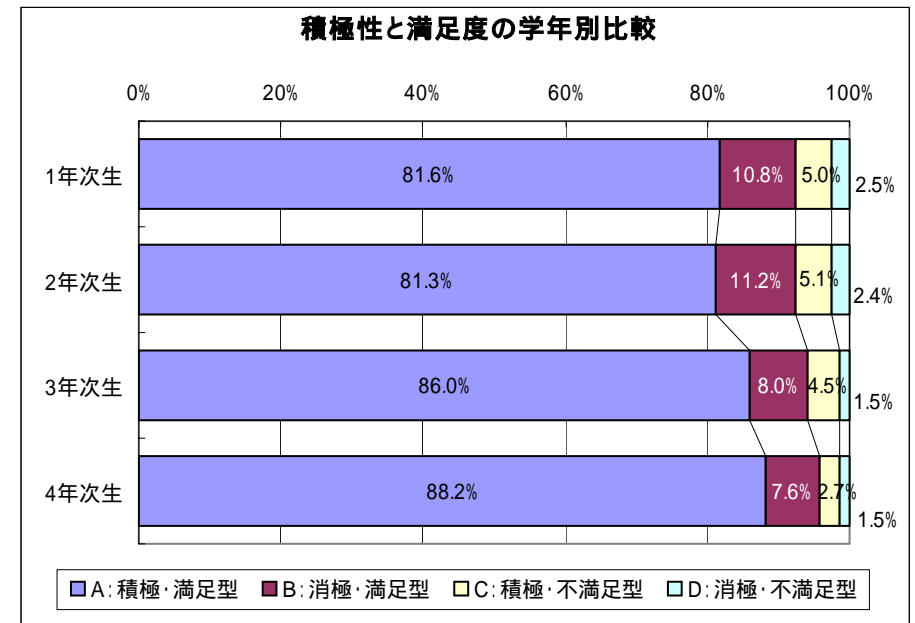
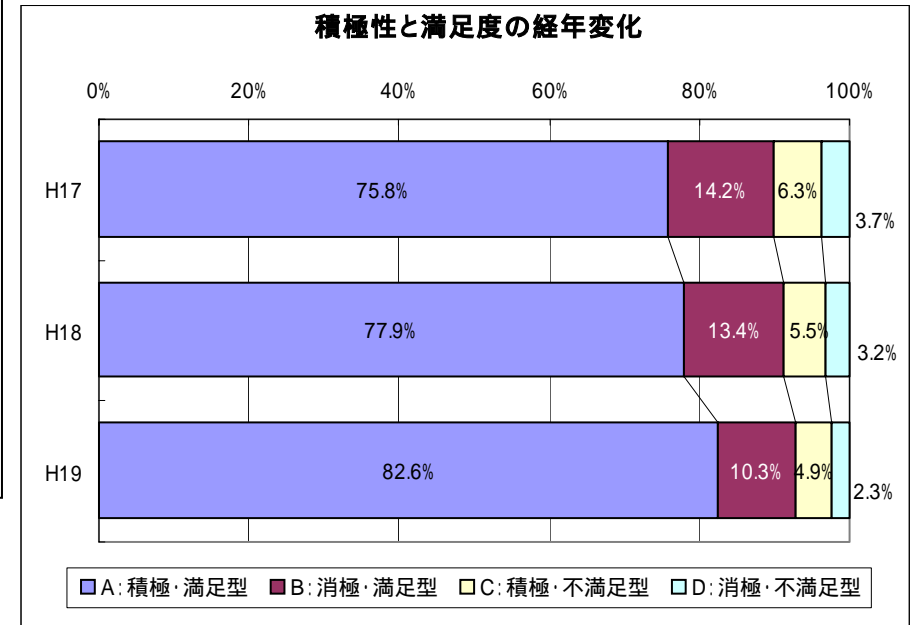
<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- まず、「A」の「授業に積極的で満足度も高い」という最も良い状態にある学生は全体の82.6%を占めていた。このグループが増加することが望ましいが、現段階で8割を占めており、状態は悪くないと言える。
- 「B」の「授業に積極的でないが満足度は高い」という学生は10.3%を占めていた。このグループは教員に引っぱられて授業についてきている層だと思われる。できれば積極性を持って自主的に授業を受けて欲しいところではあるが、大きな不満があるわけではなく、緊急で対処すべき課題とは言えない。
- 「C」の「授業に積極的であるが満足度は低い」という層は4.9%であった。この層は割合は少ないものの大きな課題を抱えており、「やる気はあるがついていけない」といったケースや、「前に進みたいが期待はずれを感じている」といった逆のケースも考えられ、学生個々の状況を見ながら慎重に対処する必要があると言える。
- 「D」の「授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は2.3%と少なかったが、この層を減らすことが最も大きなテーマになる。まず、学生に積極性を持たせることが必要であり、この層に対しても個別に対処していく必要がある。

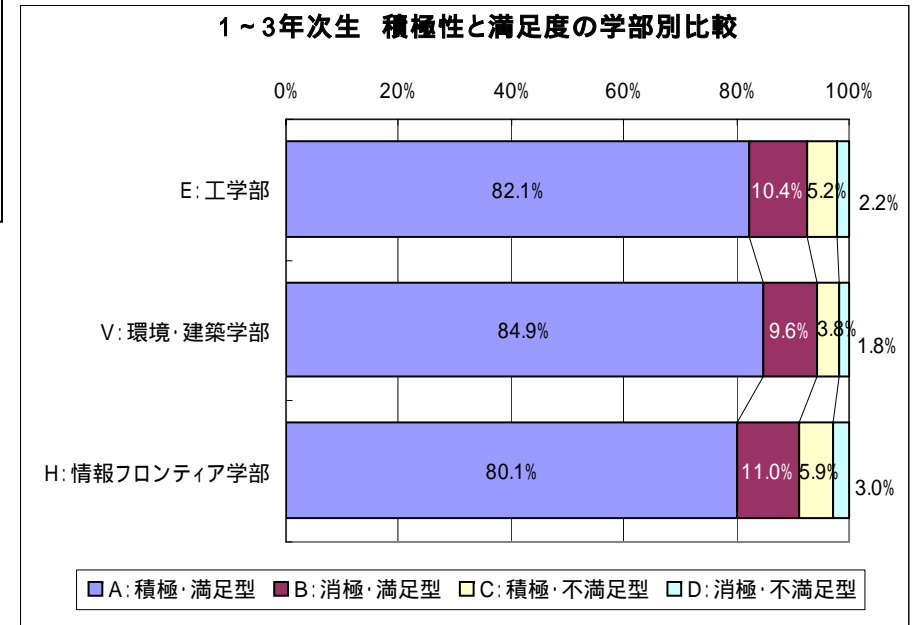


領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	82.6%	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業に積極的で満足度も高い。 ● 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。 	積極・満足型
B	10.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業に積極的でないが満足度は高い。 ● 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 ● 積極性を持ってもらいたい、無理強いをする必要までではないと思われる。 	消極・満足型
C	4.9%	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業に積極的であるが満足度は低い。 ● 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 ● 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。 	積極・不満足型
D	2.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業に積極的ではなく満足度も低い。 ● 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。 	消極・不満足型

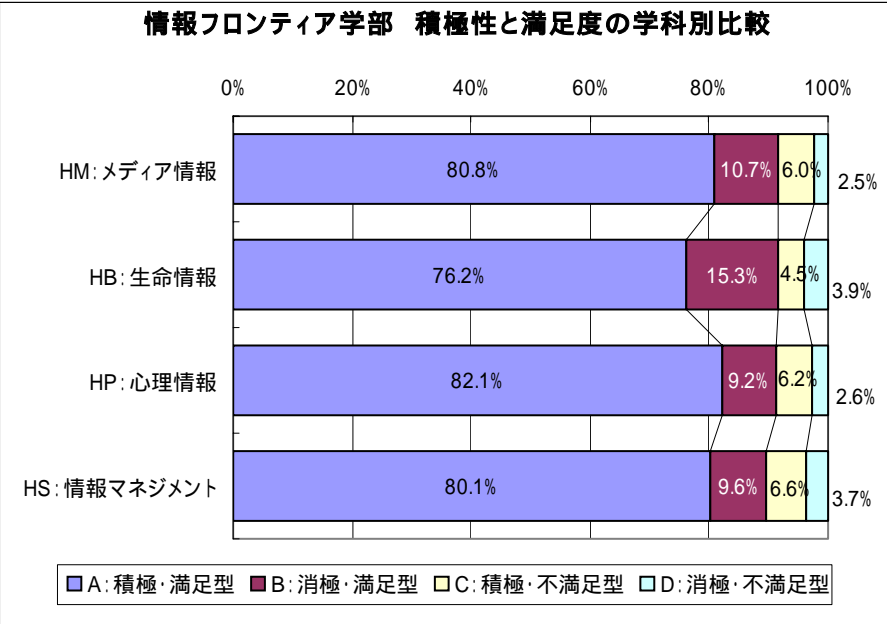
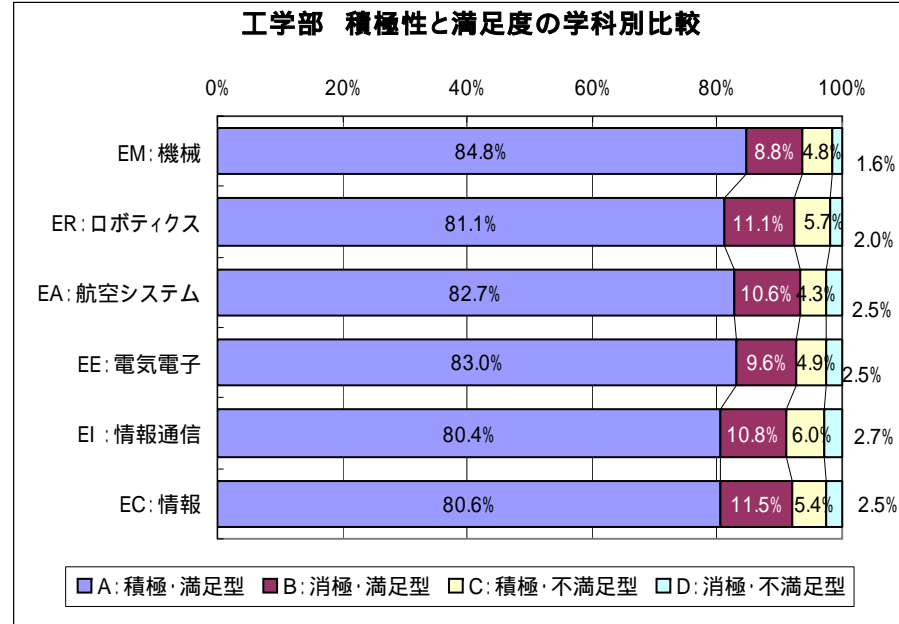
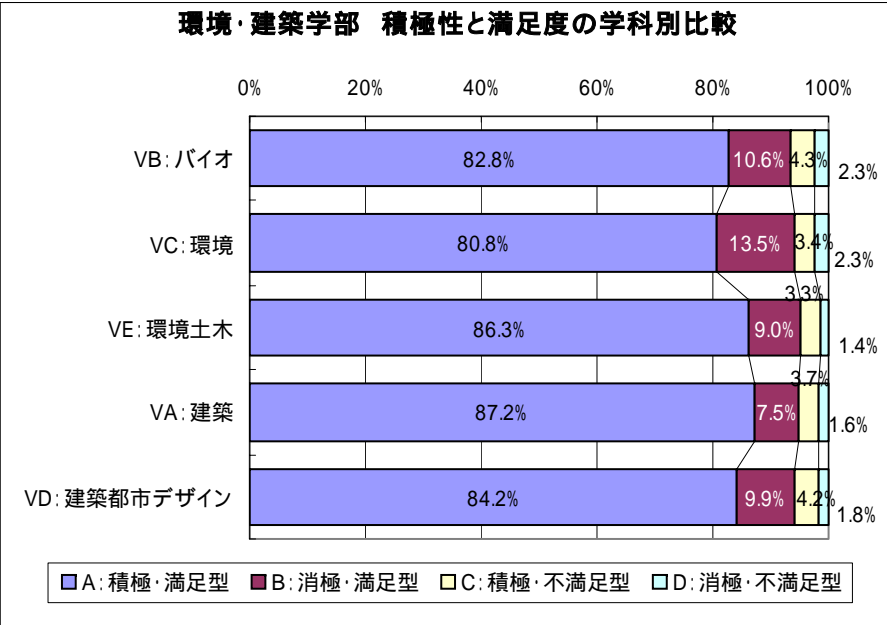
- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見たところ、「A:積極・満足型」が徐々に増加しており、全体としては非常に良い状態になってきていると言える。
- 「B:消極・満足型」「C:積極・不満足型」「D:消極・不満足型」はいずれも減少してきており、この3グループ合わせた17.5%が課題を持った学生と言え、H18の22.1%と比べて4.6ポイント減少していた。
- 学年別に比較したところ「A:積極・満足型」は「4年次生」で最も多く88.2%を占め、次いで「3年次生」(86.0%)、「1年次生」(81.6%)、「2年次生」(81.3%)という順であり、「1年次生」と「2年次生」はほぼ同じ割合であった。
- 前にも見たように「2年次生」でややモチベーションが下がる傾向があったが、この割合を見るとそれほど大きな課題を持っているとは言えない。



- 学部別の比較でも、ここまでに見てきたように「V:環境・建築学部」で「A:積極・満足型」が84.9%と最も多く、良い状態にあると言える。
- 次いで「E:工学部」で82.1%、「H:情報フロンティア学部」で80.1%と続いていた。
- 学部間の差はそれほど大きなものではなく、各学部共に8割以上の学生が良い状態にあると言える。



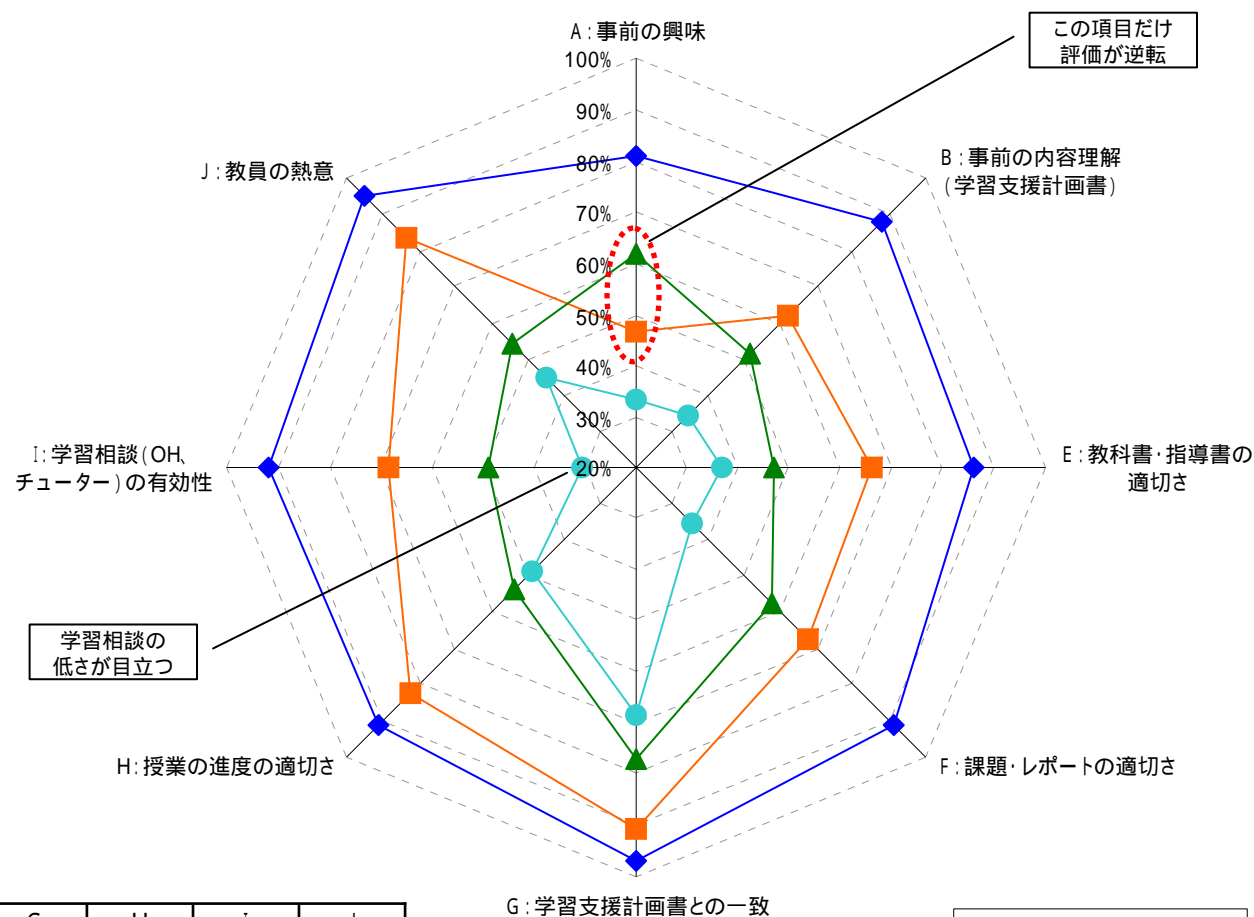
- 学科毎に比較したところ、「工学部」では「EM:機械学科」で「A:積極・満足型」が最も多く、「EE:電気電子学科」が続いていた。そして、「EI:情報通信学科」「EC:情報学科」で「A」の層がやや少なめであったが、全学科で8割以上の学生は良い状態にあった。
- 「環境・建築学部」では「VA:建築学科」で「A」の層が87.2%であり、全学科を通して最も多かった。そして、「VE:環境土木学科」が続いており、非常に充実していると思われる。
- 「情報フロンティア学部」では「HP:心理情報学科」で「A」が82.1%と最も多かった。一方、最も少なかったのは「HB:生命情報学科」の76.2%であり、これは全学科の中でも最も少なく、唯一70%台であった。



<7-2> 授業への取り組み姿勢比較

- 積極性と満足度の指標によるグループ毎に、他の設問にはどのように答えているかを確認した。
- 当然の結果であるが「A:積極・満足型」が全体的に評価が高かった。そして、それに次いでいたのが「B:消極・満足型」であり、消極的ではあるものの満足度が高いため、授業の評価も高くなっていることが分かった。
- そして、「C:積極・不満足型」が続いていたが、「A:事前の興味」だけは「B:消極・満足型」の評価と逆転している。「C:積極・不満足型」は授業に対して興味は持ち、それによって積極的に取り組んでいるものの、何らかの理由によって満足できていないという状況であり、ストレスもたまっているものと思われる。
- 「D:消極・不満足型」は全体的に評価が低いが、特に「I:学習相談の有効性」の低さが目立っており、学習相談をしっかりと活用できていないことが確認できた。

積極性と満足度の分類別比較レーダーチャート



積極性と満足度による比較

	A	B	E	F	G	H	I	J
A:積極・満足型	80.8%	88.0%	85.9%	91.1%	96.9%	91.4%	91.7%	95.2%
B:消極・満足型	46.4%	61.9%	66.1%	67.6%	90.5%	82.6%	68.4%	83.1%
C:積極・不満足型	61.6%	51.8%	47.0%	57.6%	76.9%	53.6%	49.0%	53.9%
D:消極・不満足型	33.1%	34.3%	36.7%	35.2%	68.5%	48.5%	30.7%	44.8%

< 8 > 因子分析・回帰分析による分析

< 8-1 > 因子分析による設問項目の関係性の確認

- 調査に使用した11の項目には互いに関係性の深い項目もあるため、それらを集約するために因子分析を利用した。また、満足度にどのような項目が寄与するかを回帰分析で調べる際には、相関の強い項目を含めることができないため、整理するために因子分析を行っている。なお、因子分析に使えない「D:予習・復習、課外学習活動」と、分析の目的変数である「K:この科目の満足度」は加えていない。
- 詳細は次項にあるが、いくつかの課題はあるものの下の表のように5つの因子を抽出した。
- 抽出された因子は「教員の熱意」「興味と事前理解」「授業の進め方」「教科書と課題」「本人の熱意」の5つであり、授業の評価はこれらの因子の組合せで説明できると考えられる。

因子	設問	因子の内容
第1因子 教員の熱意	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「J:授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか」 ◆ 「I:授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業、学習相談で教員の熱意を感じるという評価に関する因子。 ◆ 学生は授業だけでなく、学習相談からも教員の熱意を感じているという関係性があるものと思われる。
第2因子 興味と事前理解	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「A:受講前、この科目に興味はありましたか」 ◆ 「B:最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事前に学習支援計画書で内容を理解し、興味を持っていたかを示す因子。 ◆ いずれも授業の前から初期の評価を聞いている事柄であり、授業に臨む姿勢を現すものと言える。 ◆ また、興味と事前の理解は強い関係性があり、学習支援計画書も興味を持たせるための強力なツールだと言える。
第3因子 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「G:授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか」 ◆ 「H:授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習支援計画書に従って、理解しやすい進度で授業が進められていたかどうかを示す因子。 ◆ 学習支援計画書を活用して授業の進捗を確認しているといった関係性があると思われる。
第4因子 教科書と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「E:教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか」 ◆ 「F:課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教科書、課題など、学習サポートツール類の評価因子。 ◆ 寄与率は低く、それほど大きな因子とは言えないが、サポートツール類は関連して見ていると言える。
第5因子 本人の熱意	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「C:授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか」 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の熱意と努力のみの評価因子。 ◆ 他の項目との強い関係性は見いだせず、自分の熱意と努力は他とは独立しているものであり、外部からコントロールすることも難しいと言える。

一般的には因子の数を決定する際、「初期の固有値」が1.0以上、「固定値の累積%」が60～80%以上等の条件で因子を抽出するが、今回の結果では「初期の固有値」が1.0を超えたものは「第1因子(教員の熱意)」だけであるため、「累積の寄与率」で因子を決定した。

累積%で見ると「第1因子」～「第3因子」までで約70%となるので、ここまでは有効な因子とした。また、「第4因子」「第5因子」は固有値が小さいが累積%で81%となり、内容的に追加した方が良いと判断したため、5つの因子で分析を行った。

「回転後の因子行列」の表を見ても「第1因子」～「第3因子」までは因子負荷量がほぼ0.6を超えており問題ないが、「第4因子」「第5因子」では因子負荷量が0.4近辺であり、若干小さいと言える。しかし、今回は全体の傾向をつかむために「第5因子」までを対象としている。

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	4.610	51.217	51.217	4.195	46.612	46.612	1.364	15.158	15.158
2	.944	10.492	61.709	.468	5.196	51.808	1.351	15.011	30.169
3	.662	7.358	69.066	.162	1.797	53.605	1.326	14.734	44.903
4	.557	6.188	75.255	.121	1.348	54.952	.623	6.926	51.829
5	.519	5.767	81.022	.110	1.222	56.175	.378	4.199	56.028
6	.473	5.254	86.275	4.955E-02	.551	56.725	5.248E-02	.583	56.611
7	.426	4.737	91.012	2.514E-02	.279	57.005	2.884E-02	.320	56.932
8	.412	4.581	95.593	9.795E-03	.109	57.113	1.635E-02	.182	57.113
9	.397	4.407	100.000						

因子抽出法: 主因子法

回転後の因子行列^a

	因子							
	1	2	3	4	5	6	7	8
教員熱意	.619	.227	.374	.161	.141	-2.984E-02	-9.424E-02	-1.837E-02
学習相談	.619	.236	.287	.201	.158	5.927E-02	7.515E-02	2.210E-02
興味	.134	.638	.107	8.881E-02	.130	-6.514E-02	2.692E-03	1.465E-02
事前理解	.249	.619	.257	.238	7.237E-02	.172	-1.418E-03	-1.855E-02
支援計画	.321	.172	.617	.202	.230	7.735E-02	-7.113E-02	1.190E-02
授業進度	.387	.252	.584	.179	6.677E-02	-5.549E-02	9.546E-02	1.851E-05
教科書	.329	.311	.386	.475	.109	4.674E-02	-4.642E-03	-5.358E-02
課題	.339	.340	.343	.423	.293	-5.240E-02	1.030E-02	.109
本人熱意	.204	.385	.197	.125	.395	1.050E-02	7.091E-04	-8.244E-03

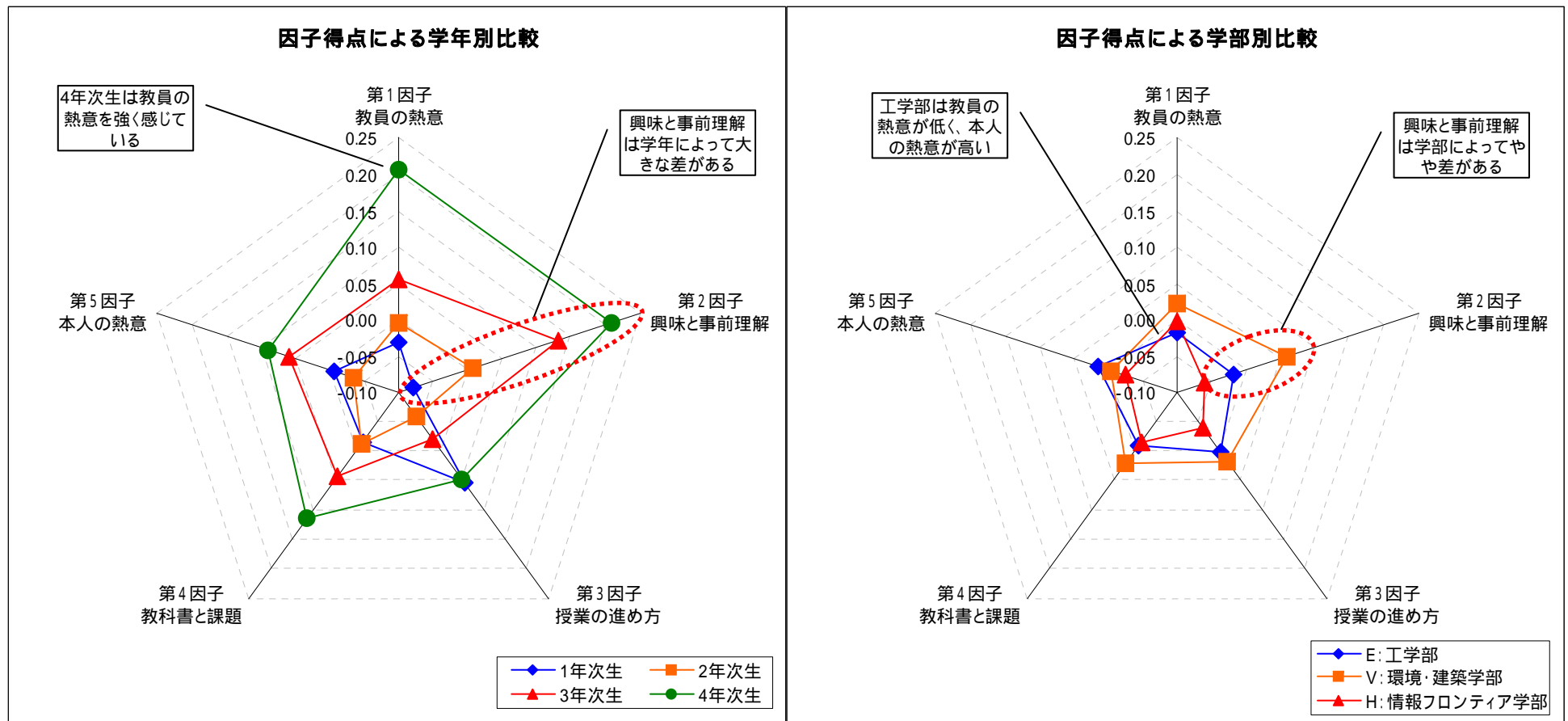
因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法

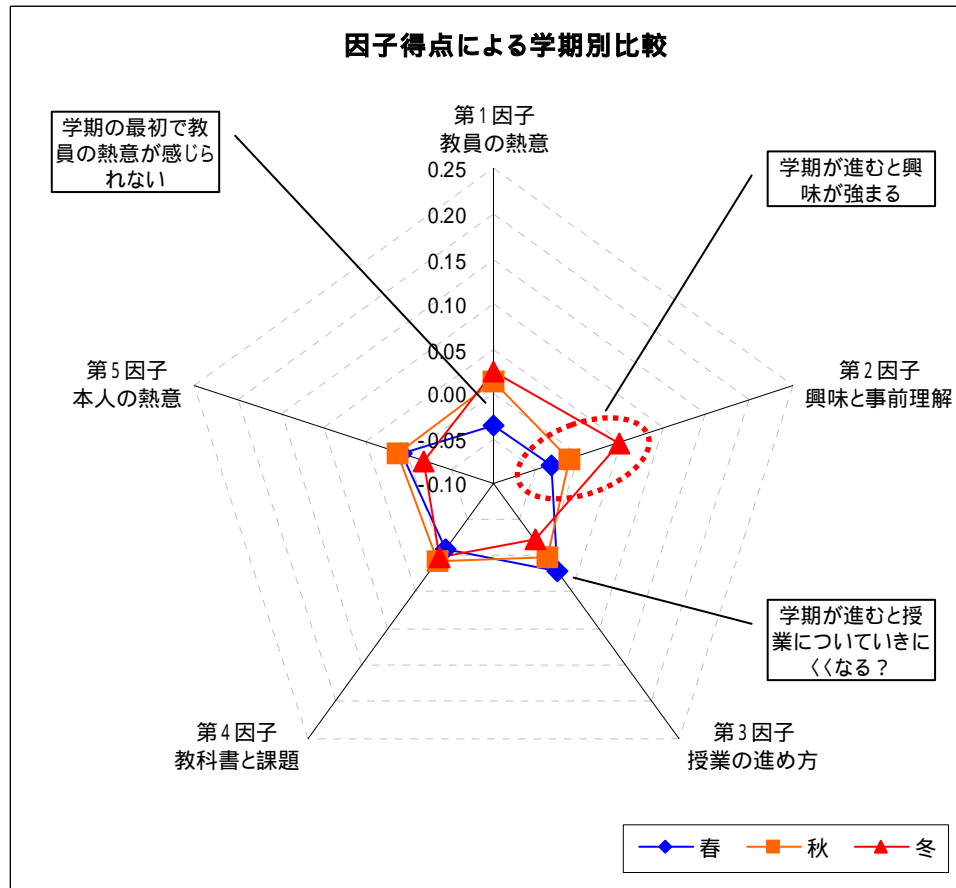
a. 7 回の反復で回転が収束しました。

< 8-2 > 因子得点による属性別比較

- 前項までの因子分析に付随して、各因子をどの程度持っているかを因子得点という形で計算しており、それが属性毎にどの程度異なるかを比較した。得点が高いほど評価が高いということになり、ここまで見てきた属性別比較をより大きな視点でくくって見たものと言える。
- 学年別に比較すると、「興味と事前理解」は学年によって大きな差が見られた。「興味」と「事前理解」の因果関係は分からないが、低学年ほど興味と事前理解が進んでおらず、この点を改善する必要があると言える。
- 4年次生は「教員の熱意」を強く感じているが、これは卒業研究などで教員に接することが多く、それらの機会に感じているものと思われる。そのように解釈すると、低学年でも授業だけではなく、まずは教員に接する機会を増やすことで熱意を感じるようになるものと思われる。
- 学部別に見ると学部間の差は学年別ほど大きくなかった。ただし、5つの因子の中ではやはり「興味と事前理解」はやや大きな差が見られ、学部によって授業を受ける前の興味や内容理解に差があると言える。
- 学部毎の特徴を見ると、前に見たように「V:環境・建築学部」が全体的に評価が高く、特に「興味と事前理解」が高い点が特徴である。また、「E:工学部」は「本人の熱意」が高い一方で「教員の熱意」が低い点が特徴と言える。



- 学期別の比較も学年別ほど大きなばらつきは見られなかったが、学期によるいくつかの特徴が見られた。
- 「春」学期では「教員の熱意」が低かった。新しい学年となって最初の頃は教員の顔ぶれも一気に変わるためか、教員への慣れがなくて熱意が感じられないという状況があるのではないかと思われる。この、学年の初期段階で、教員が熱意を持って学生に接することが満足度向上につながる1つのポイントになるのではないかと思われる。
- また、「興味と事前理解」と「授業の進め方」は学期が進むにつれて全く逆の傾向となっており、学期が進むと授業への「興味」は強くなっていくが、授業の「進め方」には不満が強くなる。これには内容が難しくなって進度に対する不満が大きくなるといった状況があるのではないかと思われる。



< 8-3 > 回帰分析による満足度向上の仕組みの分析

- 前章で授業を評価する際の5つの因子を抽出したが、それらの因子が「授業の満足度」にどのように影響しているかを分析した。分析に関しては「K:この科目の満足度」を目的変数とし、5つの因子の因子得点を説明変数とする回帰分析を行った。この場合の決定係数(R²乗)は0.472とそれほど高くないが、5つの因子で全体の47%ほどは説明できるということになる。
- 標準化係数が大きいものほど満足度の高さに寄与するものになるが、それを見ると第1因子の「教員の熱意」が0.398と最も大きく、「満足度を左右する最も大きな要因は、学習相談なども含めた教員の熱意である」と言うことができる。
- 次いで第3因子の「授業の進め方」と第2因子の「興味と事前理解」の標準化係数がほぼ同じであった。数値で比較すると「教員の熱意」の0.398に比べて6割ほどの0.240であり、満足度に対する「授業の進め方」と「興味と事前理解」の影響は「教員の熱意」の約6割程度と言うことができる。
- 第4因子の「教科書と課題」は0.086、第5因子の「本人の熱意」は0.034と、係数が小さいことが分かった。これより「教科書・指導書の内容」と「本人の熱意と努力」は最終的な授業の満足度にそれほど影響していないと言うことができる。

 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	3.251	.002		1384.653	.000
第1因子: 教員の熱意	.337	.004	.398	90.145	.000
第2因子: 興味と事前理解	.187	.003	.233	55.761	.000
第3因子: 授業の進め方	.207	.004	.240	52.579	.000
第4因子: 教科書と課題	9.253E-02	.005	.086	19.460	.000
第5因子: 本人の熱意	4.227E-02	.005	.034	7.952	.000

この3項目が満足度に影響しているが「教員の熱意」の影響が最も大きい

この2項目の評価は満足度にはあまり影響しない

a. 従属変数: 満足度

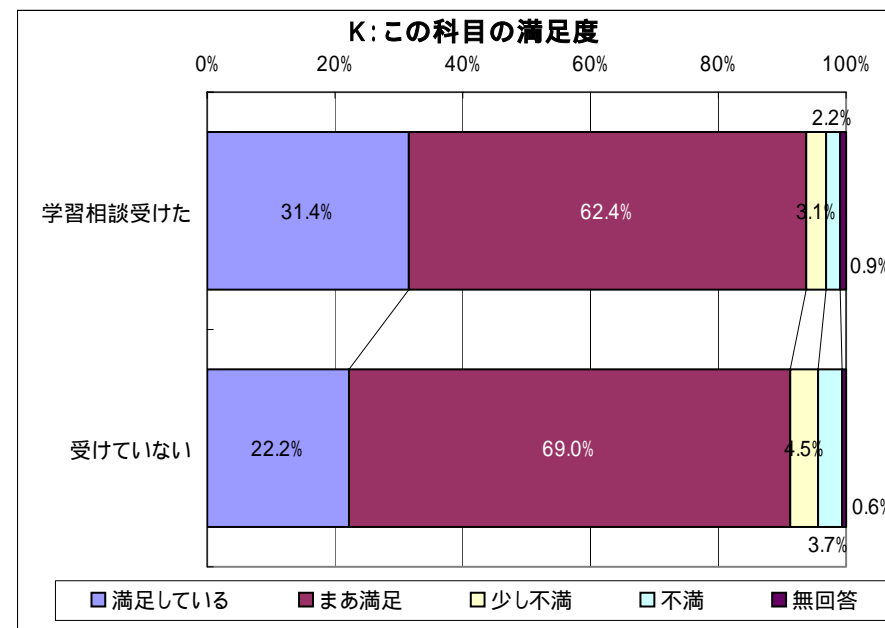
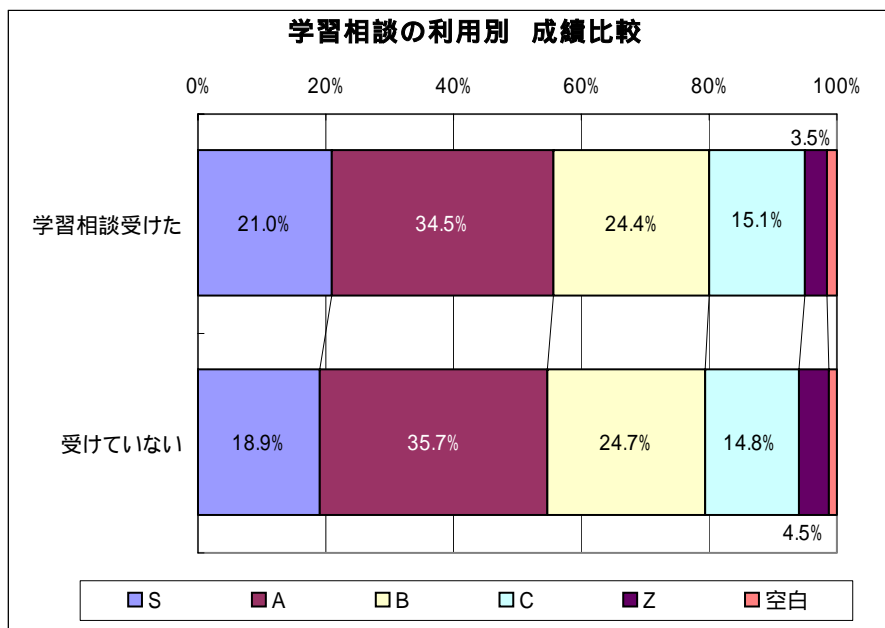
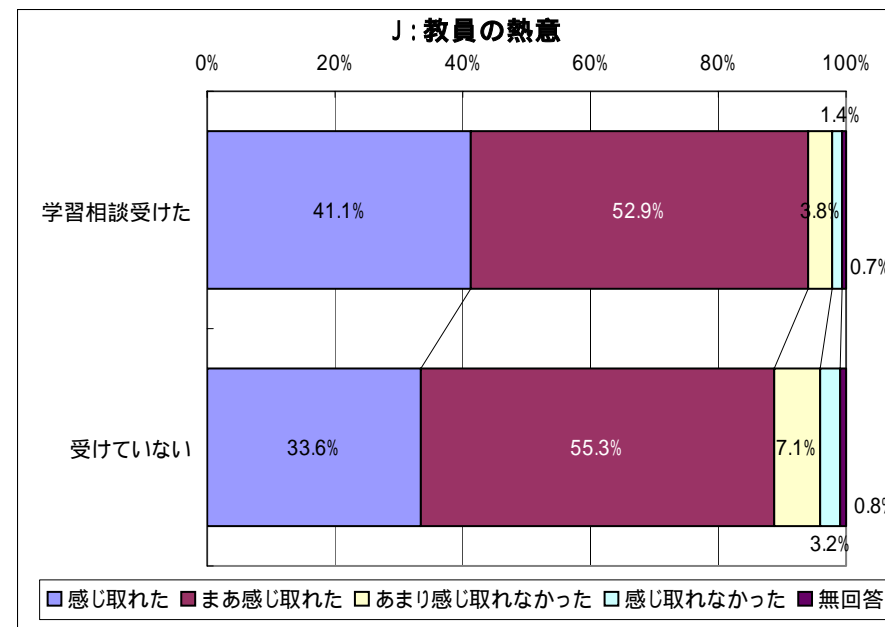
モデル集計

モデル	R	R ² 乗	調整済みR ² 乗	推定値の標準誤差
1	.687 ^a	.472	.472	.439

a. 予測値: (定数)、第5因子: 本人の熱意、第1因子: 教員の熱意、第2因子: 興味と事前理解、第4因子: 教科書と課題、第3因子: 授業の進め方。

< 8-4 > 学習相談の有無による意識の違いの確認

- 前項までの分析で、「学習相談を通じて教員の熱意を感じており、学習相談の有無も授業満足度に大きく影響している」という傾向が見られたため、学習相談の有無による差を確認した。
- 成績の比較を見ると、学習相談を受けたか否かによって成績に大きな差が出るわけではなく、学習相談を受けた学生の方がわずかに成績が良いという傾向が見られた。これから考えると、「学習につまずいている学生が学習相談を受けているわけではなく、学習相談を受けることでより理解を深め、結果として成績が上がっている」と言うことができる。
- これまでに導かれた結果から考えると、当然ではあるが「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」についても学習相談を受けた学生に肯定的な意見が多く見られ、「学習相談を受けている学生は教員の熱意を感じており、最終的な授業の満足度も高い」と言えることが確認できた。



< 9 > 全体のまとめ

< 9-1 > 基本的な分析で分かったこと

今回の全体傾向、経年変化、学年別比較、同一学生群の分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

授業に満足している学生は92.1%と大多数を占め、授業をサポートするツール類などに対しても8割は満足していたが、「学習相談」の利用率だけは4割と、やや低かった。

- ◆ 授業に満足している学生は全体の92.1%を占めていた。
- ◆ 授業に対して熱意を持って努力をしていた学生は85.4%で、授業を通して教員の熱意を感じていた学生は90.6%であり、学生、教員共に熱意を持って授業に取り組んでいたと言える。
- ◆ 「学習支援計画書」や「教科書」「課題・レポート」など、授業をサポートするツール類に対しても、肯定的な意見は8割以上を占めていた。
- ◆ 「学習相談」にも利用者の9割は満足していたが、利用者自体は全体の4割程度にとどまっていた。

【経年変化で確認できた事】

「授業の満足度」をはじめとして、ほとんどの項目で年々、肯定的な意見が増加しており、今まで最も良い結果となった。特に今回は「事前の興味」が強くなっていた。

- ◆ 授業に対する満足度は、H15より4年連続で向上しており、第一回目調査の86.2%から5.9ポイント上がっている。
- ◆ 他のほとんどの質問でも肯定的な意見が増加してきており、今回の調査結果は今まで最も良い結果となっていた。
- ◆ 前回と比較すると「事前の興味」が最も向上しており、上昇幅は4.7ポイントであった。
- ◆ 「学習相談」の利用者の割合も徐々に増加しており、利用者の評価もわずかずつであるが向上していた。

【学年別比較で確認できた事】

「1年次生」から「2年次生」にかけてモチベーション低下があるが、「3年次生」では学習面で非常に忙しく、充実している状況がうかがえ、「4年次生」で教員との接点が増加している。

- ◆ 学年別には「1年次生」から「2年次生」にかけてほとんどの項目の評価が下がっており、モチベーションの低下がうかがえる。
- ◆ 「2年次生」から「3年次生」にかけては全体的に肯定的な意見が増加している。特に「予習・復習、課題活動」の時間は一気に増加しており、勉強にしっかり取り組み、忙しくしている状況がうかがえる。
- ◆ 「授業の満足度」をはじめとして「4年次生」はわずかであるがほとんどの項目で「3年次生」を上回っていた。しかし、回答数は少なく、再履修などによる慣れもあるものと思われる。ただし、「教員の熱意」を感じる声は他学年と大きな差があり、教員に接する機会が多いことが分かった。

【同一学生群で確認できた事】

同一学生群の変化を見ると、基本的には学期、学年が進むほど充実感が増しているが、入学直後から1年間はやや気のゆるみも感じられる。

- ◆ 同一学生群の意識変化を追うと、基本的には学期が進むほど、また、学年が上がるほどモチベーションがアップし、充実してきていると言える。
- ◆ 「授業に対する事前の興味」「教員の熱意」などは入学直後から継続的に上がってきており、良い状態にあると言える。
- ◆ 入学した安堵感からか「自分の熱意と努力」は入学直後から1年間は低下する学生群もあった。また、「授業の満足度」は入学直後から非常に高いものの、1年次生の間は横這いか低下となっている。
- ◆ 「学習相談」の利用率も入学後から1年間は一気に下がっているが、2年次生から急激に増加しており、必要性に気づいたものと思われる。

【学部別比較で確認できた事】

差は小さいが全ての面で「環境・建築学部」の授業評価が高く、次いで「工学部」「情報フロンティア学部」の順であり、「事前の興味」と「学習相談の利用率」で差がやや大きかった。

- ◆ 差はそれほど大きくはないが、全ての項目で「環境・建築学部」が最も授業を高く評価しており、充実感がうかがえた。
- ◆ 次いで「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。
- ◆ 「事前の興味」は「環境・建築学部」と「情報フロンティア学部」の間で差が大きく、8.2ポイントの差が見られた。また、「学習相談の利用率」も差が大きく、「環境・建築学部」と「情報フロンティア学部」間で7.7ポイント、「工学部」間では8.5ポイントの差が見られた。
- ◆ 「授業の満足度」も差はあったが、その差はわずかであり、いずれの学部でも9割以上の学生が満足していた。

【学科別比較で確認できた事】

「環境・建築学部」では「建築学科」をはじめとした建築系の学科で授業の評価が高く、「工学部」では「機械学科」の評価がやや高い。「情報フロンティア学部」では「生命情報学科」で低い点が見られた。

- ◆ 「工学部」では学科間の差は小さいが、「事前の興味」「課題・レポートの適切さ」において「情報学科」がやや低く、「自分の熱意と努力」「教科書・指導書の適切さ」においては「機械学科」がやや高めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」では学科間でややばらつきがあり、「建築学科」の評価が全体的に高く、「VE:環境土木」「VD:建築都市デザイン」もやや高めであり、建築に近い学科が充実している状況がうかがえた。
- ◆ 学部別で評価が低かった「情報フロンティア学部」では、特に「生命情報学科」が「自分の熱意と努力」「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」に対して非常に厳しい評価をしていた。

【科目区分別比較で確認できた事】

科目区分別には「専門プロジェクト」「生涯スポーツ」「進路セミナー」「人文社会科学」「外国語科目」の評価が高く、「工学基礎科目」「専門基礎科目」の評価が低めであった。

- ◆ 科目区分別に比較すると、「事前の興味」の差が非常に大きい点が目立っており、「専門プロジェクト」「進路セミナー」などに興味を持っており、「修学基礎科目」「工学基礎科目」には興味を持っていないことが分かった。
- ◆ 一般系の科目では「授業の満足度」に差は見られなかったが、専門系では差があり、「専門プロジェクト」が高く、「工学基礎科目」が低かった。
- ◆ 全体的に「専門プロジェクト」「生涯スポーツ」「進路セミナー」「人文社会科学」「外国語科目」の評価が高く、「工学基礎科目」「専門基礎科目」の低さが目立っていた。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は昨年より4.7ポイント増加して82.6%であり、「環境・建築学部」に多く、特に「建築学科」で多かった。そして、積極的だが満足感が得られない層は4.9%であった。

- ◆ 積極性と満足度の指標で見ると、最も良い状態である「積極・満足型」が82.6%で、昨年より4.7ポイント増加していた。
- ◆ 積極的だが満足が得られないという、複雑な課題を抱えた層が4.9%、消極的で満足できていないという大きな課題を持つ層が2.3%であった。
- ◆ 「積極・満足型」は学年では「2年次生」でやや少ない。学部では「環境・建築学部」で最も多く、学科では「建築学科」で87.2%と最も多かった。
- ◆ 対応の難しい「積極・不満足型」は、授業に対する興味は持ち、それによって積極的に取り組んでいるものの、何らかの理由で満足感が得られていない状況であろうと思われる。

【因子の抽出から確認できた事】

学生にとっては授業だけでなく、学習相談も教員の熱意を感じる機会となる。また、「興味」と「事前の内容理解」には関係性があり、興味を持たせる際には学習支援計画書なども重要と言える。

- ◆ 「教員の熱意」と「学習相談」の評価は1因子としてまとめることができ、学習相談でも教員の熱意を感じているという関係性があるようであった。
- ◆ 「授業への興味」と「事前の内容理解」は1因子としてまとめられ、因果関係は不明であるが、興味を持たせるためには内容理解の促進が重要なポイントであり、学習支援計画書の内容にも影響を受けそうであった。
- ◆ 「学習支援計画書に沿った授業の進め方と進度」「教科書や課題、レポートなどのサポートツールの評価」といった因子も見つかった。
- ◆ 「自分の熱意と努力」に関係する項目はなく、ここで挙げられた項目で熱意や努力と相関関係にあるものはなかった。

【属性別の因子得点比較から確認できた事】

低学年ほど「興味と事前理解」が低いことから、新入生の最初の授業での内容説明には更に力を入れる必要があると言える。また、春学期に学生に熱意が伝わっていないケースが多いと思われる。

- ◆ 学年による比較では「興味と事前理解」によって大きな差があり、低学年はこの因子の得点が非常に低いことが特徴と言える。また、4年次生は研究室に属しているためか、教員の熱意を強く感じていた。
- ◆ 学部によっても「興味と事前理解」で少し差が見られ、「環境・建築学部」の得点が高い。また、学部同士の相对比较では「工学部」は本人の熱意はやや高いが、教員の熱意はあまり感じられないと答えていた。
- ◆ 「教員の熱意」の評価は学期が進むと高まっており、評価の低い「春」学期で、教員が熱意を持って接することが必要と言える。

【回帰分析から確認できた事】

満足度を左右する最も大きな要因は、学習相談なども含めた「教員の熱意」であり、影響はやや小さいが「授業の進め方」と「興味と事前理解」も影響していることが分かった。

- ◆ 標準化係数が大きいものほど満足度の高さに寄与するものになるが、第1因子の「教員の熱意」が最も大きく、「満足度を左右する最も大きな要因は、学習相談なども含めた教員の熱意である」と言うことができる。
- ◆ 次いで「授業の進め方」と「興味と事前理解」の影響が同程度であった。数値で比較すると、「授業の進め方」と「興味と事前理解」の影響は、「教員の熱意」の約6割程度と言うことができる。
- ◆ 「教科書・指導書の内容」と「本人の熱意と努力」は、最終的な授業の満足度にそれほど影響していないようであった。

【学習相談を受ける層の確認】

学習につまずいている学生が学習相談を受けているわけではなく、学習相談を受けている学生はそこからも教員の熱意を感じており、最終的な授業の満足度も高いと言える

- ◆ 学習相談を受けたか否かによって成績に大きな差が出るわけではなく、学習相談を受けた学生の方がわずかに成績が良いという傾向が見られた。これから考えると、「学習につまずいている学生が学習相談を受けているわけではなく、学習相談を受けることでより理解を深め、結果として成績が上がっている」と言うことができる。
- ◆ 「教員の熱意」「この科目の満足度」の評価では、学習相談を受けた学生に肯定的な意見が多く見られ、「学習相談を受けている学生は教員の熱意を感じており、最終的な授業の満足度も高い」と言うことができる。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記ようになる。

【現段階の授業に対する満足状況】

- 92.1%の学生が授業に満足しており、サポートツール類などに対しても8割は満足していた。ただし、学習相談の利用率だけは4割と、やや低かった。
- 授業満足度をはじめとして、ほとんどの項目で年々評価が上がり、今まで最も良かった。特に今回は「事前の興味」が強くなっていた。
- 1年次生から2年次生にかけてモチベーション低下があるが、3年次生では学習面で非常に忙しく、充実している状況がうかがえ、4年次生で教員との接点が増加している。
- 同一学生群の変化を見ると、基本的には学期、学年が進むほど充実感が増しているが、入学直後から1年間はやや気のゆるみも感じられる。
- 「環境・建築学部」が全般的に高く、特に「事前の興味」「学習相談の利用率」が高めであった。

【授業満足度の構造】

- 学生にとっては授業だけでなく、学習相談も教員の熱意を感じる重要な機会となる。
- 「興味」と「事前の内容理解」には関係性があり、興味を持たせるためには最初の授業での説明や学習支援計画書などが重要と言える。
- 低学年ほど「興味と事前理解」が低いことから、新入生の授業の内容説明には更に力を入れる必要があると言える。
- 満足度を左右する最も大きな要因は学習相談なども含めた「教員の熱意」であり、影響はやや小さいが「授業の進め方」と「興味と事前理解」も影響していることが分かった。
- 学習につまずいている学生が学習相談を受けているわけではなく、学習相談を受けている学生はそこから教員の熱意を感じており、最終的な授業の満足度も高いということが言える

- ❖ 年々、学生の満足度が増しており、今回は特に「興味」が強くなっているなど、基本的には良くなる方向に向かっており、緊急で対処すべき点はないと言える。
- ❖ しかし、「学生自身の熱意や努力」といった自分の達成感によって満足度が得られているのではなく、「教員の熱意」によって満足度が大きく左右されるという点を見ると、学生自身に自律性がなく、教員に導かれるままになっていると考えられ、気になる点である。
- ❖ 現在は教員の熱意で学生を導くということで上手く回転しているが、教員の導きが学生の自律的な行動を促し、学生自身の達成感によって満足度を得るというサイクルに変えていくという工夫も必要ではないかと思われる。

(ただし、限られた設問の中での数値的な処理による解釈であり、更に学生の実態把握を続け、満足度が上がる構造を調べていく必要はあると言える。)

今回のサマリーより、今後の施策として下記のようなものが考えられる。

今後の施策	内容
<p>教員の熱意と満足度との関係を更に詳しく解明し、満足度向上の方向性を探る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在、学生の満足度は授業や学習相談などでの教員の熱意に大きく左右されているという状況が見られたが、その満足度形成の構造の解明を更に進める。 ◆ 現在の分析は限られた設問の中での仮説であり、学習相談に関しては利用者が4割程度しかなく、学生全体の意見とは言いきれない面もあるため、インタビューなどを通じて更に分析を進め、授業満足度がどのように変わっていくのかを把握し、授業改善に役立てる。
<p>学習相談の利用率の向上策を検討し、内容的な充実も図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 仮説ではあるが、学習相談を受けている学生はそこで教員の熱意を感じており、授業満足度も高いという傾向がうかがえ、学習相談の利用率を上げることが授業満足度の向上につながると考えられる。 ◆ まず、4割にとどまっている利用率の向上策を検討する必要がある。利用が低迷している理由として、「利用する必要がないと考えている」「利用自体がしにくい」「内容に不満がある」といった理由が考えられるが、その理由をしっかりと把握し、利用促進策を考える。 ◆ 利用者の満足度は現在でも高いが、更に満足度が上がるように内容の充実も行っていく。
<p>授業に興味を持たせることで学生が自律的に学習する環境を作り出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学生自身が授業を受ける姿勢である「授業に対する興味と事前理解」も満足度に影響しており、この部分を高めることで教員の熱意だけではなく自律的に学習し、それが達成感、満足感につながるという構造も考えられる。そのためにはまず、「興味」を高める施策を検討する。 ◆ 「興味」と「事前の内容理解」は強い関係にあるため、事前理解を深める方策として「興味を抱かせる手段としての学習支援計画書の充実」や「最初の授業での概要説明の充実」といった施策が考えられる。 ◆ 「学生はどのようにして興味を持つのか」「どのような点に興味を持つのか」といった点は情報が不足している面もあるため、更なる情報収集を続ける必要もある。
<p>1年次生の学期毎のモチベーションの低下の要因を探り、この低下を防ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ どの学生群でも1年次生で学期毎にモチベーションが下がっているが、この原因を究明する必要がある。特に「学習相談」の利用率が明らかに低下しており、これが「教員との接点の減少」「教員の熱意を感じる機会の減少」につながっていると考えられるため、しっかりと現状を把握する必要がある。 ◆ 1年次生は「興味」と「事前の内容理解」も低く、大学の授業のあり方や進め方への理解が進んでいないものと思われる。それを改善するためには、1年次生の場合は特に丁寧に「最初の授業での概要説明」を行う必要があると思われる。